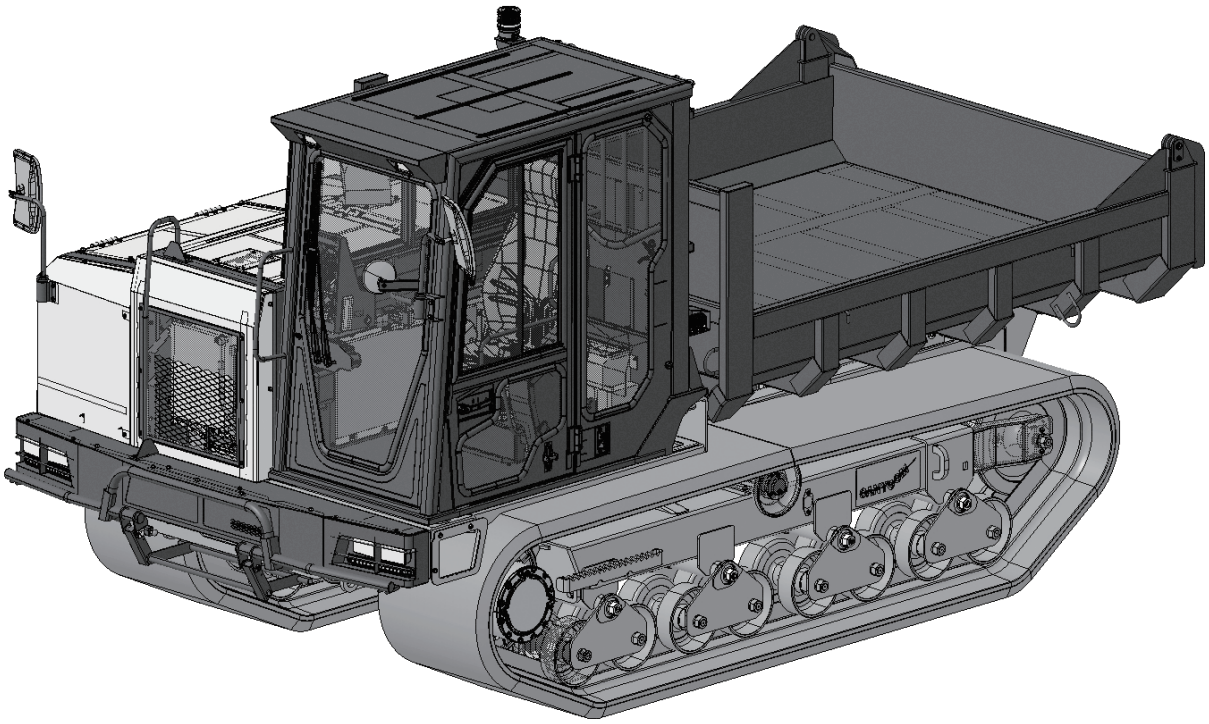
CANYCOM

不整地運搬車プンダ・シリーズ

Ｓ５００Ｖ

取扱説明書



・ご使用の前に必ずお読みください。

36AB 5501 001 00

株式会社 筑水キャニコム

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。
また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。
なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

⚠ 警　告

- 本書を必ず読んで内容を理解してから本製品の運転および保守・点検を行ってください。
- 本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- 本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

⚠ 警　告

- 本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- 本製品は建設用の運搬車です。それ以外の用途では使用しないでください。
- 本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。
- 本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

事業者の皆様へ

⚠ 注　意

・本製品は、労働安全衛生法施行令で定める不整地運搬車に該当します。本製品の運転には、不整地運搬車運転技能講習の修了が必要です。また、不整地運搬車は日常点検、定期自主点検、特定自主点検が義務付けられています。なお、定期自主点検記録は３年間保存してください。

リース（レンタル）業者の皆様へ

⚠ 注　意

・本製品を他の事業者または個人に貸し出す際には、取り扱い方法を明確に説明し、使用の前に本書を必ず読むよう指導してください。

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警　告　用　語	意　味
⚠ 危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠ 警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

保証とアフターサービスについて

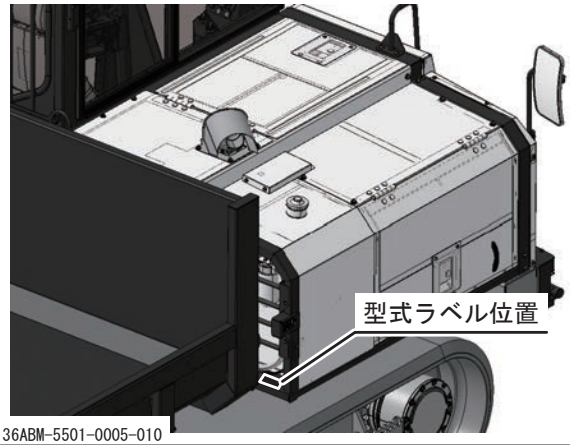
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

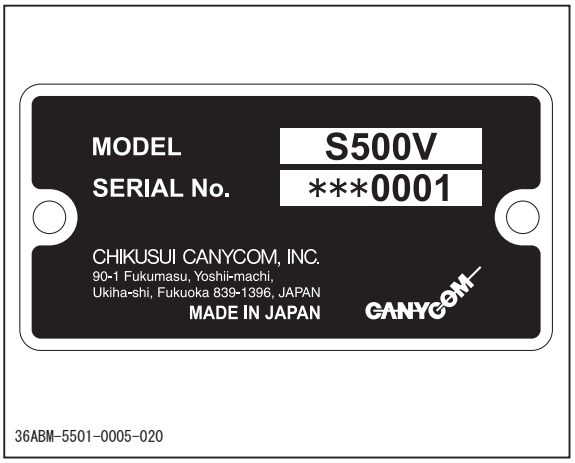
アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の**「本製品の仕様」**を参照してください。（☞21ページ）

型式ラベル位置



型式ラベル



補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年とします。

排ガス規制ラベルについて

基準適合表示マークです。
規制適用日以降に制作または輸入された特定特殊自動車は、基準適合表示等が付されたものでなければ日本国内で使用できません。

目　次

1．安全に関する注意事項　1

本製品に添付してある警告ラベルについて ･････････････ 1

安全機構について ･････････････････････････････ 6

安全運転・作業のための心得 ････････････････････ 7

運転前の心得 ･･ 7
走行時の心得 ･･ 8
積載時の心得 ･･11
駐車時の心得 ･･11
整備時の心得 ･･12

2．各部の名称とはたらき　13

各部の名称とはたらき ･････････････････････････ 13

3．製品仕様　21

本製品の仕様 ･････････････････････････････････ 21

付属品明細 ･･･････････････････････････････････ 23

4．運転と操作　24

運転前の準備 ･････････････････････････････････ 24

始業点検 ･･･24
燃料の点検と補給 ･････････････････････････････････････24
シートの調節 ･･･25
ミラーの調節 ･･･26
シートベルト ･･･26

運転のしかた ･･････････････････････････････････ 27
始動のしかた ･･27
運転のしかた ･･31
停止のしかた ･･34
緊急停止 ･･35
駐車の仕方 ･･36
作業の仕方 ････････････････････････････････････ 38
ダンプ操作 ･･38
荷台落下防止棒の使い方 ･･････････････････････････････････39
緊急ダンプバルブの使い方 ････････････････････････････････40
キャビン ･･････････････････････････････････････ 41
エアコン ･･41
緊急装備 ･･42
警告ブザー ････････････････････････････････････ 43
ディスプレイ操作のしかた−ディスプレイ１･･････････ 44
スイッチ ･･44
ホーム画面 ･･45
メンテナンス画面 ･･47
現在エラー画面 ･･48
過去エラー画面 ･･50
設定画面 ･･51
データ表示画面 ･･52
ディスプレイ操作のしかた−ディスプレイ２･･････････ 58
ホーム画面 ･･58
設定画面 ･･58
５．保守・お手入れ 59
定期点検表 ････････････････････････････････････ 59
給油・給水一覧表 ･･････････････････････････････ 64

給脂・注油一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

フロンガス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

簡易点検の実施 ・・・66
お客様簡易点検記録表 ・・・67

消耗部品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68

カバーの開け方及び取り外し方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

メンテナンスラダー ・・69
エンジンカバー ・・・70
サイドドア ・・・71
サイドカバー ・・・71
リアグリル ・・・72

エンジン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74

エンジンオイルの点検・補給・交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
オイルフィルタカートリッジ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
エアクリーナ ・・・76
エンジン冷却液 ・・・77
ファンベルト ・・・79
排出ガス洗浄装置（ＤＰＦ）再生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
尿素水ＳＣＲシステム ・・・83

燃料系統 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84

フューエルフィルタカートリッジ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
燃料系統のエア抜き ・・86
ウォータセパレータの水の排出 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
燃料タンクの水抜き ・・87

走行装置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88

クローラ張り調整・取り付け ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
ＨＳＴ作動油の点検・補給・交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
走行モータ潤滑油の交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
コンプレッサーベルト ・・・95

キャビン ……………………………… 96
ミラーとカメラの清掃 ……………………………… 96
電装品 ……………………………… 97
バッテリ ……………………………… 97
ヒューズの点検・交換 ……………………………… 99
スローブローヒューズの点検・交換 ……………………………… 102
ライト ……………………………… 103
エアコン（ＡＣ）ユニット ……………………………… 103
使用後のお手入れ ……………………………… 104
通常使用後のお手入れ ……………………………… 104
寒冷期使用後のお手入れ ……………………………… 104
洗車時の注意 ……………………………… 105
長期保管のしかた ……………………………… 106

６．不具合発生時の処置 108

不具合診断表 ……………………………… 108

７．本製品の移送 113

トラックへの積み降ろし要領 ……………………………… 113
クレーン等による吊り上げ要領 ……………………………… 115
けん引 ……………………………… 117

保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

・エンジン取扱説明書

※本書とあわせて必ずお読みください。

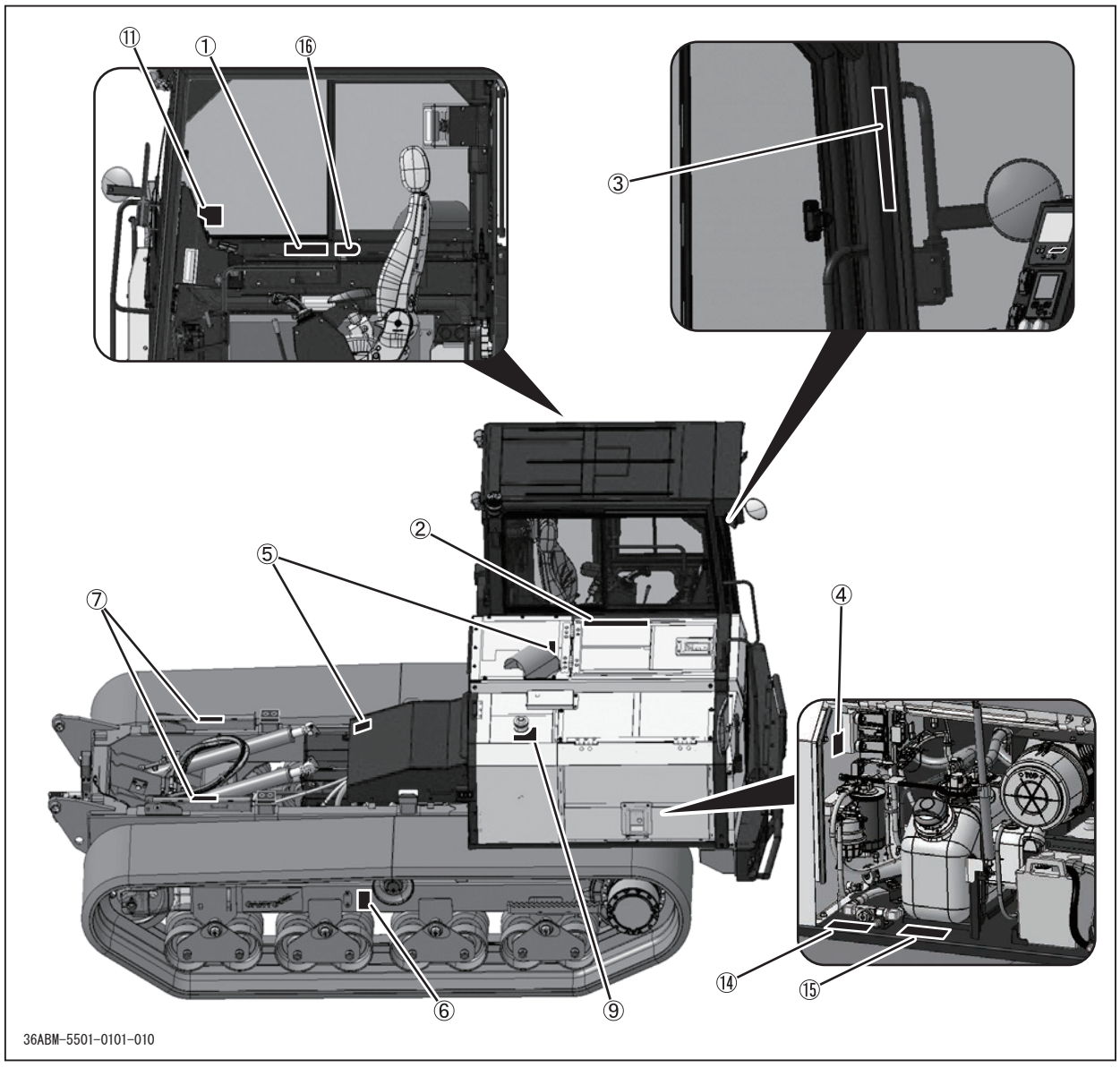
本製品に添付してある警告ラベルについて

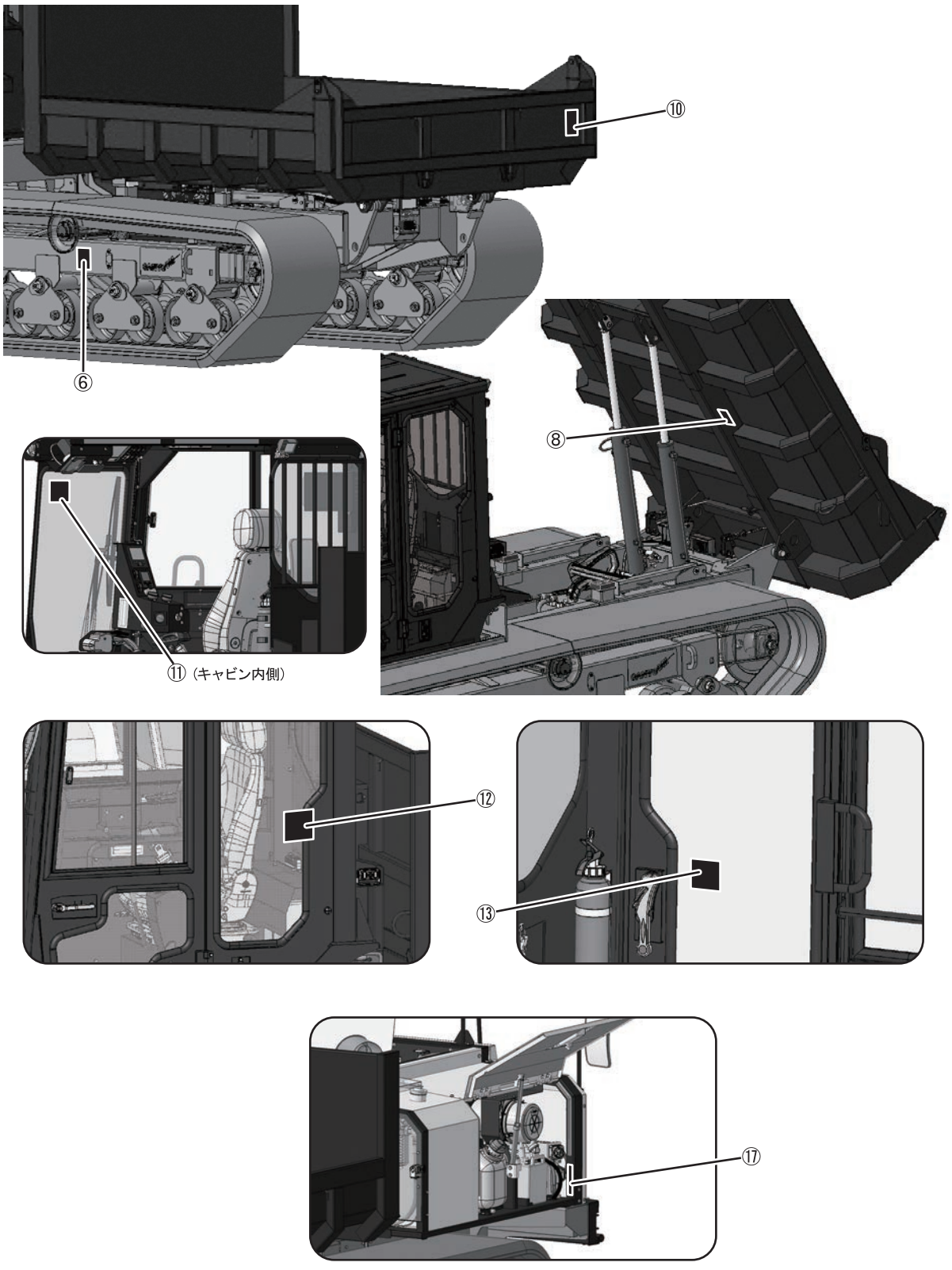
本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。
この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

・警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。

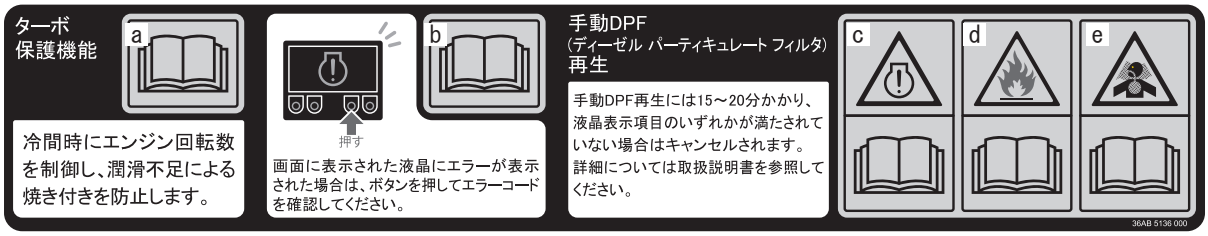
・警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。

・警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。

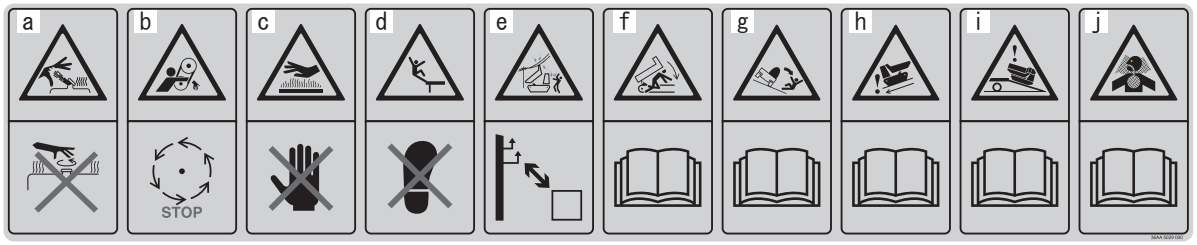



⑩
⑥
⑧
⑪（キャビン内側）
⑫
⑬
⑰
36ABM-5501-0101-020

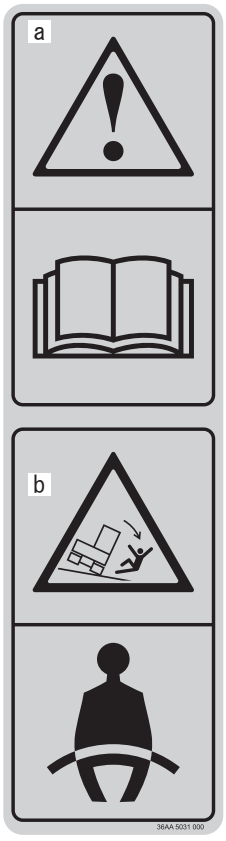
① 36AB 5136 000



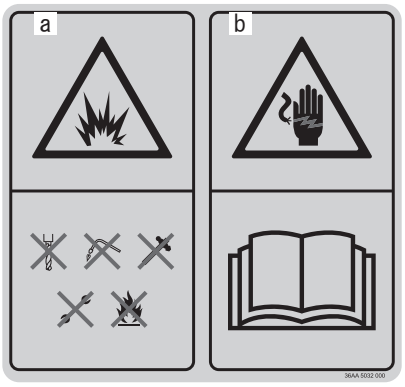
② 36AA 5029 000



③ 36AA 5031 000



④ 36AA 5032 000



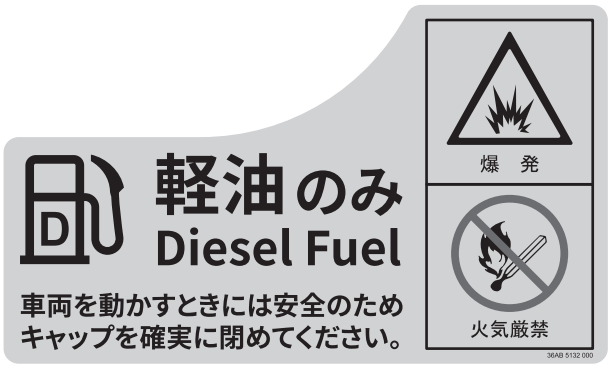
⑤ 3667 5063 000

⑥ 5229 5116 000

⑦ 36AB 5049 000

⑧ 3667 5066 000

⑨ 36AB 5132 000



1. 36AB 5136 000
a. ターボ保護機能説明。取扱説明書の該当箇所を確認のこと。
b. エラーコード表示説明。取扱説明書の該当箇所を確認のこと。
c. DPF再生が要求された場合は、手動でDPFを再生すること。故障の原因となる可能性がある。
d. 火災の危険性あり。DPFを再生する際は、排気管の周囲に可燃物がないことを確認する。
e. 一酸化炭素中毒の危険性あり。エンジンを密閉された場所で始動しないこと。

2. 36AA 5029 000
a. ラジエータ - 火傷の危険性あり。エンジンまたはラジエータが熱いうちはキャップを外さないこと。
b. 巻き込まれる危険性あり。整備の際はエンジンを停止すること。
c. 火傷の危険性あり。過熱面。熱いうちは表面に触れないこと。
d. 落下の危険性あり。このエリアに乗らないこと。
e. ダンプ時には頭上の電線に注意し、十分な距離をとること。
f. 押しつぶしの危険性。 荷台下での整備作業を行う際には、取扱説明書を読み、必要な予防措置を講じる（落下防止棒を使用する）。
g. 積荷は荷台に均等に載せる。
h. 下り坂では低速で運転する。積荷を運搬する際は、エンジン速度を下げ、低速で運転する。
i. 本機を運搬車両に積み込んだり、運搬車両から積み降ろしたりする際には、その運搬車両に適した予防措置に従う。適切なアユミ板を使用し、低速で運転する。
j. エンジンを閉鎖された場所で始動しないこと。

3. 36AA 5031 000
a. ROPS/FOPSの使用に関しては、取扱説明書を参照すること。使用前に、ROPS/FOPSおよびシートベルトの状態を確認すること。ROPS/FOPSが転倒/転落事故に遭った場合は、交換すること。
b. 転倒の危険性。この機械を運転する際はシートベルトを着用すること。

4. 36AA 5032 000
a. 燃料タンク - 火災および爆発の危険性。ドリルで穴を開けたり、トーチで溶接したり、衝撃を与えたり、裸火を近づけたりしないこと。
b. 感電の危険性。整備を行う前に、取扱説明書の関連箇所を参照すること。

5. 3667 5063 000
火傷の危険あり。表面が熱くなる。表面が熱いときは触れないこと。

6. 5229 5116 000
グリースニップルには圧力がかかっており、飛び出す可能性がある。クローラの張りを調整する際は取扱説明書の指示に従って、シリンダを1回転未満回して減圧すること。

7. 36AA 5009 001
押しつぶしの危険あり。荷台下で作業する際は荷台落下防止棒を使用すること。

8. 3667 5066 000
押しつぶしの危険あり。荷台下で作業する前に説明書をよく読むこと。

9. 36AB 5037 000
爆発の危険あり。火気を近づけないこと。

⑩ 3667 5064 000

⑪ 36AB 5032 000

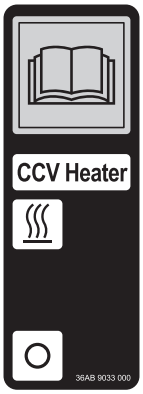
⑫ 36AB 5031 000

⑬ 36AB 5033 000

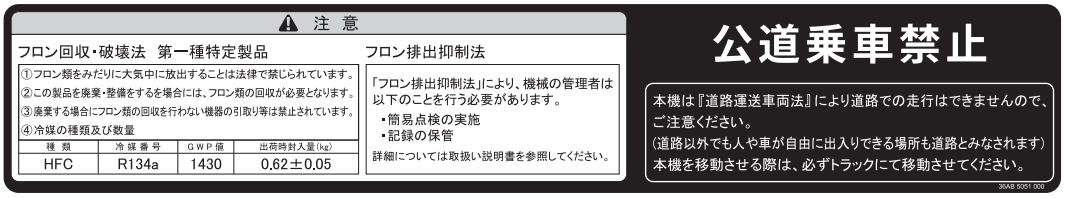
⑭ 36AB 5134 000

⑮ 36AB 5135 000

⑰ 36AB 9033 000



⑯ 36AB 5043 000



36ABM-5501-0101-040

10. 3667 5064 000
後進危険。機械の後部には近づかないでください。機械が不意に後退することがあります。

11. 36AB 5032 000
非常口。ドアが開かない場合は、キャビン窓から脱出してください。

12. 36AB 5031 000
消火器。火災が発生した場合は、この消火器を使用してください。

13. 36AB 5033 000
非常用ハンマー。キャビン内に閉じ込められた場合は、このハンマーで窓を割って脱出してください。

14. 36AB 5134 000
緊急荷台降下バルブ。使用方法については取扱説明書を参照してください。

15. 36AB 5135 000
AdBlueタンク。AdBlueを補充する際は取扱説明書を参照してください。

16. 36AB 5051 000
フロン排出抑制法に関連するフロンガス取扱上の注意事項。

17. 36AB 9033 000（オプション）
CCV（クランクケース換気システム、オプション）ヒーターを使用する前に、取扱説明書の関連項目（☞18ページ）を読んでください。。

安全機構について

本製品には、以下の安全機構が装備されています。

緊急エンジン停止

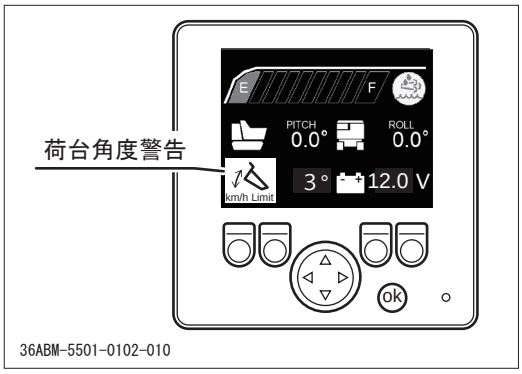
車体がどの方向かに60度以上傾けられ、3秒以上経過するとエンジンが停止します。（☞35ページ）。

転倒警告ブザー

転倒警告ブザーは、機械が一定の角度以上に傾いた場合に警告を発します。20度で断続的に、27.5度で繰り返しブザーが鳴ります。

荷台角度警告と速度リミッター

荷台が3度以上起き上がると、ディスプレイ２に荷台角度警告が点灯し、車速の上限値が9km/hに制限されます。



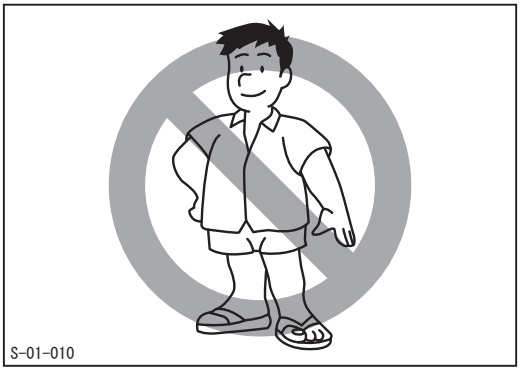
その他の安全関連装備

この製品には、初期消火用の消火器と、運転者がキャビン内に閉じ込められた場合に備えてキャビン窓を破るためのハンマーも装備されています。

安全運転・作業のための心得

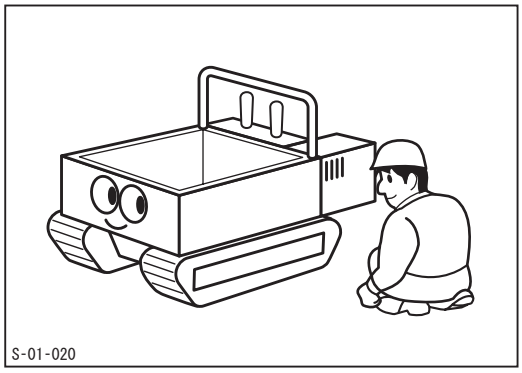
運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

運転前の心得



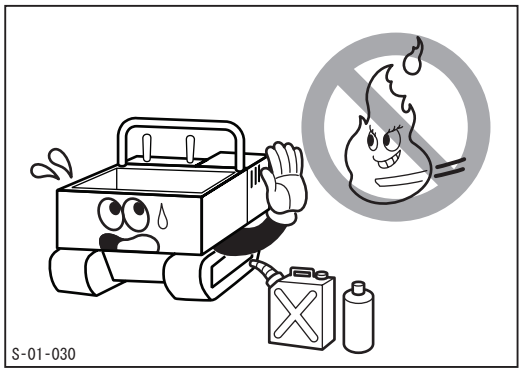
正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服装を心がけ、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。


S-01-020

始業点検の励行

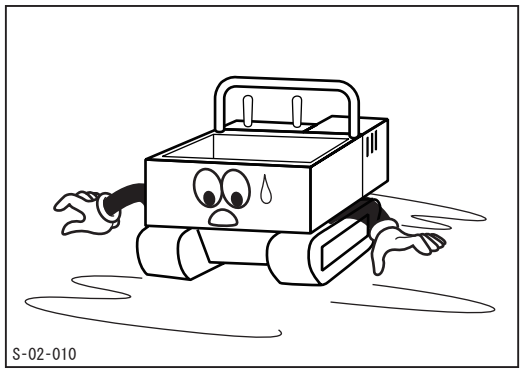
運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。


S-01-030

火気厳禁

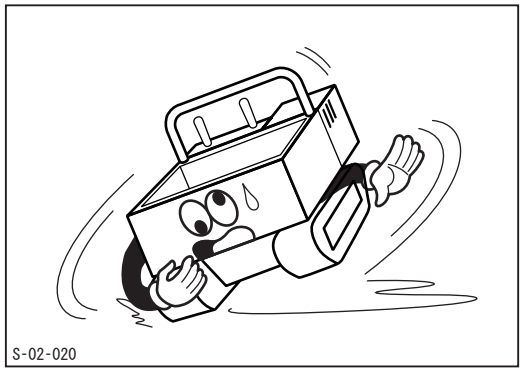
燃料、油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも、火気を近づけないでください。

走行時の心得


S-02-010

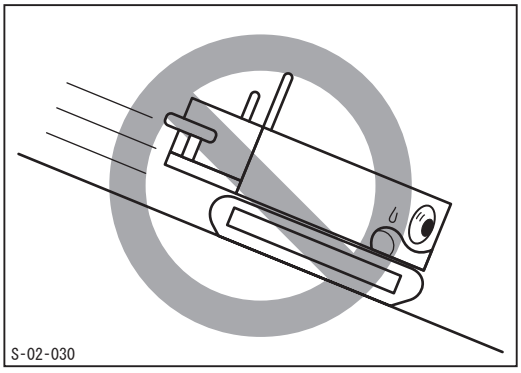
安全速度遵守

発進の前には必ず周囲の安全を確認し、走行時は走行路の勾配、路面の状態に応じた安全速度で走行してください。


S-02-020

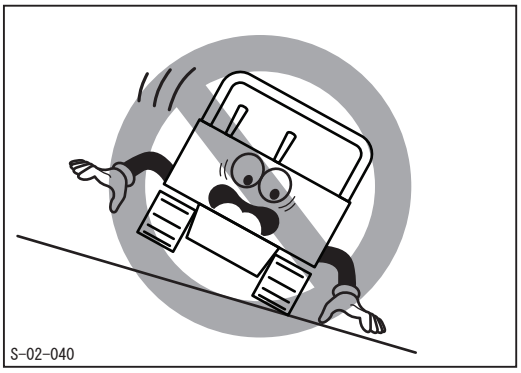
急発進、急加速、急旋回、急停止の禁止

急発進、急加速、急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。



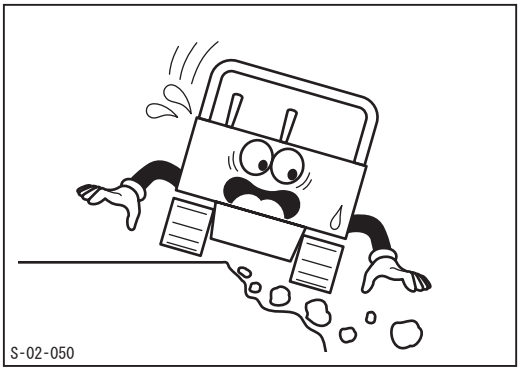
下り坂では低速で走行する

下り坂の前で一旦停止した後、エンジン回転数を下げ、エンジンブレーキを使用しながら低速で走行してください。



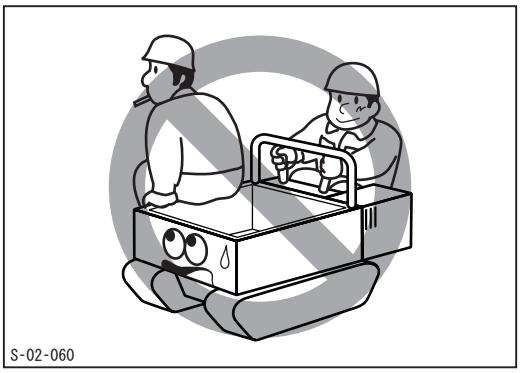
斜面の横断、旋回禁止

10°以上の斜面はまっすぐ上り下りし、横断や旋回をしないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。



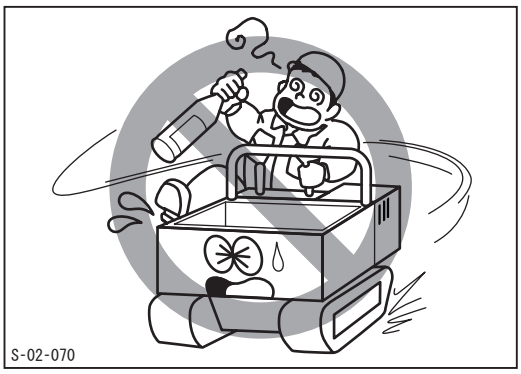
路肩の崩れに注意

溝や土手の端は、路肩が崩れ、転倒するおそれがあり危険ですので、走行しないでください。特に降雨後や地震後の地盤は崩れやすいので注意してください。



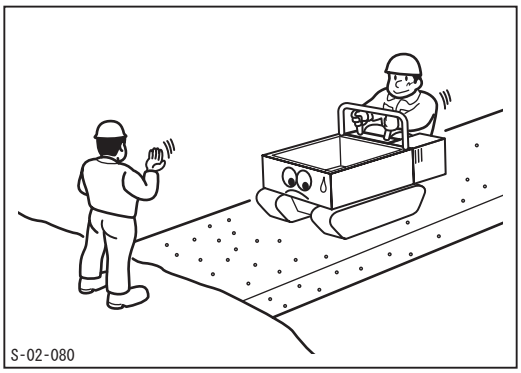
同乗禁止

本製品は一人乗りです。運転者以外の人を乗せての運転は行わないでください。



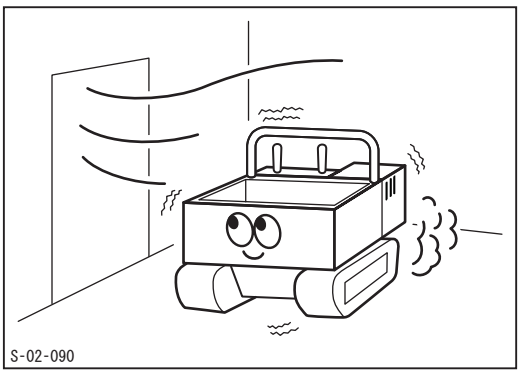
無謀運転禁止

飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない若年者による運転・作業も行わないでください。



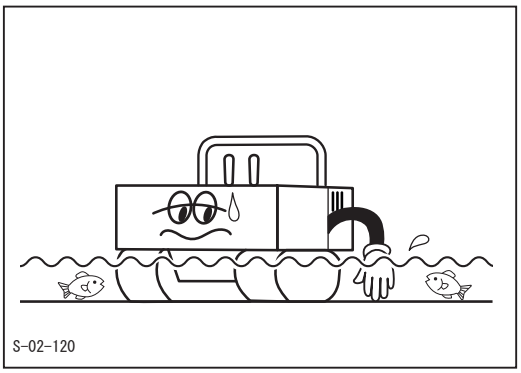
危険な場所では誘導者の指示に従う

見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。



換気に注意

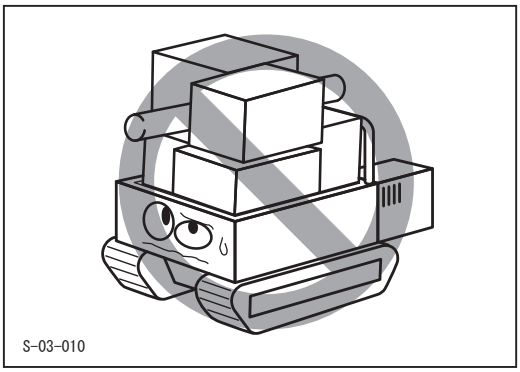
室内でエンジンを運転する場合は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくして作業を行ってください。



最低地上高以上の水深での使用禁止

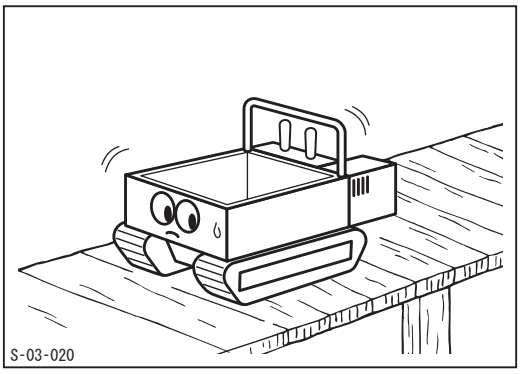
最低地上高(455㎜)より深い水中、泥濘地では使用しないでください。電装部品の被水等により、故障する恐れがあります。
また、水中・泥濘地で作業終了後は必ず洗浄し、給脂を行ってください。

積載時の心得



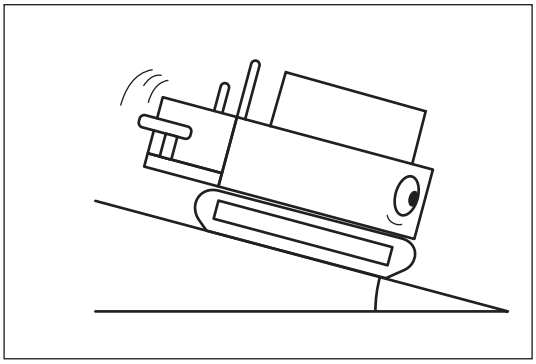
過積載禁止

本製品の最大作業能力を超える積載はしないでください。また、偏荷重にならないよう、荷台に均一に積載してください。



制限重量に注意

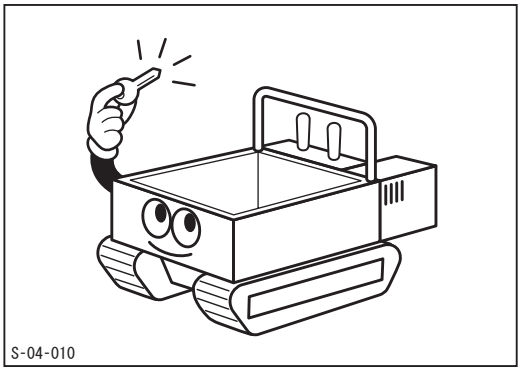
木橋等を渡る時は、機械質量と積載量および運転者の体重の総和が木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



傾斜地での積載量に注意

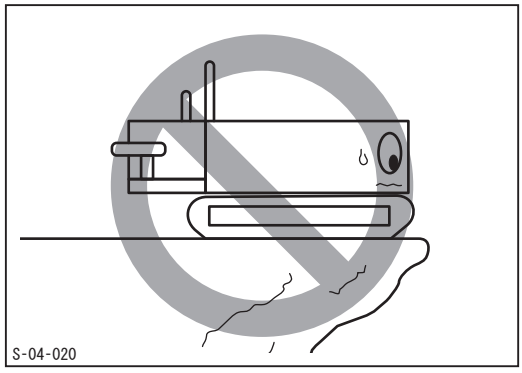
15°～20°の傾斜地では、積載量を2500kg以下にして走行してください。20°を超える急傾斜地では、本製品を使用しないでください。

駐車時の心得



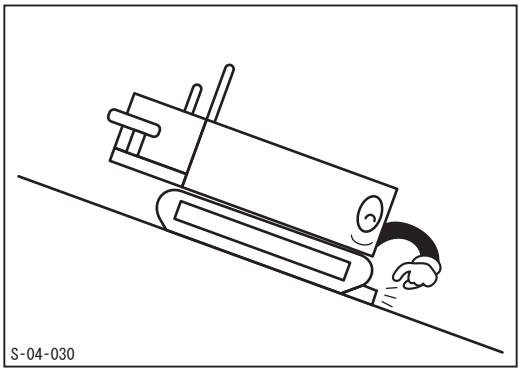
駐車時の安全確認

駐車時には必ず駐車ブレーキをかけ、エンジン停止を励行してください。また、キーを忘れずに抜いてください。



危険な場所での駐停車禁止

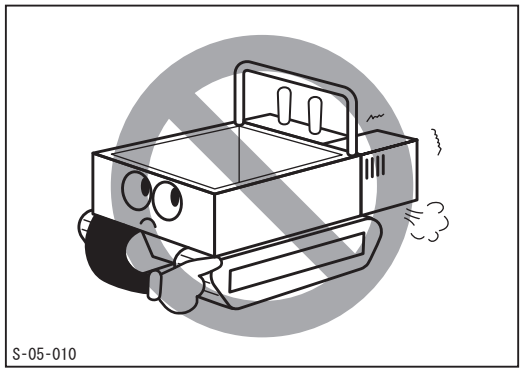
駐停車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。



傾斜地での輪止め励行

傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。

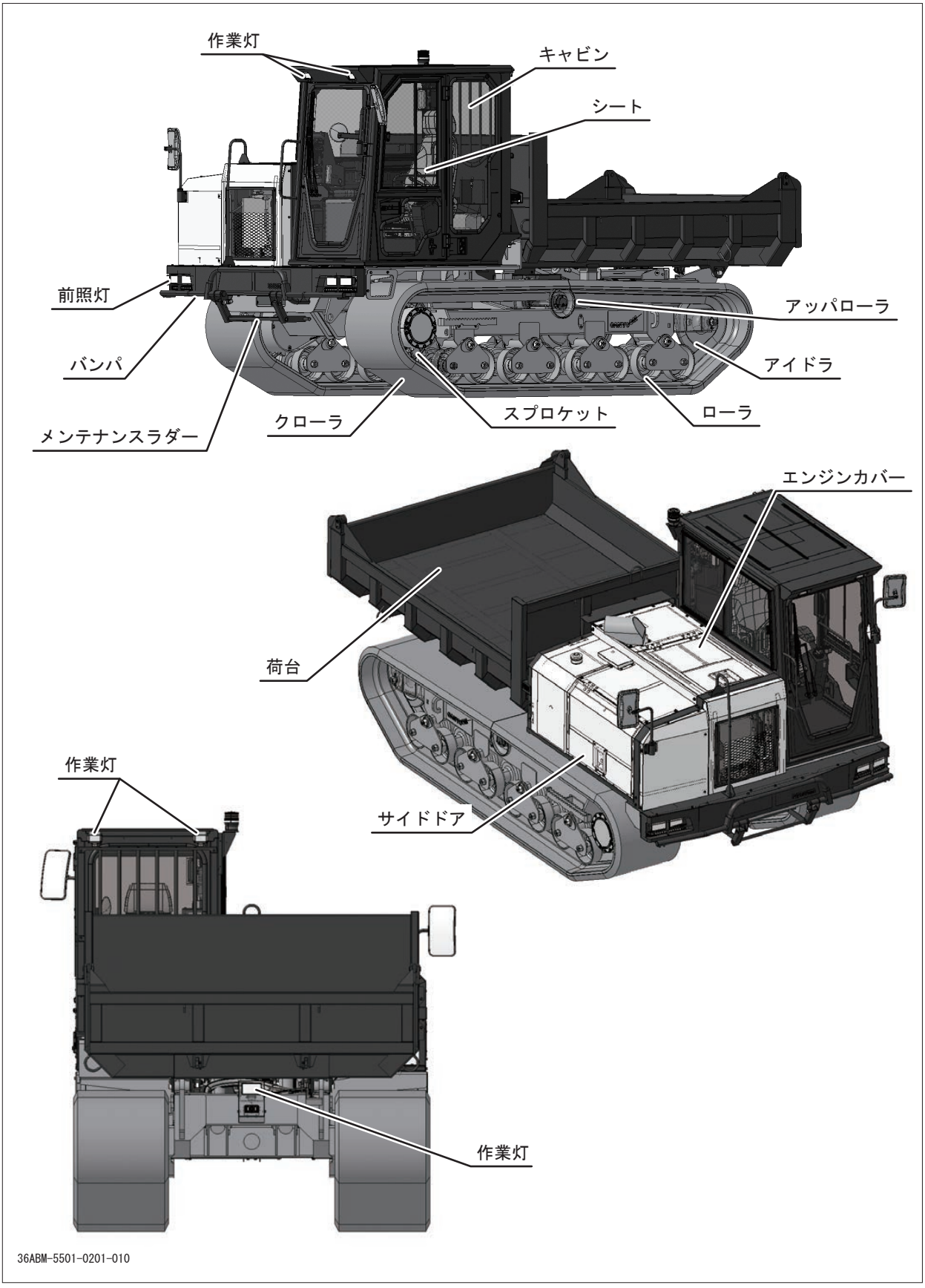
整備時の心得

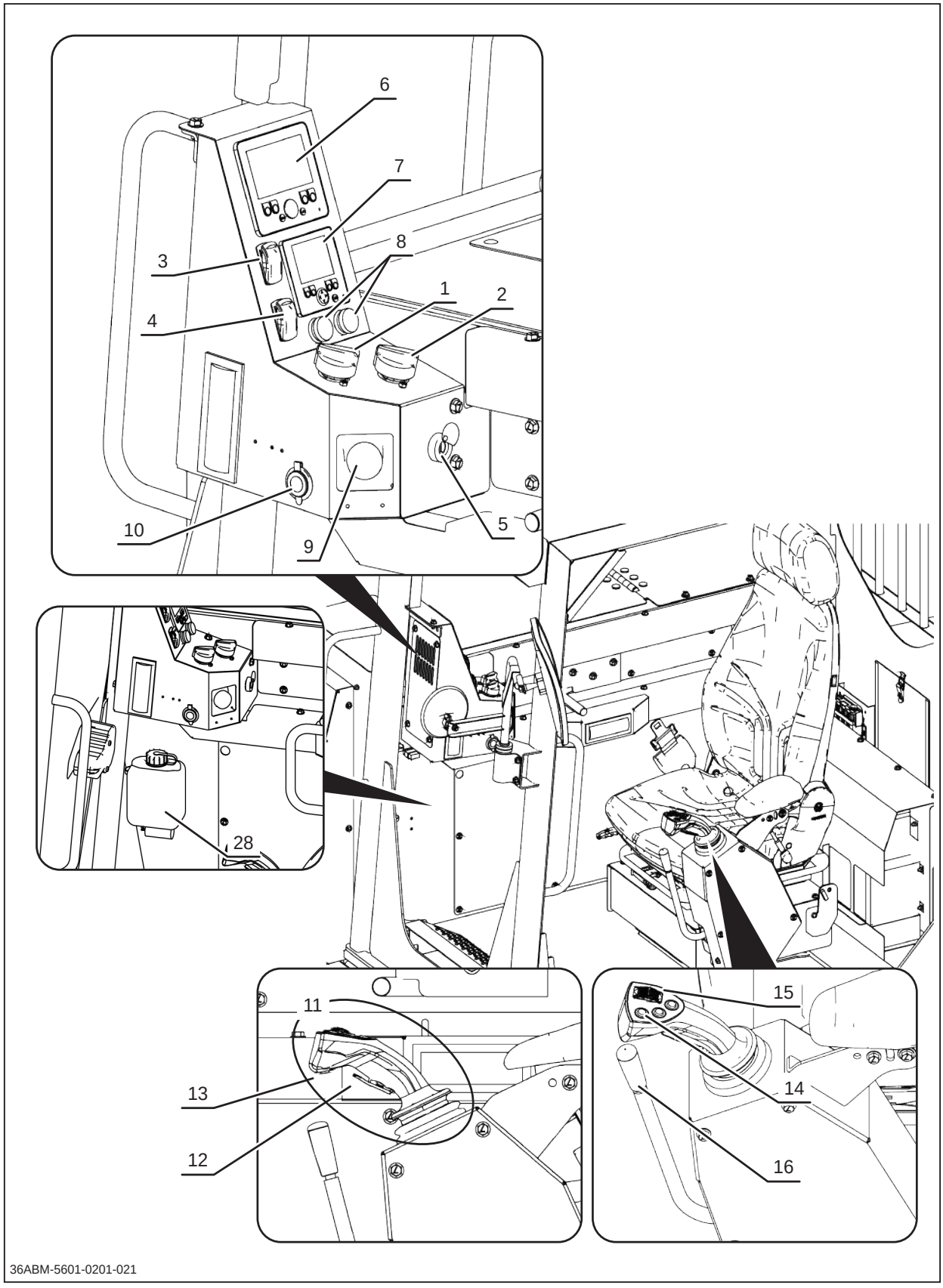


エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。必ずエンジンを停止してから整備を行ってください。

各部の名称とはたらき


作業灯
キャビン
シート
前照灯
アッパローラ
バンパ
アイドラ
メンテナンスラダー
クローラ
スプロケット
ローラ
エンジンカバー
荷台
作業灯
サイドドア
作業灯
36ABM-5501-0201-010


6
7
8
3
1
2
4
10
9
5
28
11
13
12
15
14
16
36ABM-5601-0201-021

各部の名称とはたらき　2

1　**アクセルノブ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジン回転数の増減を行います。

2　**スピードノブ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥最高走行速度を設定します。

3　**高低速切替スイッチ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥走行速度の切替え（「低速」または「高速」）に使用します。

4　**駐車ブレーキスイッチ** ‥‥‥‥‥‥車両を駐車させるときに使用します。（駐車ブレーキスイッチが「P」位置では、操向レバーを操作しても車両は動きません）

5　**メインスイッチ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥エンジンを始動および停止させるときに使用します。

6　**ディスプレイ１** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥燃料残量、累計稼働時間、冷却水温度等を表示します。

7　**ディスプレイ２** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥尿素水（AdBlue）残量、車体傾斜角度、バッテリ電圧等を表示します。

8　**ウインカーボタン** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥一方のボタンを押すと、その側のウインカーが点滅します。両方のボタンを同時に押すとハザードランプしてと両側のウインカーが点滅します。

9　**緊急停止スイッチ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥スイッチを押すと、エンジンが停止します。緊急時に使用します。

10 **USBソケット**　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥USB電力を供給します。（タイプA:QC 3.0A、タイプC：PD 18W）。

11　**操向レバー**　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥車両の走行方向（前進または後進）の切換えおよび車両を旋回するときに使用します。

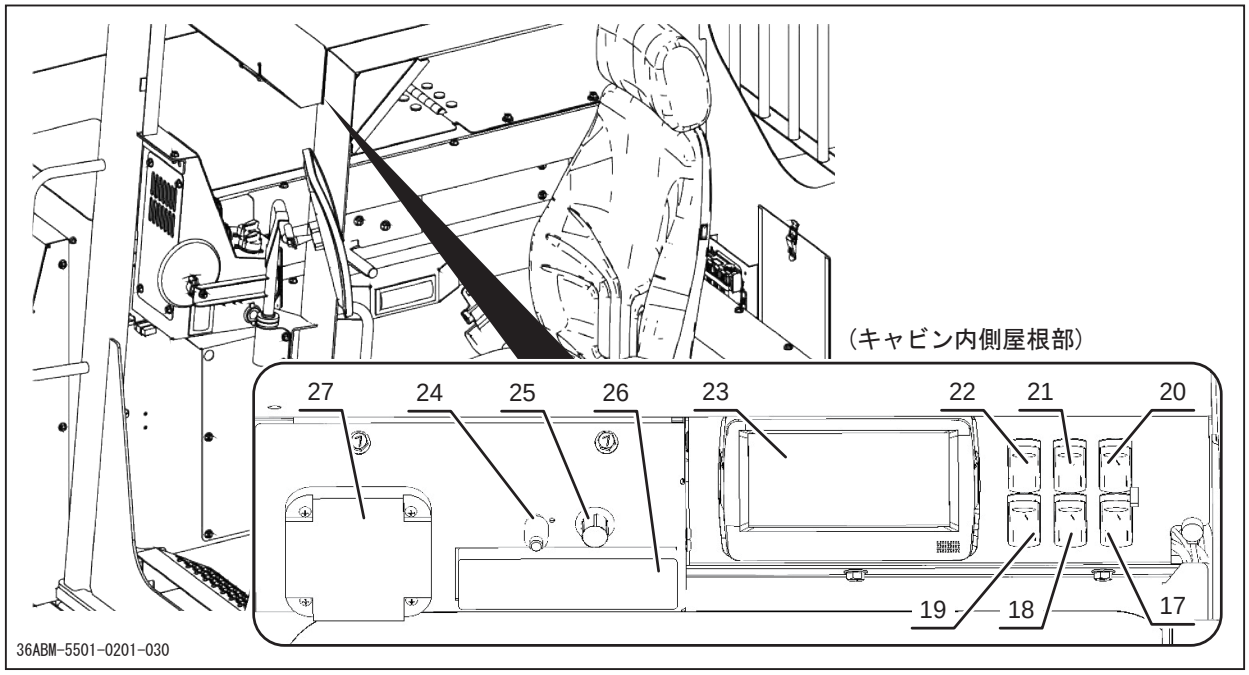
12　**トリガースイッチ**　‥‥‥‥‥‥‥‥‥このスイッチを握って操向レバーを倒すと車両が走行します。走行前の中立確認にも使用します。

13 **ホーンスイッチ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥スイッチを押すとホーンが鳴ります。

14 **スピンターンスイッチ** ····このボタンを押して操向レバーを横に倒すことで、車体がその方向にスピンターン（超信地旋回）します。

15 **ダンプスイッチ** ·····このスイッチの下側を押すと荷台が「上昇」、上側を押すと「下降」します。

16 **ロックレバー**·····乗降時、ロックレバー上げる(ロック)ことで操向レバーでの走行を無効にし、安全に乗降できるようにします。



17 **前照灯スイッチ** ·····スイッチを押すと前照灯が点灯します。

18 **作業灯スイッチ** ·····スイッチを押すと作業灯が点灯します。

19 **エコモードスイッチ**·····スイッチを押すと、エンジンの最大出力を約80%に制御します。又、駐車ブレーキスイッチを「P」もしくはロックレバーを「ロック」位置にした時、エンジン回転数を自動でローアイドルまで下げます。

20 **室内灯スイッチ** ·····スイッチを押すと室内灯が点灯します。

21 **ワイパースイッチ** ·····スイッチを押すとワイパーが作動します。

22 **ウォッシャースイッチ** ……スイッチを押すとウインドウウォッシャーが作動します。

23 **アラウンドビューモニター** ‥車体の右側・左側・後部に装備されたカメラの画像を表示します。詳細については添付の**アラウンドビュー取扱説明書**をご覧ください。

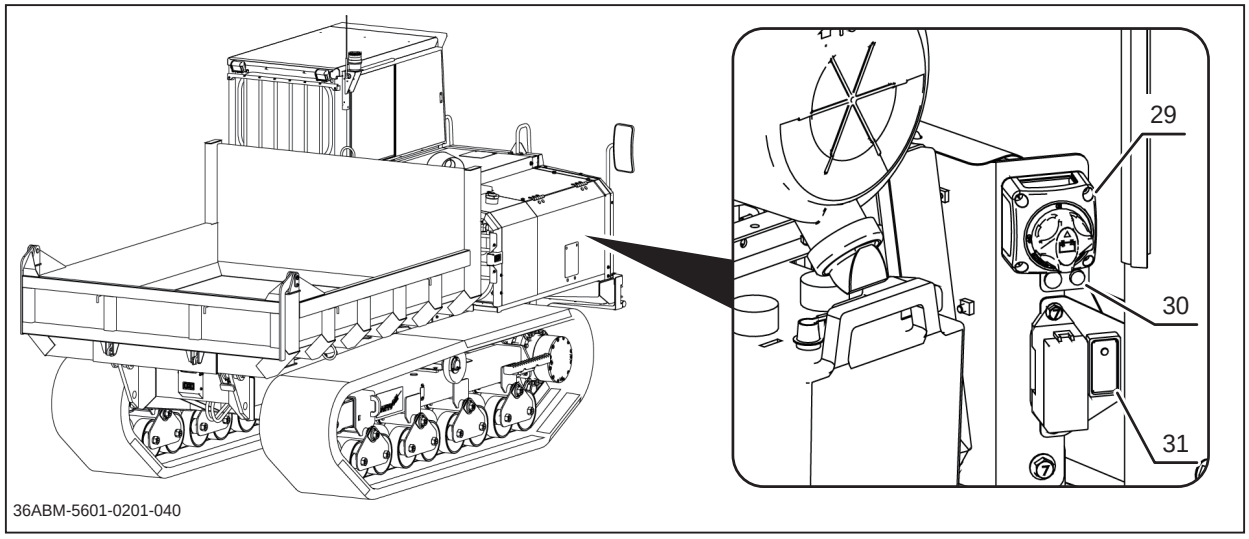
24 **エアコンスイッチ** ……エアコンの電源の入切と送風量の調節を行います。

25 **エアコン温度設定ノブ** ……エアコンから送風される温度を設定します。

26 **オーディオ** ……ラジオを聞くことができます。外部機器はBluetooth経由で接続することができます。詳細については添付の**オーディオ取扱説明書**をご覧ください。。

27 **スピーカ** ……オーディオ用のスピーカです。

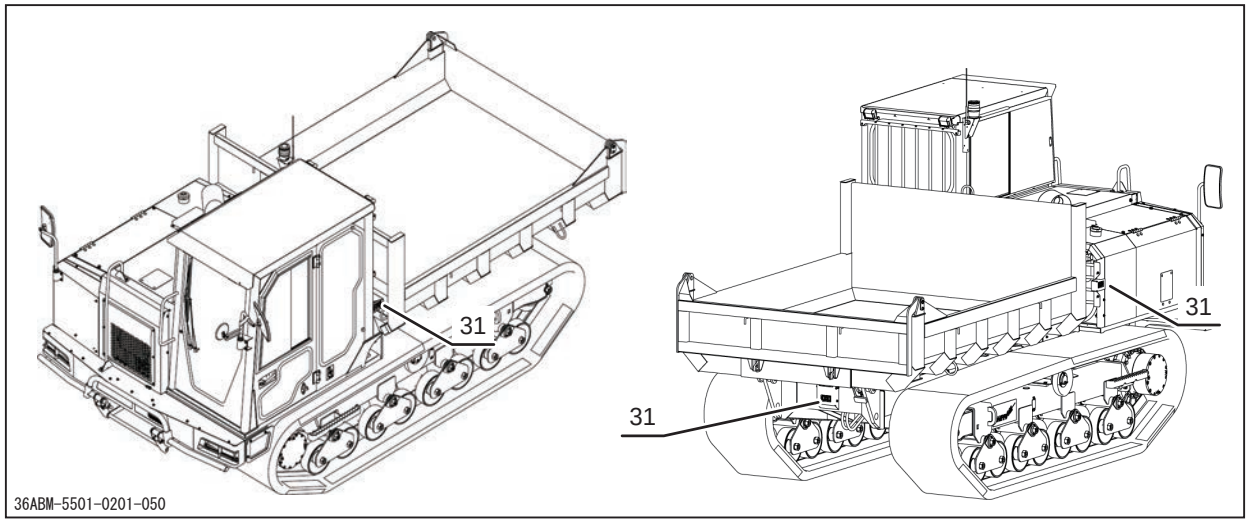
28 **ウォッシャー液タンク** ……ウインドウウォッシャー液のタンクです。残量が少なくなったら補充してください。（1.2L）



29 バッテリキルスイッチ ·····バッテリマイナス回路の接続・切断を切り替えることができ、車輌整備・長期保管時に使用します。

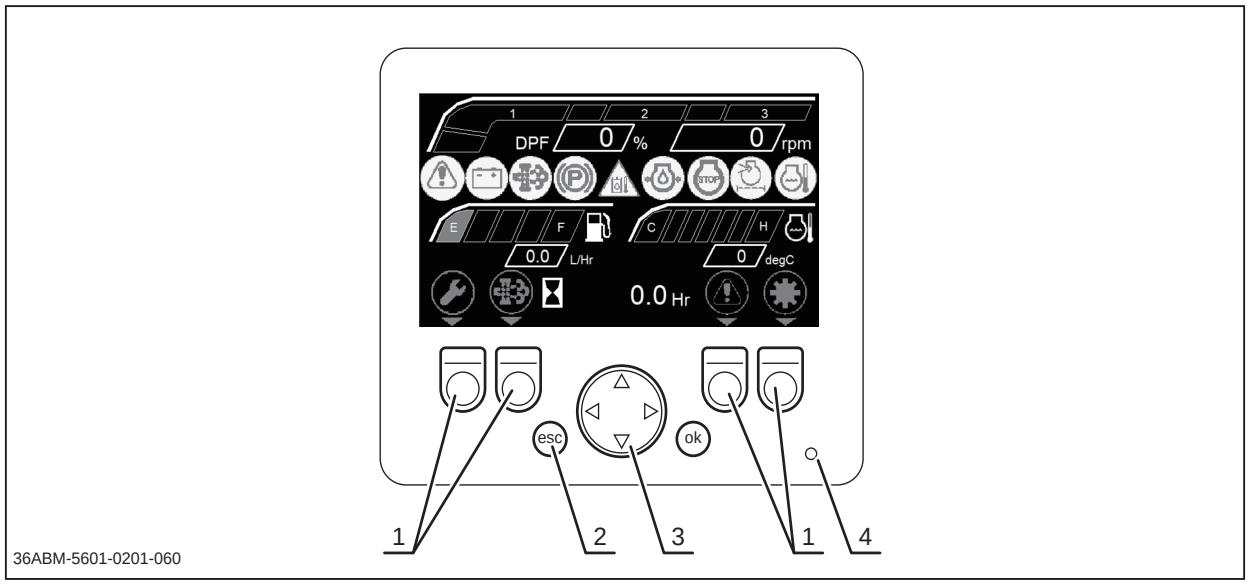
30 ACUランプ·····ACUランプはACU（排気ガス後処理制御ユニット）の状況を表示します。ランプが点灯しているときは、バッテリキルスイッチをOFFにしないでください。ランプ点灯中はホース内の尿素水が回収されています。バッテリキルスイッチをOFFにすると後処理システムやエンジンが故障する恐れがあります。

31 CCVヒーター（オプション）·····スイッチを押してキーをONにすると、CCV（クランクケース換気システム）ヒーターが作動します。作動中はスイッチLEDが点灯します。（自動では OFF になりません。）※注意 長時間のキー ON は、消費電流が大きくバッテリー上がりの原因となりますのでお控えください。CCVヒーターは自動OFFしませんので、エンジン始動後約60分後にCCVヒータースイッチをOFFにしてください。



31 カメラ ･･･････････････････････周囲の状況を撮影します。。

ディスプレイ１



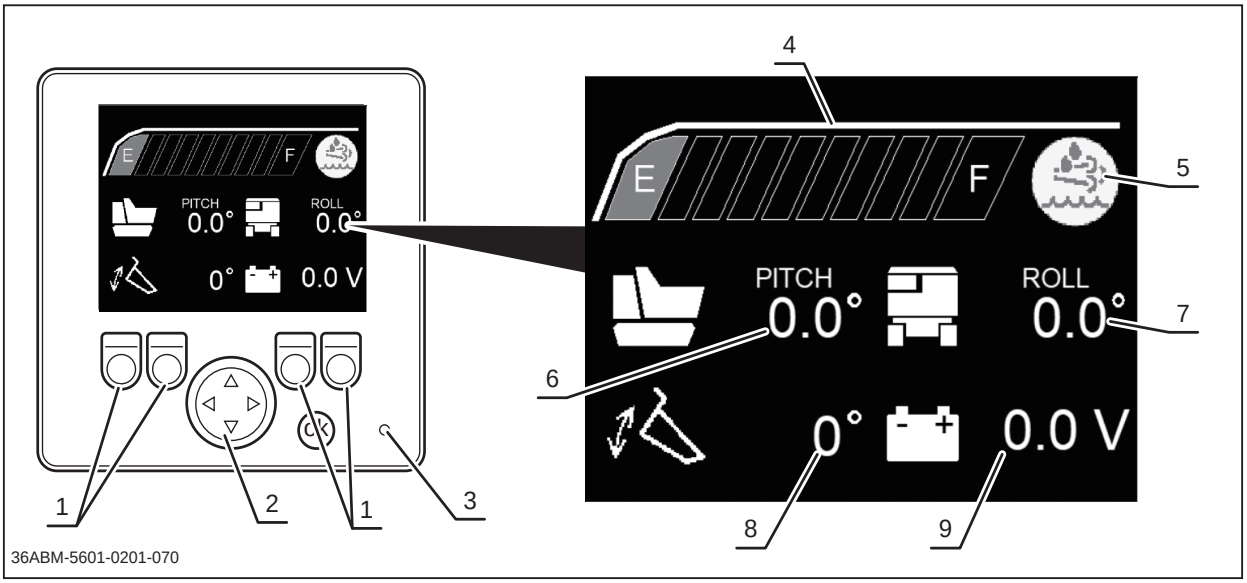
1 ４連スイッチ･･･････････････････画面毎に機能が異なります。☞44ページ

2 escスイッチ ･･･････････････････前の画面に戻るときに使用します。

3 カーソルスイッチ･･･････････････頁送り、カーソル移動などに使用します。

4 LED ･･･････････････････････････ディスプレイ故障時に赤色に点灯します。

ディスプレイ２



1 **４連スイッチ**・・・・・・・・・・・・・・・・画面毎に機能が異なります。☞58ページ

2 **カーソルスイッチ**・・・・・・・・・・・・頁送り、カーソル移動などに使用します。

3 LED ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ディスプレイ故障時に赤色に点灯します。

4 **尿素水計**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・尿素水タンク内の尿素水の残量を表示します。F:満タン／Ｅ：空

5 **尿素水残量警告**・・・・・・・・・・・・・・尿素水の残量が少なくなったら点灯します更に残量が少なくなると点滅します。

6 **ピッチ角度表示**・・・・・・・・・・・・・・車体のピッチ方向（前後方向）の傾斜角度を表示します。

7 **ロール角度表示**・・・・・・・・・・・・・・車体のロール方向（左右方向）の傾斜角度を表示します。

8 **荷台角度表示**・・・・・・・・・・・・・・・・荷台の角度を表示します。

9 **バッテリ電圧計**・・・・・・・・・・・・・・現在のバッテリ電圧を表示します。

本製品の仕様

⚠ 注 意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名称・型式				S500V
				一方ダンプ
機械質量			kg	6550
最大作業能力			kN (kg)	49(5000)
機械寸法	全長		mm	4725
	全幅		mm	2250 (バックミラー折畳時)
	全高		mm	2650 (回転灯引込時 2550)
	タンブラ中心距離		mm	2320
	クローラ中心距離		mm	1650
	最低地上高		mm	455
	荷台床面高さ		mm	1130
荷箱寸法	荷箱内側寸法	長さ	mm	2600
		幅	mm	2000
		高さ	mm	350
	荷箱容量	平積	m^3	1.81
		山積	m^3	2.97
エンジン	名称			クボタ V3800
	形式			水冷 4 サイクル直列 4 気筒ディーゼル
	シリンダ (内径×行程)		mm	100 × 120
	総排気量		cm^3 (cc)	3769 (3769)
	定格出力		kW(PS)/rpm ネット	95(129.2)/2400*1
	最大トルク		N・m(kgf・m)/rpm ネット	440.0(44.87)/1800
	始動方式			セルフスタータ式
	使用燃料			軽油
	燃料消費率		g/kW・h(g/PS・h)	241(177)
	燃料タンク容量		L	125
	潤滑油容量		L	14.8
	冷却水容量		L	13 (リザーブタンク内 1.1)
	バッテリ形式			170F51
	バッテリ容量		V/AH	12/108

*1 ネット出力、冷却ファン無し

3 製品仕様

名称・型式				S500V
				一方ダンプ
走行性能	走行速度	変速		ＨＳＴ（2段切替）
		高速	km/h	0 ～ 14
		低速	km/h	0 ～ 10
	最小回転半径		m	約3.1
	登坂能力		度	25（空車）
ＨＳＴオイル容量				90
動力伝達装置	主変速形式			ＨＳＴ（油圧制御２速切替）
	操向装置型式			２ポンプ２モータ
	ブレーキ形式			ネガティブブレーキ（油圧式）
	クローラ			600 × 125 × 64
ダンプ装置	ダンプ方式			油圧ダンプ
	ダンプ形式			一方ダンプ
	油圧ポンプ	形式		ギヤポンプ
		最高回転数	rpm	2400
		最大吐出量	cc/rev	22.8
		リリーフ設定圧	MPa(kg/cm^2)	17.6（180）
	シリンダ（内径×行程）		mm	(80 × 780) × 2
	性能	最大上昇角度	度	60*2
		上昇時間	sec	約9.0
		下降時間	sec	約6.0
	油圧作動油量		L	90（ＨＳＴオイル兼用）
エアコン	冷媒			HFC-R134A
	冷媒容量		L	0.62
	GWP			1430
	Teq.CO2		t	0.887
使用温度範囲				－20℃ *3 ～＋40℃
使用標高範囲				1500m以下 *4

*2　平地での角度。最大上昇角度は地面や車両の傾斜により変わります。

*3　以下の温度で本機を始動する際はジャンパケーブルにより外部電源の補助が必要です。

標準バッテリ：－10℃以下

寒冷地私用バッテリ：－15℃以下

*4　1500mを超えると出力が低下します。

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

付属品明細

チェック	No.	部品名	個数	備考
□	1	取扱説明書	1	本書
□	2	エンジン取扱説明書	1	
□	3	アラウンドビュー取扱説明書	1	
□	4	アラウンドビューリモコン	1	
□	5	オーディオ取扱説明書	1	
□	6	オーディオリモコン	1	
□	7	レンチ	1	緊急ダンプバルブ用 (☞40ページ)
□	8	キャビンキー	1	

運転前の準備

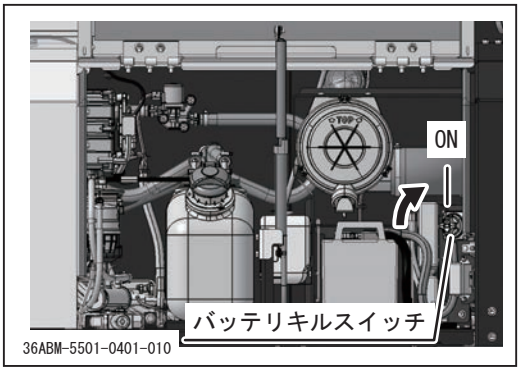
始業点検

運転前には必ず始業点検を行ってください。
点検の要領については**「定期点検表」**（☞59ページ）を参照してください。

燃料の点検と補給

⚠ 警 告

- **燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。**
- **給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。**
- **給油は油面上限（給油口内フィルタ底面）以下になるようにし、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。**

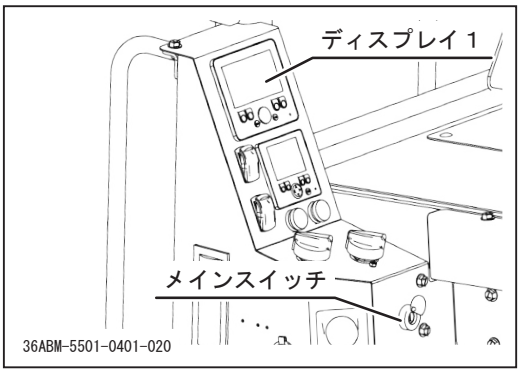


燃料の確認

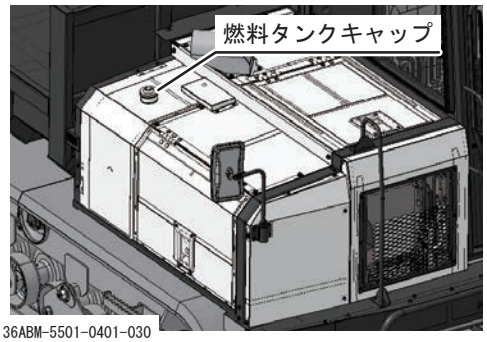
1. バッテリキルスイッチが[| (ON)]の位置にあることを確認します。

アドバイス

- **バッテリキルスイッチはサイドカバーの中にあります。**



2. メインスイッチにキーを入れ[| (ON)]へ回し、数秒間待ちます。
3. ディスプレイ１の燃料計を確認します。燃料の残量が少ないときは補給します。
4. メインスイッチを[◯ (OFF)]へ回し、キーを抜きます。



燃料の補給

1. 燃料タンクキャップを開きます。
2. メインスイッチにキーを入れ[○ (ON)]へ回します。
3. 燃料を補給します。補給中に燃料計を確認します。
4. メインスイッチを[| (OFF)]へ回し、キーを抜きます。
5. 燃料タンクキャップを確実に閉めます。

アドバイス

- 使用燃料：軽油
- 燃料タンク容量：125L

シートの調節

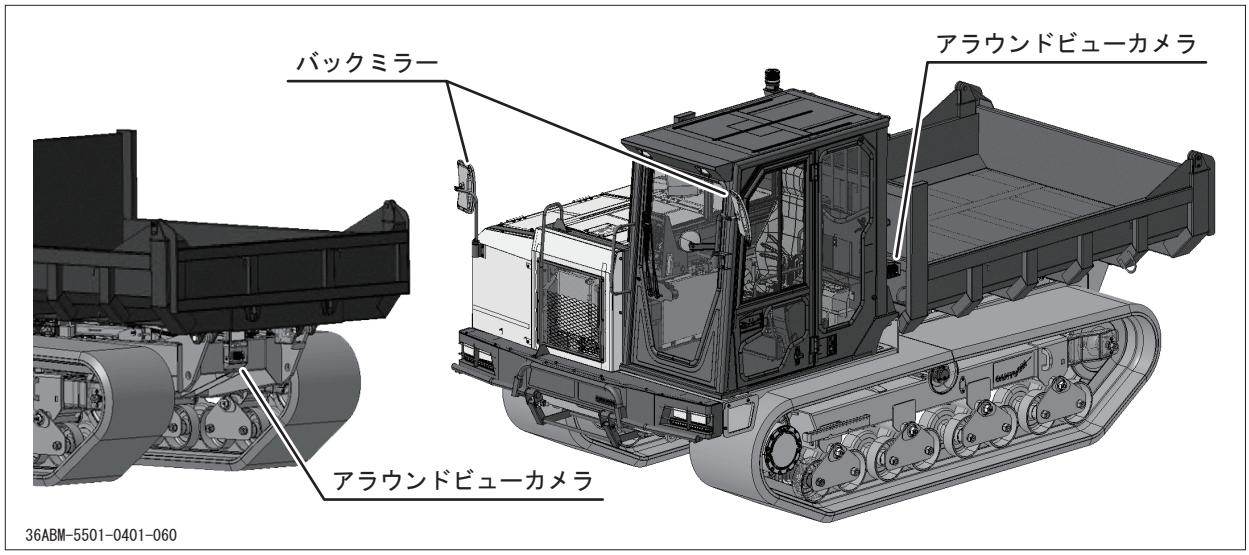
⚠ 警 告

- シートの調節をした後は、シートが確実に固定されているか確認してください。

シートの調節

1. スライドレバーを押し、好みの位置にシートをスライドします。
2. シートバック調節レバーを引き上げ、シートの背もたれを好みの位置に調節します。
3. シート硬さ調節ノブを回し、オペレータの体重と好みに合う堅さに調節します。シート堅さ調節ノブを一方に回し切り、設定を解除します。

ミラーの調節

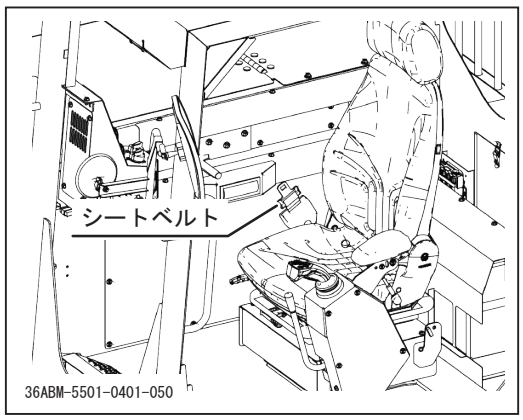


1. 車体の前、後、左右が見えるようにミラーを調整します。

シートベルト

⚠ 警 告

・本機にはROPS（横転保護機構）が装備されています。乗車時は必ずシートベルトを装着してください。



1. シートベルトを締めます。骨盤の上を確実に閉めるようにベルトを調節します。

運転のしかた

始動のしかた

⚠ 警　告

・エンジンは必ず換気の良い場所で始動し、運転してください。

・エンジンを始動する際は、必ず周囲の安全を確認してください。

・エンジンを始動する際は、必ずシートに座って始動してください。絶対に、シートから離れてエンジンを始動しないでください。事故につながる恐れがあります。

・エンジンの作動中は、エンジンや付属品は非常に高温になります。エンジンや付属品に触れないようにしてください。重度の火傷を負う恐れがあります。

・エンジンが作動している間は、エンジンカバーを開けないでください。

⚠ 注　意

・エンジンの回転中にスターターを回さないでください。スターターモーターまたはエンジンが損傷する恐れがあります。

・スターターを15秒以上回さないでください。エンジンが始動しない場合は、[○（OFF）]の位置に戻し、30秒以上待ってから再度始動してください。

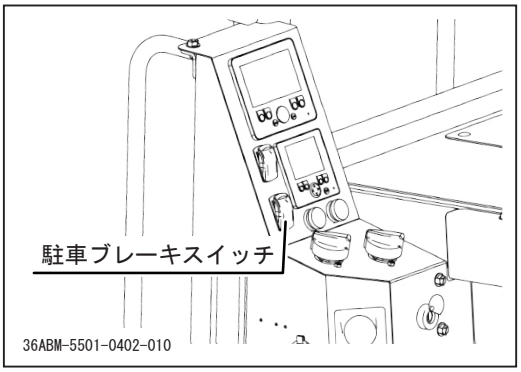
・この機械は、40 °C以上または -15°C以下の温度では使用しないでください。この温度範囲では、この機械は適切に動作しません。このような状況下で機械を使用すると、事故が発生したり、機械が損傷したりする可能性があります。

・冬期や寒冷地では、機械を運転する前にエンジンを十分に暖機してください。エンジンが冷えていると性能が低下し、事故につながる恐れがあります。また、早期摩耗の原因にもなります。

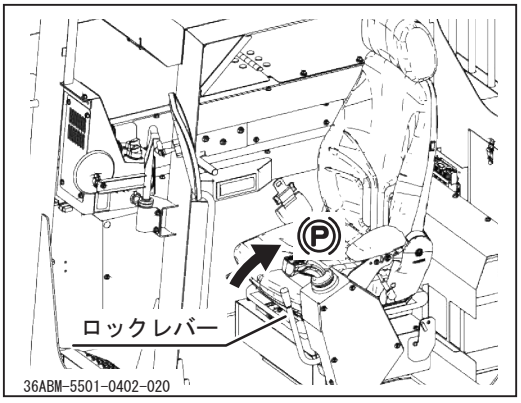
・砂漠などのほこりの多い場所では、この製品を使用しないでください。ほこりがエアークリーナーに詰まったりエンジン内部に侵入したりして、性能が低下したり事故につながる恐れがあります。また、摩耗が早まる原因にもなります。

⚠ 注 意

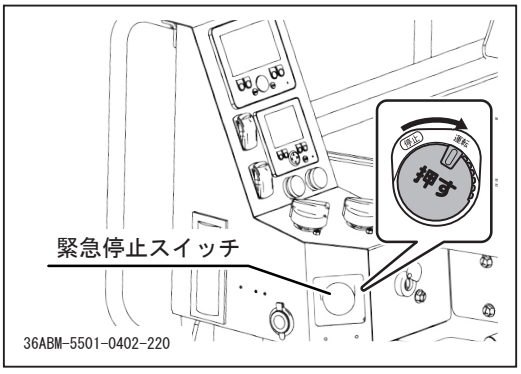
・この機械を、標準仕様で標高1500m以上の場所では使用しないでください。この機械は、標高1500m以上の場所では十分な性能を発揮できません。このような条件下で機械を使用すると、事故につながったり、機械が損傷したりする可能性があります。標高1500m以上の場所で機械を使用する必要がある場合は、CANYCOMの代理店までお問い合わせください。



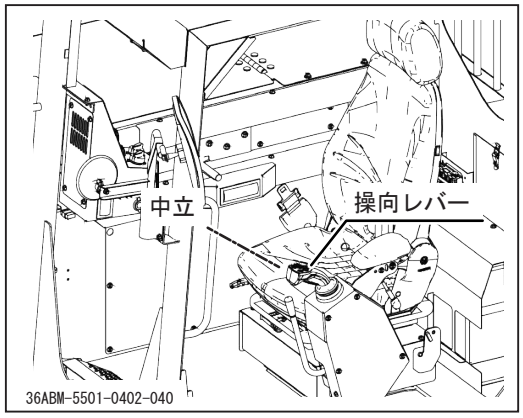
1. 駐車ブレーキスイッチの[Ⓟ (駐車)]を押した状態にあることを確認します。



2. ロックレバーが[Ⓟ (駐車)]位置にあることを確認します。

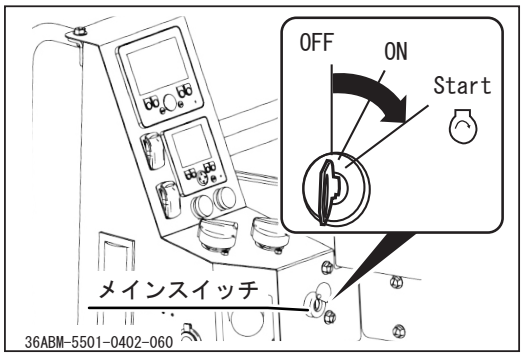


3. 緊急停止スイッチが[運転]位置にあることを確認します。[運転]位置にない場合は、スイッチを右に回して[運転]位置にします。



4. 操向レバーが[中立]の位置にあることを確認します。

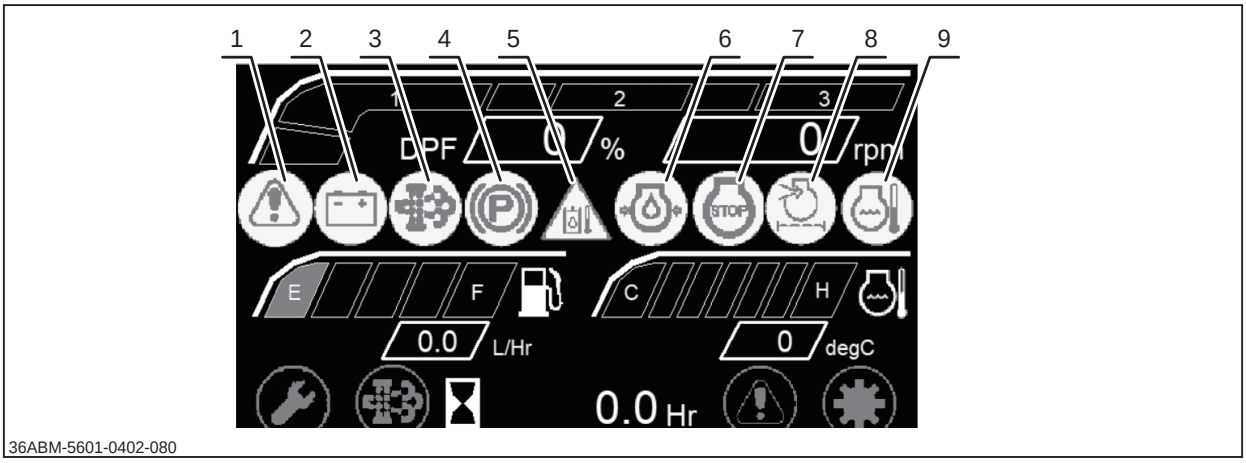
5. アクセルノブを[（低速）]位置に回します。



6. メインスイッチを[（始動）]まで回し、エンジンを始動させます。
始動後はすぐにキーから手を離してください。
キーは自動的に[（ON）]に戻ります。

アドバイス

・キースイッチをONにすると、自動的に予熱が始まります：
5 秒間（0° C～10° C）
10 秒間（-10° C～0° C）
・エンジンが冷えていて始動しないときにバッテリーの消耗を避けるため、OFF→ON（予熱 5 秒間）を繰り返します。
・バッテリー電圧が10.5V以下の場合は、始動前に充電してください。



7. どの警告灯も点灯していないことを確認してください。点灯している場合は、直ちにエンジンを停止し、不具合診断表（☞108ページ）を参照して適切な処置をしてください。
8. エンジンを無負荷で3～5分間運転して暖機します。（エンジンがすでに暖まっている場合は必要ありません）。

アドバイス

・警告灯一覧：

[1] エラー表示灯
[2] 充電警告灯
[3] DPF 清掃警告灯
[4] パーキング表示灯
[5] 作動油温度警告灯
[6] 油圧警告灯
[7] 緊急エンジン停止表示灯
[8] エアクリーナー目詰まり警告灯
[9] 冷却液温度警告灯

アドバイス

・寒冷地では、使用前にマシンを暖めてください：

0℃以上で約10分
-10℃～0℃の間で10～20分
-20℃以下で30分以上

・購入後 1 週間（約 50 時間）は、慣らし運転のため、以下の点に注意して車両を静かに運転してください：

スピードを出しすぎたり、過負荷をかけたりしないこと
十分なウォーミングアップを行った後、車両を運転すること
荒れた路面や傾斜のある場所では、ゆっくりと運転すること

運転のしかた

⚠ 警　告

・運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

・走行操作は必ずシートに着座して行ってください。万一の場合に車両にひかれるおそれがあります。

・運転時は必ずシートベルトを着用してください。

・発進時は必ず周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進させてください。

・旋回時は必ず周囲の安全を確認してください。

・急発進、急加速、急旋回を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

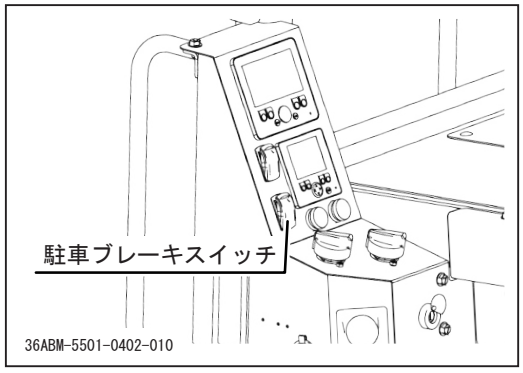
・走行中に駐車ブレーキスイッチを[Ⓟ（駐車）]に入れたり、ロックレバーを[ロック]にしたり、メインスイッチを[◯（ＯＦＦ）]の位置にしたりしないでください。運転者が振り落とされたり、車両が転倒したりするおそれがあります。

・操向レバーから手を離す前に、必ず操向レバーをニュートラル位置に戻してください。それ以外の位置でレバーを放すと、急減速して本機が転倒したり、運転者が転倒したり、投げ出されたりする恐れがあります。

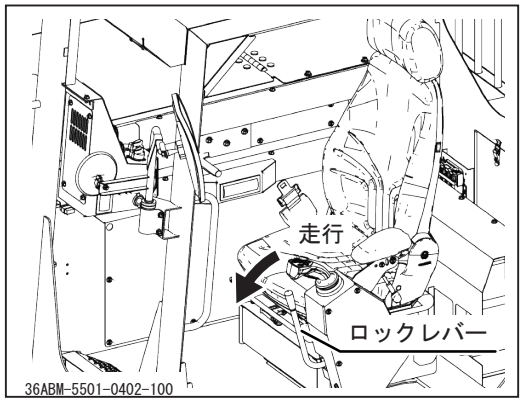
・キャビンドアを開けたまま運転しないでください。

アドバイス

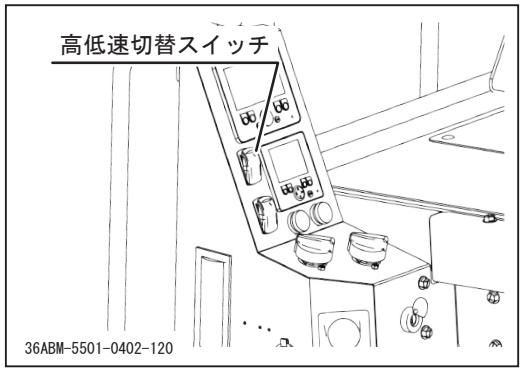
・駐車ブレーキスイッチが[Ⓟ（駐車）]、ロックレバーが[Ⓟ（駐車）]の位置、またはトリガースイッチが押されていない場合、操向レバーを操作しても機械は動きません。
・駐車ブレーキスイッチが[OFF]で、ロックレバーが[◯（走行）]の位置にある場合、トリガースイッチを押した状態で操向レバーを操作すると機械が動きます。



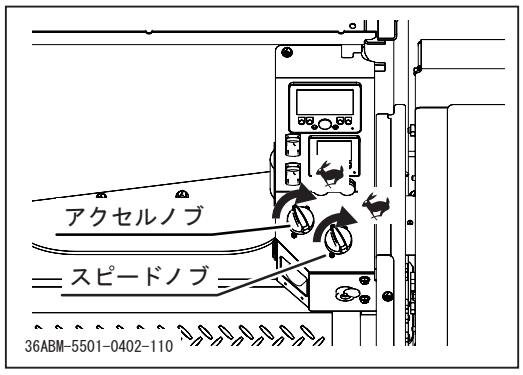
1. 周囲の安全を確認します。
2. パーキングブレーキスイッチを[OFF]の位置にします。



3. ロックレバーを[走行]の位置に動かします。
4. 操向レバーを中立位置にして、トリガースイッチを1回押します。 ホーンが1回鳴り、機械が運転可能になったことを知らせます。



5. 高低速切替スイッチを[L(低速)] または [H(高速)] のいずれかの位置にします。いずれかの位置での速度範囲については、製品仕様（21ページ）を参照してください。

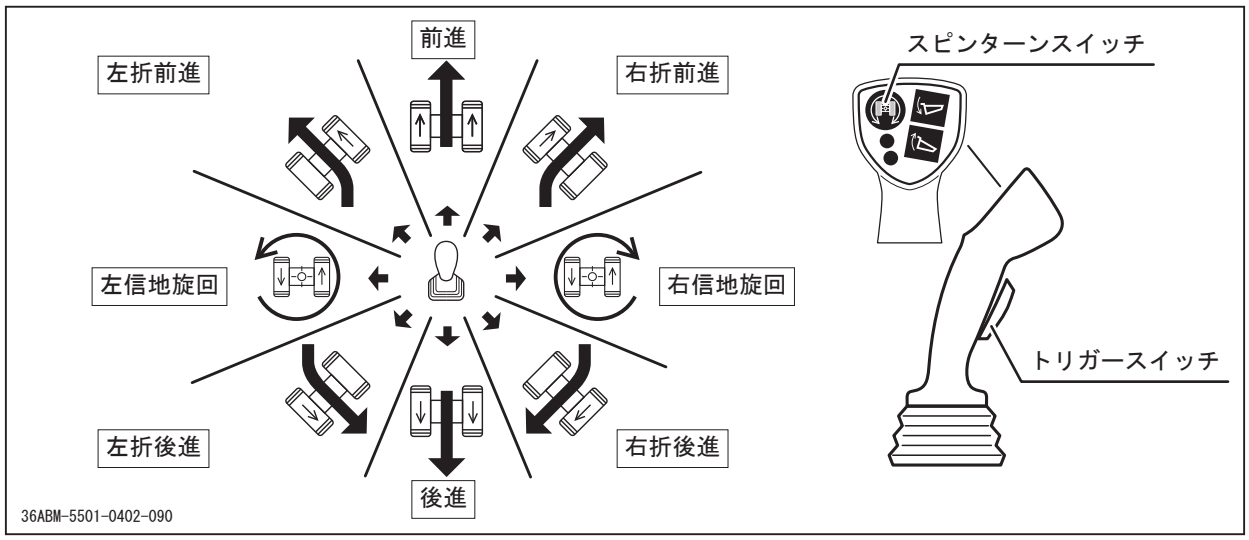


6. アクセルノブを［ （高速)］の位置に向かって回して、エンジン速度を上げます。スピードノブを ［ （高速)］ の位置に向かって回します。

アドバイス

- **速度ノブを約30%に回します。**
- **速度ノブが0%の場合、機械は動きません。**

7. トリガースイッチを押した状態で操向レバー（ジョイスティック）を傾けて車両を運転します。操向レバーの動きと機械の動きは下図のように対応しています。走行レバーの角度によって速度を任意に調整でき、スピードノブによって最大傾斜時の速度を調整できます。
8. スピンターンを行うには、ジョイスティックのスピンターンスイッチを押し、ジョイスティックを希望する方向に倒します。



アドバイス

・後進時にはブザーが断続的に鳴ります。
・スピンターンスイッチを押すと、ブザーが連続音（ピッ、ピッ、ピッ）で鳴ります。

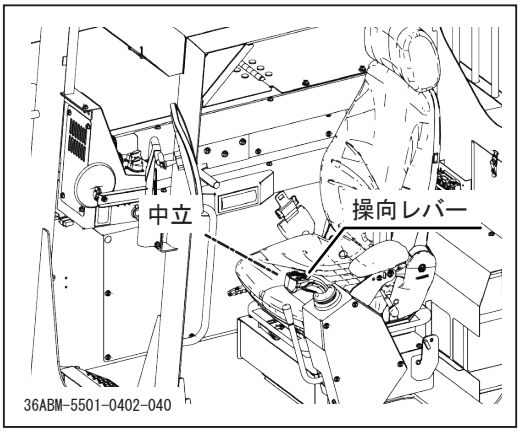
停止のしかた

⚠ 警 告

・急停止をしないでください。機械がスリップしたり転倒したりする恐れがあります。

・停止時に操向レバーを急に放さないでください。機械が急停止し、スリップしたり転倒したりする恐れがあります。機械が徐々に減速するようにゆっくり操作してください。

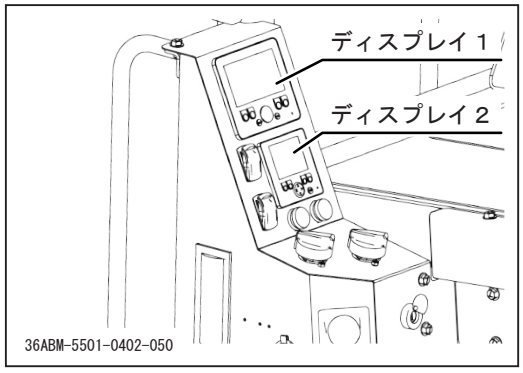
・常に固く平坦な場所に駐車してください。危険な可能性のある場所には絶対に駐車しないでください。



1. 操向レバーを徐々に中立位置に動かして、機械を停止させます。

アドバイス

・緊急エンジン停止：この機械には緊急エンジン停止機能が装備されています。機械を60度以上傾けた状態で3秒以上経過すると、エンジンが停止します。
・緊急エンジン停止機能によりエンジンが停止した場合は、バッテリー上がりを防ぐため、メインスイッチを[OFF]の位置に回してください。



エラーが検知されエンジンが停止した場合

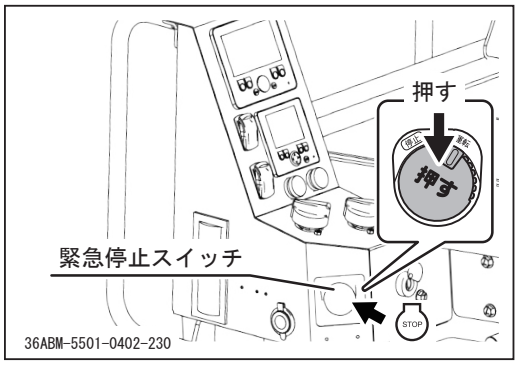
センサー、アクチュエータなどに異常が検出されると、エンジンは自動的に停止し、エラーの原因がのディスプレイ１に表示されます。
このようなエラーによりエンジンが停止した場合は、運転を再開する前に必要な措置を講じてください。

エラーが検出されると、エラーコードがディスプレイに表示されます。エラーコードが表示された場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

アドバイス

- **エンジンや車両のECUが異常を検知した場合、メーターパネルの異常表示灯が点灯します。**
- **異常が検知された場合は、本機の使用を継続しないでください。必要な措置を講じた後、使用してください。異常が発生した状態で使用すると、本機が恒久的に損傷したり、事故につながる恐れがあります。**

緊急停止



1. 非常停止スイッチを押すとエンジンが停止します。
2. 非常停止スイッチを右に回して[運転]位置にするとリセットされます。

アドバイス

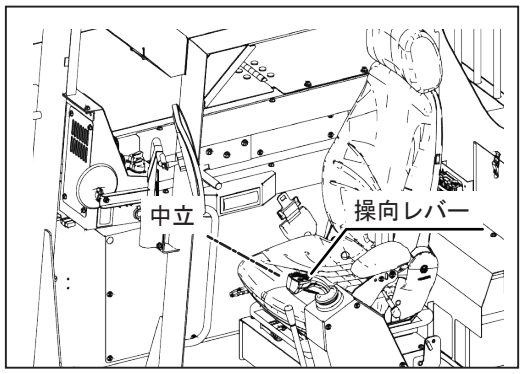
- **非常停止スイッチでエンジンを停止する場合は、メインスイッチも[OFF]にしてください。メインスイッチを[Ⅰ（ON）]の位置にしておくと、バッテリーが消耗し、放電の原因となります。**

駐車のしかた

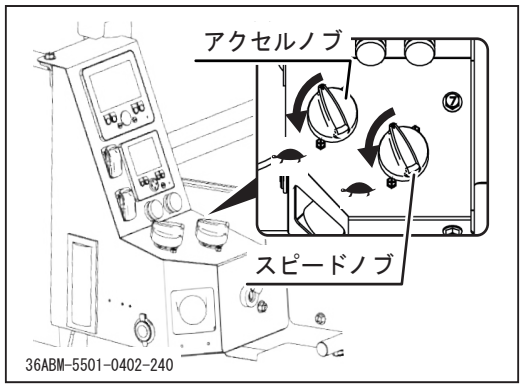
⚠ 警 告

・常に固く平らな場所に駐車してください。危険な可能性のある場所には絶対に駐車しないでください。

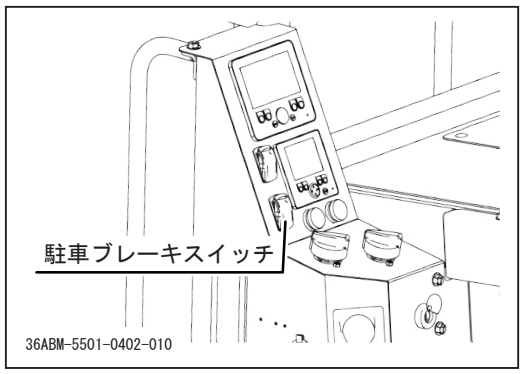
・坂道には駐車しないでください。15度以上の傾斜のある坂道には絶対に駐車しないでください。15度未満の傾斜のある坂道に駐車する必要がある場合は、必ずパーキングブレーキをしっかりと掛け、車輪止めで車輪を固定してください。



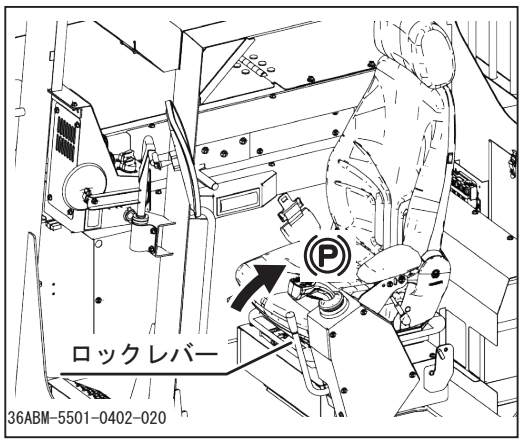
1. 操向レバーを徐々に中立位置に動かして、車両を停止させます。

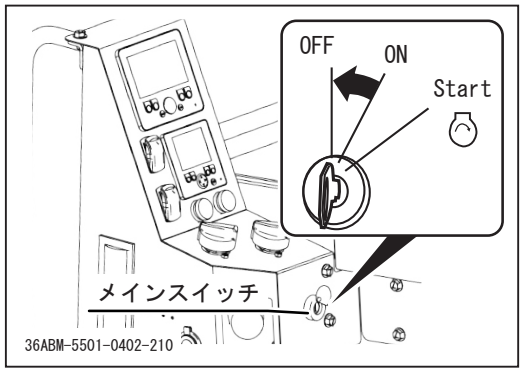


2. アクセルノブを[🐢 (SLOW)]の位置に、スピードノブを[🐢 (SLOW)]の位置に回して、エンジン回転数を下げます。



3. 駐車ブレーキスイッチを[Ⓟ（駐車）]の位置に押し、ロックレバーを[Ⓟ（駐車）]の位置に動かします。





4. メインスイッチを[◯（OFF）]の位置に回し、メインスイッチからキーを抜きます。

アドバイス

・メインスイッチを[｜（ON）]の位置にしておくと、バッテリーが消耗し、放電の原因となります。

作業の仕方

⚠ 警 告

・荷台をダンプする際は、必ず周囲の安全を確認してください。

・ダンプレバーは絶対に機械から離れて操作しないでください。荷台がオペレータや傍観者に当たったり、挟まれたりする恐れがあります。

・傾斜地での荷台ダンプは避けてください。機械が転倒する恐れがあります。

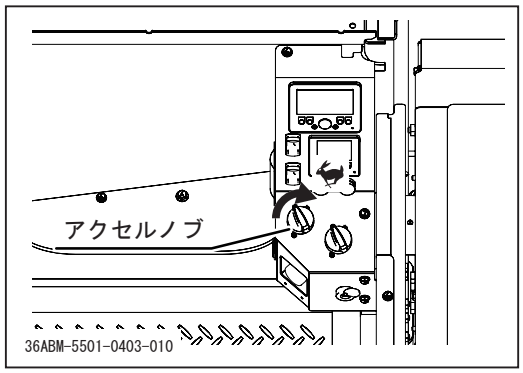
・上昇した荷台の下で作業をするときは、荷台落下防止棒で荷台を支えてください。

⚠ 注 意

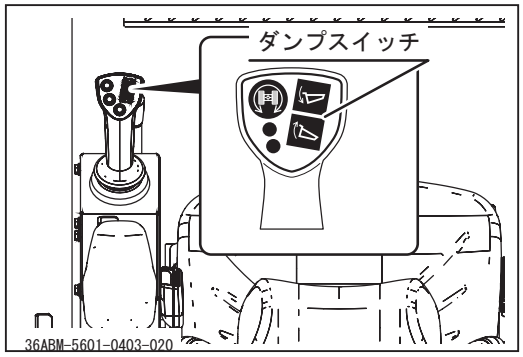
・荷台をダンプするときは、必ずエンジンをかけて行ってください。

・積載した荷台を降ろすときは、エンジン速度を落とし、荷台を静かに降ろしてください。

ダンプ操作



1. エンジンを始動し、アクセルノブを［ (高速)］位置に動かしてエンジン回転数を上げます。



2. ダンプスイッチを[(上げ)]方向に徐々に押し下げ、荷台を上昇させます。
4. 荷台が上限に達すると自動的に停止しますので、ダンプスイッチを[● (中立)]に戻してください。
5. ダンプスイッチを[(下げ)] に向かって徐々に回すように押し、荷台を下げます。
6. 荷台が下限に達すると、ヒューという音がしますので、ダンプスイッチを[● (中立)]に戻してください。

アドバイス

・荷台は水平から60度の位置で停止します。

荷台落下防止棒の使い方

⚠ 警 告

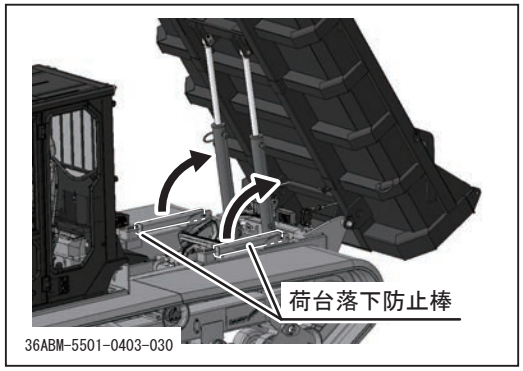
・荷台の下で点検や作業をするときは、荷台落下防止棒を荷台の下に掛けてください。

・荷台落下防止棒は2本1組で使用して空の荷台の重量に耐えられるように設計されています。

・荷台下または荷台周辺の整備を行うときは、荷台を空にしてから作業してください。

⚠ 注 意

・荷台を下げる前に荷台落下防止棒を解除してください。



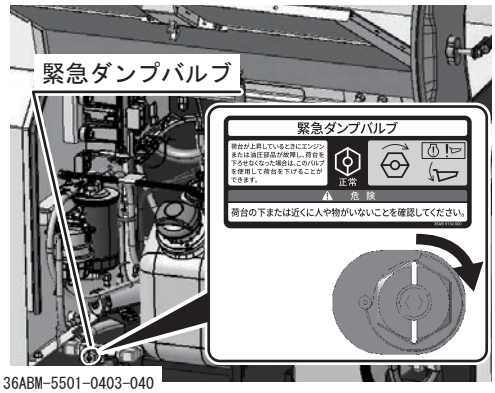
1. 荷台を上げます。
2. 両方の荷台落下防止棒を荷台の底面に当たるまで持ち上げます。

緊急ダンプバルブの使い方

荷台上昇時にエンジンや油圧機器が故障し、荷台を下降できなくなった場合、このバルブで下降させることができます。

⚠ 危　険

・荷台の下や近くに人や物がないことを確認してください。



36ABM-5501-0403-040

1. 付属のレンチでバルブのボルトを反時計回りに90度回し、白線が水平になるようにします。
2. 荷台が完全に下がったら、このボルトを時計回りに90度回し、白線が垂直になるようにします。

キャビン

エアコン

⚠ 警 告

・吸気口や排気口に指などを入れないでください。内部のファンでけがをするおそれがあります。

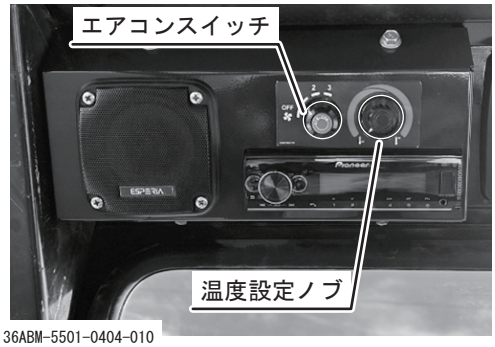
・エアコンユニットの清掃・保守・点検をするときは、必ずキースイッチを［OFF］にしてください。ファンが回転し、けがの原因となります。

・エアコン吹き出し口からの風を長時間手や足に当てないでください。エアコン吹き出し口、表面、冷媒ホースに触れないでください。やけどや凍傷の原因となります。

・エアコンを長時間使用しないときは、ルーバーを閉じてください。ルーバーが開いていると、ホコリやゴミが入り込み、故障の原因となります。

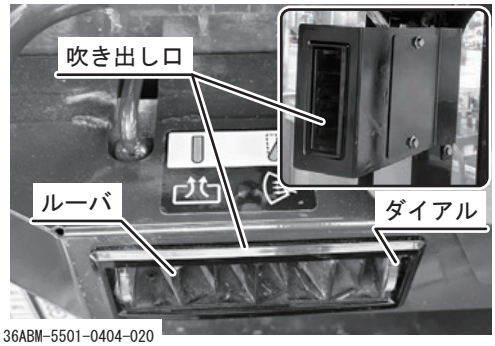
アドバイス

・エンジンが冷えているときは暖房は効きません。エンジン回転数が低いと、冷房が効きません。



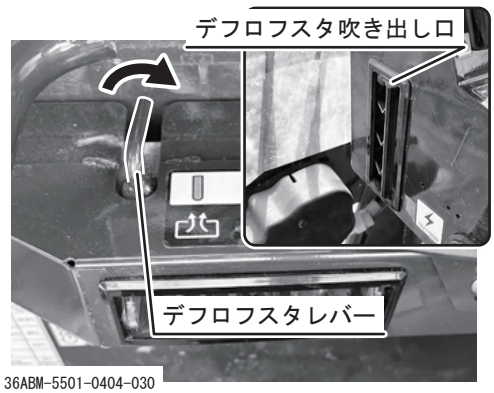
36ABM-5501-0404-010

1. エアコンスイッチを押してエアコンをオンにします。エアコン が ON になると LED が点灯します。
2. エアコンスイッチのつまみを回してファンの回転数を調節します。
3. 温度設定ノブを回して風温を調節します。ブルーゾーンは涼しく、レッドゾーンでは暖かくなります。



36ABM-5501-0404-020

4. 吹き出し口のルーバーで風向きを調節します。吹き出し口のダイアルを回して、吹き出し口を開閉します。



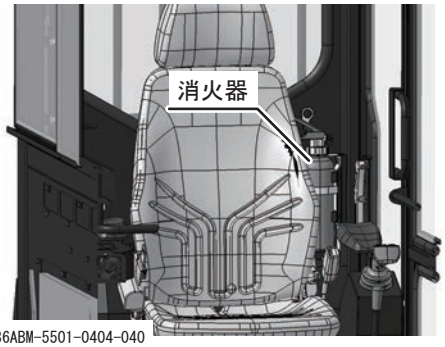
36ABM-5501-0404-030

5. デフロスターレバーを回して窓の曇りを取ります。デフロスター吹き出し口を調節して、曇りを取る範囲を調節します。

緊急装備

⚠ 危 険

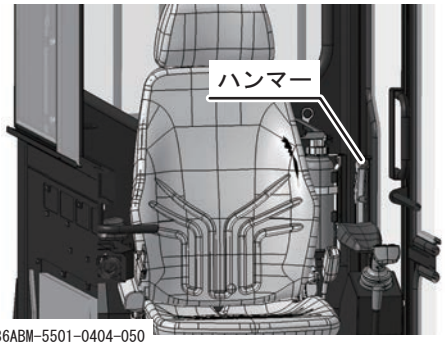
- 万一、小さな火災が発生した場合は、付属の消火器で初期消火を行い、消火が困難な場合は、直ちにマシンから離れてください。
- キャビン内に閉じ込められた場合は、付属のハンマーで窓ガラスを割って脱出してください。脱出の際は、割れたガラスに注意してください。



36ABM-5501-0404-040

消火器

1. 消火器をストラップから外します。
2. 消火器のラベルに記載されている指示に従って消火してください。



36ABM-5501-0404-050

ハンマー

1. ハンマーをホルダーから取り外します。
2. ハンマーで窓ガラスを割って脱出経路を確保します。
3. 割れたガラスを窓枠から外し、切られないようにします。
4. キャビンからの脱出します。

警告ブザー

本機には警告ブザーが装備されています。次のような場合に鳴ります：

ブザー音	状況	備考
長い吹鳴の連続 （ピーーー、ピーーー）	車両が後退中	–
短い２回吹鳴の繰り返し （ピピッ、ピピッ）	スピンターン（超信地旋回）	スピンターンスイッチを押している間、ブザー音が鳴り続けます。
短い１回吹鳴の繰り返し （ピッ、ピッ、ピッ）	DPF警告	操作に関係なくブザー音が鳴り続けます。ディスプレイにエラーが表示されます。

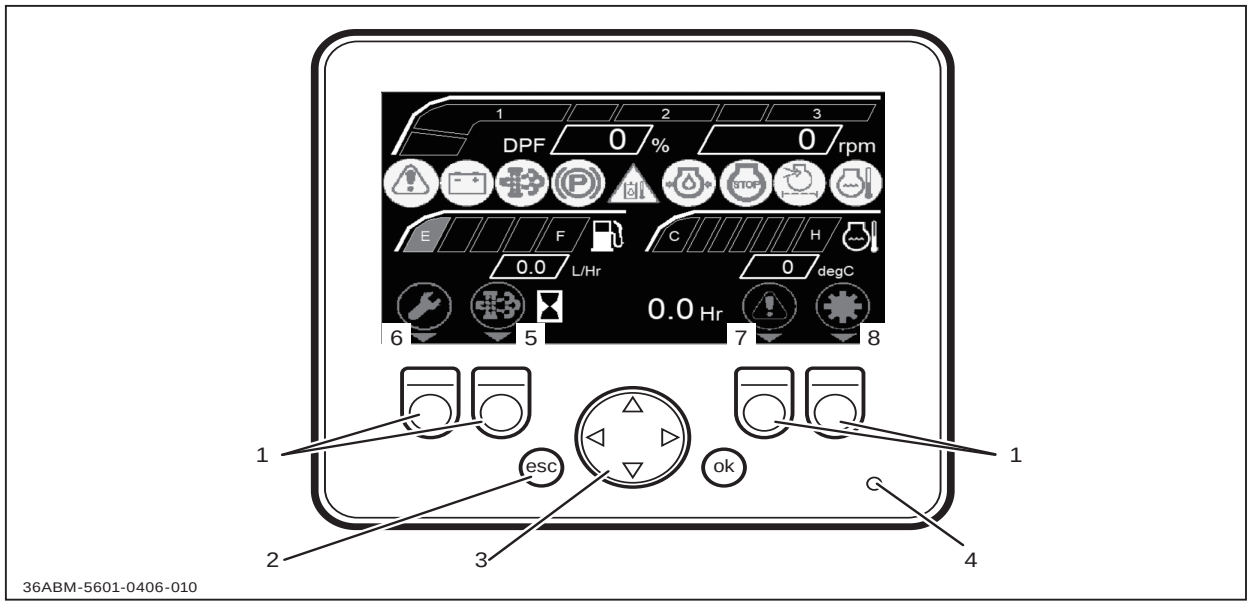
アドバイス

・高速走行時や急旋回時に警告ブザーが鳴ることがあります。

・横転した場合（60度以上の傾斜を3秒以上検出した場合）、エンジンが自動停止します。

ディスプレイ操作のしかた - ディスプレイ 1

スイッチ



1 **4連スイッチ**·····ディスプレイに表示される画面によって、これらのスイッチの役割が異なります。次の 5-8 は、ホーム画面での機能です。

2 **escスイッチ**·····このボタンを押すと、前の画面が呼び出されます。

3 **カーソルスイッチ** ·····ページをめくったり、カーソルを移動するときに使用します。

4 **LED**·····ディスプレイが故障したときに赤色のLEDが点灯します。

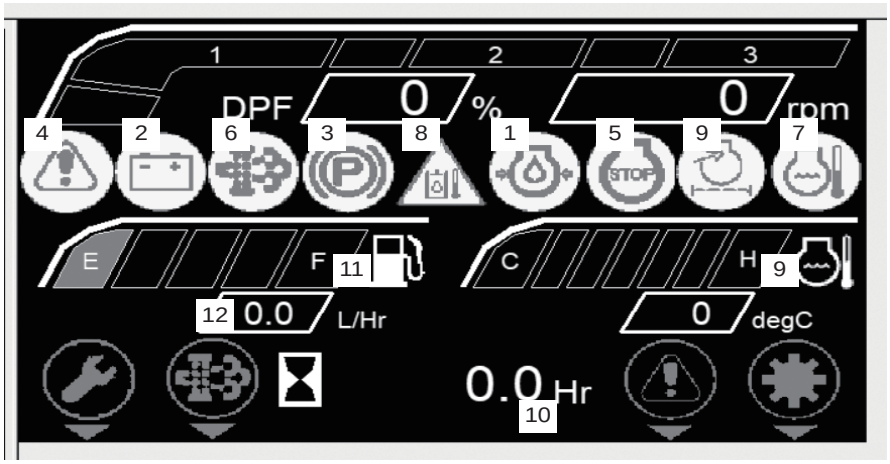
5 **DPFスイッチ**·····DPF手動再生インジケーターが点滅し、再生条件を満たした場合、DPF手動再生を開始します。

6 **メンテナンススイッチ**·····メンテナンスモード画面が表示されます。メンテナンスメッセージが表示されている場合、このアイコンが点滅します。

7 **エラースイッチ**·····押すと現在のエラー画面が表示されます。

8 **画面表示スイッチ**·····これを押すと、言語/明るさ画面が表示されます。

ホーム画面



36ABM-5601-0406-020

1 油圧警告 ·····エンジン作動中に消灯：正常。
エンジン回転中に点灯：エンジン油圧低下。
エンジン停止中に点灯：正常。

2 充電警告 ·····エンジン運転中に消灯：正常。
エンジン運転中に点灯：充電エラー。
エンジン停止中に点灯：正常。

3 パーキングインジケータ ····パーキングブレーキまたはロックレバーが作動しているときに点灯します。

4 エラー警告 ·····エンジン ECU または車両 ECU がエラーを報告しているときに点灯します。エラースイッチを押してエラーの内容を確認してください。

5 エンジン停止警告 ·····緊急停止スイッチまたは横転センサーによりエンジンが停止したときに点灯します。

6 DPF 手動再生要求·····手動再生が必要なときに点滅。
点灯：手動再生実行中。
消灯： 再生が不要、または完了したばかり。

7 オーバーヒート ····· エンジン水温が 110° C 以上 になると点灯します。
警告

8 **作動油オーバーヒート警告** ‥ 作動油が 110℃以上になると点灯。

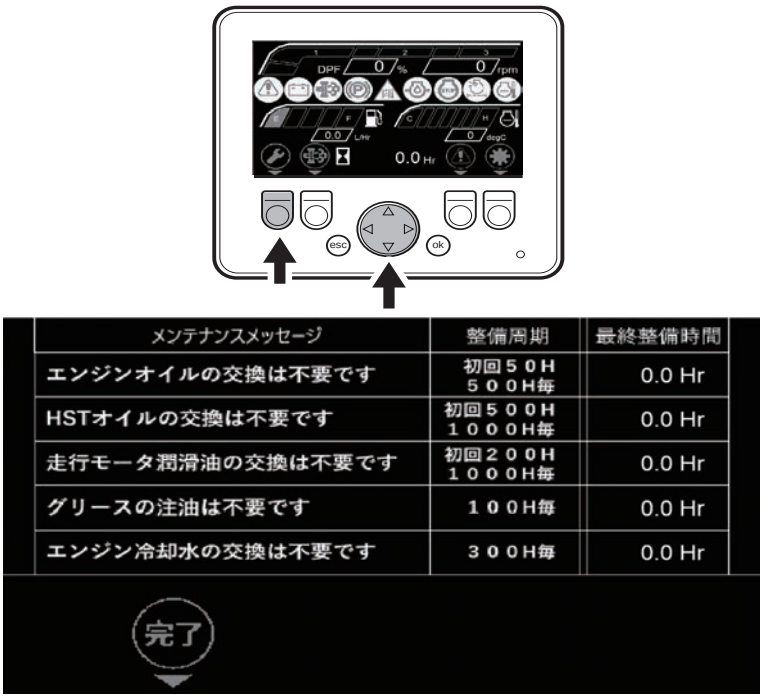
9 **エアクリーナ詰まり警告** ‥‥エアクリーナが詰まると点灯します。

10 **アワーメータ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥機械の総稼働時間を 0.1 時間単位で表示します。

11 **燃料ゲージ** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥燃料残量を表示します。

12 **燃料消費率** ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥サンプリングされた燃料消費率を表示します。

メンテナンス画面



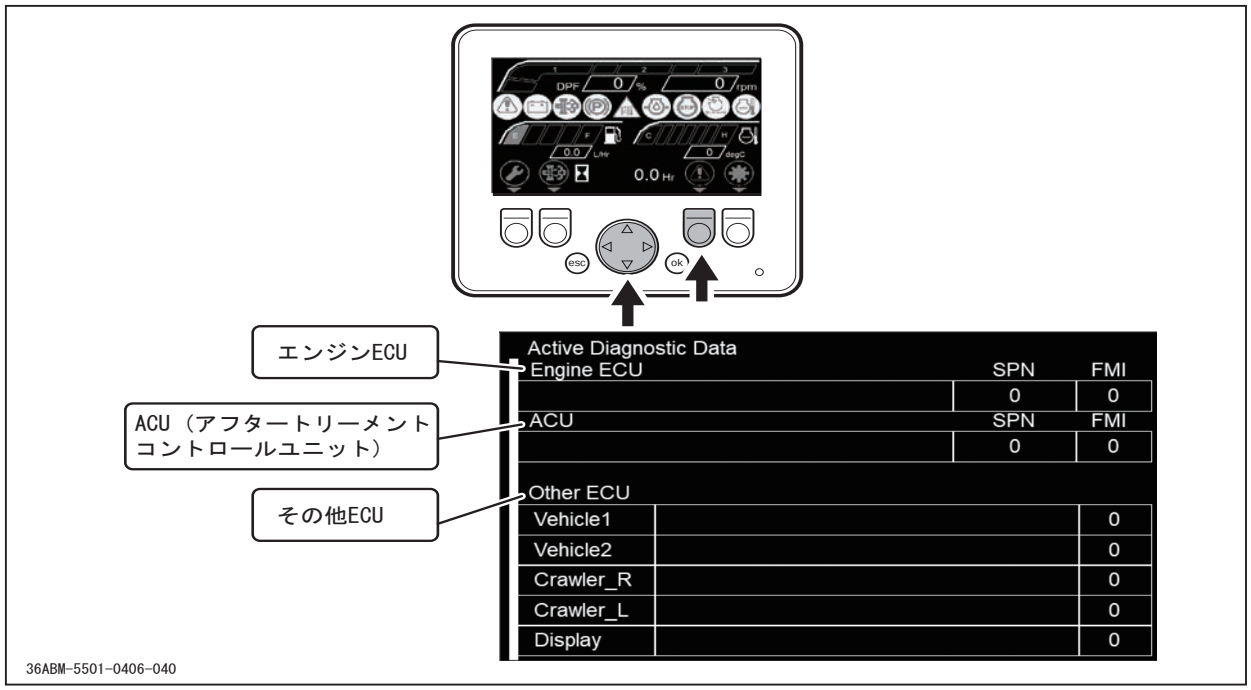
36ABM-5501-0406-030

操作の仕方

上下のカーソルで点灯しているメッセージを選択します。四連スイッチの一番左のスイッチを押してメッセージを消灯します。スイッチを押した時刻のアワーメーターの読みは、「最終サービス時刻」として記録されます。

メッセージ	間隔
エンジンオイル交換	初回50時間／以降500時間ごと
ＨＳＴオイル交換	初回500時間／以降1000時間ごと
走行モータ潤滑油交換	初回200時間／以降1000時間ごと
給脂（グリース）	100時間ごと
エンジン冷却液交換	300時間ごと

現在エラー画面



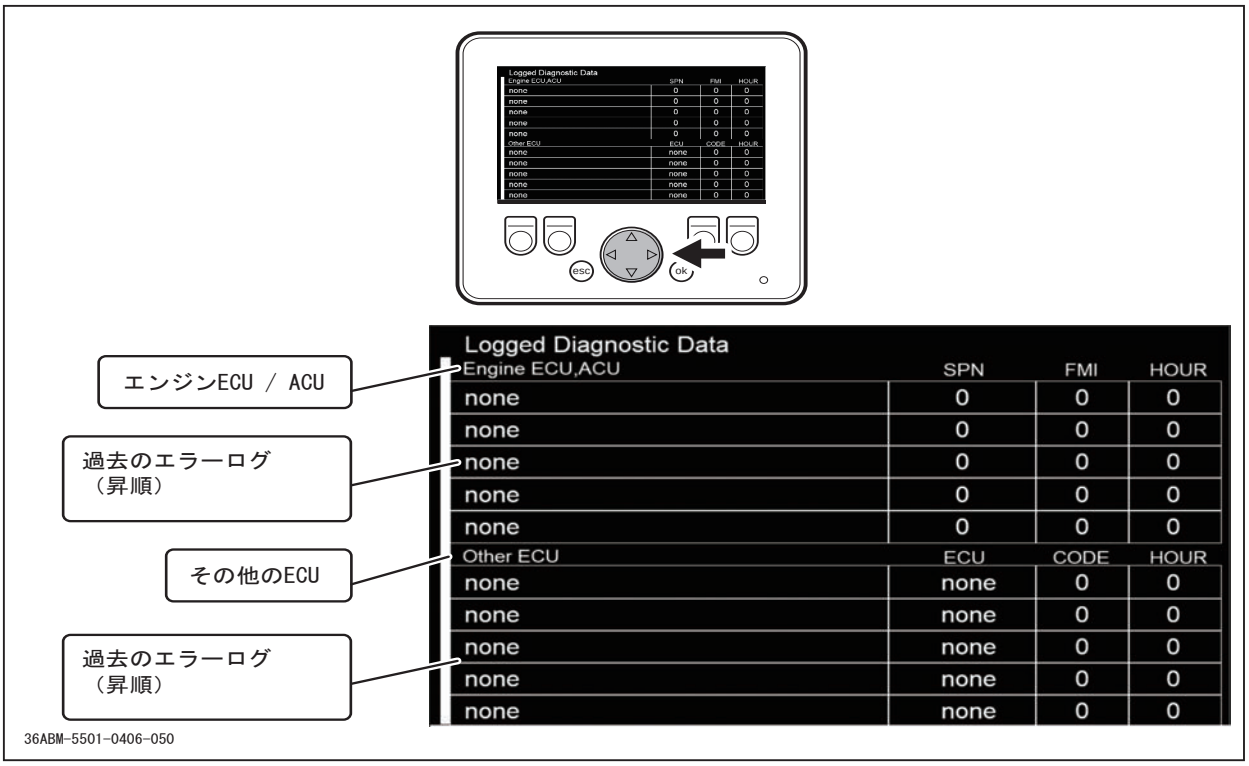
操作の仕方

ホーム画面]が表示されている状態で ⚠ ボタンを押すと、[現在のエラー画面]が表示されます。

ECU	エラーコード	内容	エンジン停止
車体ECU１	10	ピッチ(前後)方向の横転警告	√
	11	ロール(横)方向の横転警告	√
	12	作動油過熱	√
	14	エアクリーナー目詰まり	√
	56	荷台制御電流(上)の異常(+側)	
	57	荷台制御電流(上)の異常(-側)	
	58	荷台制御電流(下)の異常(+側)	
	59	荷台制御電流(下)の異常(-側)	
車体ECU２	41	操向レバー（ジョイスティック）の中立チェック不良	

ECU	エラーコード	内容	エンジン停止
右側クローラECU	5	右側クローラ前進走行制御電流異常（＋側）	√
	6	右側クローラ前進走行制御電流異常（-側）	√
	7	右側クローラ後進走行制御電流異常（＋側）	√
	8	右側クローラ後進走行制御電流異常（-側）	√
	9	オルタネータ充電異常	√
	21	左側クローラECU CAN通信断線	
	38	右側クローラパルス未検出	
	44	スロットルセンサ断線	
	45	スロットルセンサショート	
	46	スピードボリューム異常	
左側クローラECU	1	左側クローラ前進走行制御電流異常（＋側）	
	2	左側クローラ前進走行制御電流異常（-側）	
	3	左側クローラ後進走行制御電流異常（＋側）	
	4	左側クローラ後進走行制御電流異常（-側）	
	20	右クローラECU CAN通信断線	
	37	左クローラパルス未検出	
	50	荷台角センサー異常	
	60	燃料センサー断線またはその5V回路短絡	
ディスプレイ	20	右クローラECU CAN通信故障	
	21	左クローラECU CAN通信故障	
	22	車両ECU 1 CAN通信故障	
	23	車両ECU 2 CAN通信故障	
	24	エンジンECU CAN通信故障	

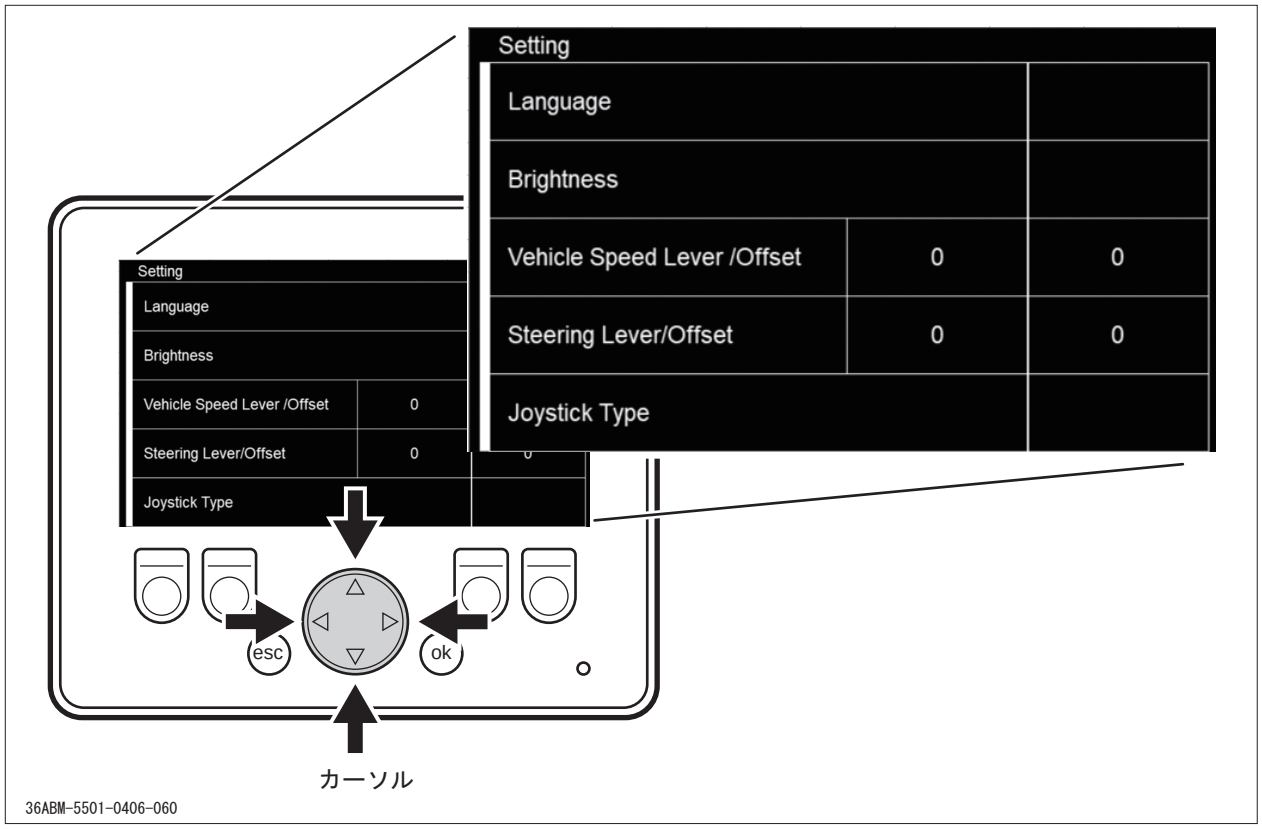
過去エラー画面



操作の仕方

[現在のエラー画面]が表示されている状態で、▸を押すと[ECU前回エラーログ画面]が表示されます。

設定画面



カーソル[△（UP）]、[▽（DOWN）]で言語、明るさ、操向レバー（ジョイスティック）オフセット、車速センサーのON/OFFを選択し、カーソル[◁（左）]、[▷（右）]で設定を変更します。

- 言語オプション： 日本語、英語
- 明るさオプション： Low、Mid、High。
- 操向レバーオフセット
  車速オフセット： ジョイスティックの前後方向のオフセット値
  ステアリングオフセット： ジョイスティックの左右方向のオフセット値

アドバイス

・オフセット値について ジョイスティックをニュートラルにしたとき、出力値が[512]からずれると、エラーや車両の誤動作の原因となります。オフセット値はカーソルスイッチで[512]に近づけるように設定できます。オフセット値を-1変更するには◂を、+1変更するには▸を押します。オフセット値を1変更すると出力値が4変わります。

- 車速センサー使用： ON（使用する）／OFF（使用しない）

ON： デフォルト設定。走行モーター内の回転センサーを使用して、クローラ速度を制御します。

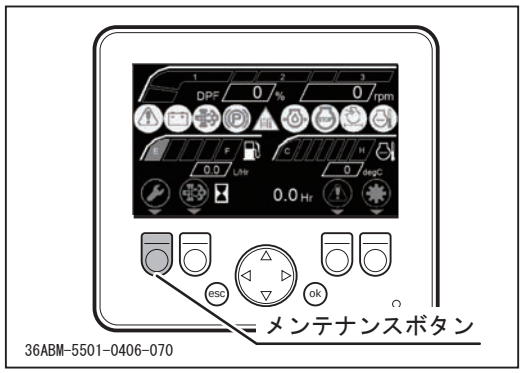
OFF：走行モーター内部の回転センサーを使用せず、走行ポンプ内部の斜板の角度のみでクローラスピードを制御します。そのため、ポンプやモータの特性によっては直進しない場合があります。

アドバイス

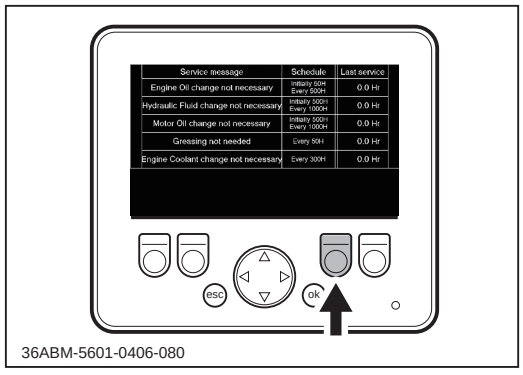
・OFFモードは回転センサーが故障した場合のみ使用してください。このモードでは、ジョイスティックをニュートラルにすると、すぐにブレーキがかかり、ブレーキディスクを損傷する可能性があります。

データ表示画面

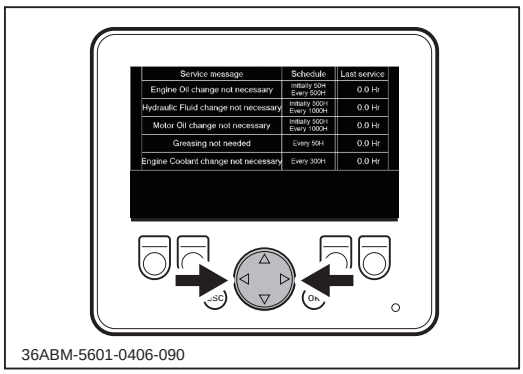
エンジンECUやコントローラーの状態を確認する画面です。詳細な車両情報の確認にご利用ください。



1. メンテナンスボタン（ホーム画面で4連スイッチの一番左）を押して、メンテナンス画面を表示します。



2. メンテナンス画面で、右から2番目のスイッチを2秒間押して、データ表示画面を表示します。



36ABM-5601-0406-090

3. この画面では、車両の詳細情報が表示されます。表示するECUを切り替えるには、左右のカーソルスイッチを使用します。

アドバイス

P1: エンジンコントロールユニット
P2：ACU
（アフタートリートメントECU）
P3-P4：右側クローラECU
P5：左側クローラECU
P6：車両ECU１
P7：車両ECU２

エンジンデータ

No.	画面表示	内容	単位／備考
1	Throttle Position	スロットル開度	%
2	Battery Potential	バッテリ電圧	V
3	Total Fuel Used	累積燃料消費量	L
4	Engine Speed	エンジン回転数	rpm
5	Percent of Load	エンジン負荷	%
6	Engine Oil Pressure	エンジンオイル油圧	kPa
7	DPF1 Soot Load Percent	DPF内の煤量	% 100%以上で自動再生開始
8	DPF Status	DPF状況	Not needed: 再生不要 Lowest Level: 煤レベル低 Moderate Level: 煤レベル中 Highest Level: 煤レベル高
9	Regen Levels	再生レベル	0: 再生の必要なし 1: 自動再生 2: 駐車時に再生リクエスト 3: 駐車時に再生 4: サービスツールにて再生 5: DPF清掃
10	Regen Status	再生状況	Not active: 再生していない Active: 再生中 Regen needed: 再生要求中

ACU（アフタートリートメントコントロールユニット）データ

No.	画面表示	内容	単位／備考
1	Aftertreatment Intake Percent O2	後処理装置の吸入口における酸素レベル	%
2	Aftertreatment Outlet Percent O2	後処理装置の排出口における酸素レベル	%
3	Aftertreatment Outlet Gas Sensor Heater Control	後処理装置排出口ガスセンサーのヒーター状態	Automatic: 自動 Preheat 1: プリヒート 1 Preheat 2: プリヒート 2 Heat off : ヒートオフ
4	Aftertreatment DEF Concentration	後処理装置内のDEF（尿素水）レベル	%
5	Aftertreatment DEF Property	後処理装置内でのDEFの状態	Conc. too high: 混合液の濃度が高すぎる Conc. too low: 混合液の濃度が低すぎる Fluid is diesel: 軽油がSCRタンク内に混じっている Proper mixture: 混合液は適切 Fluid unknown: 混合液の構 Error: エラー
6	Aftertreatment SCR Operator Inducement Severity	後処理SCR オペレーター誘発重大度	: 表示なし Not active: 非アクティブ Initial warning: 初期警告 Low level active: 低レベルでアクティブ Waiting: 待機 Severe Activer: 重度アクティブ Restored: 復帰
7	Aftertreatment 1 SCR Intake Temperature	後処理装置１のSCR吸入口の温度	℃
8	DEF Level	DEF残量	%
9	DEF Lamp Status	DEFランプの状態	OFF: 消灯 ON: 点灯 Blink: 点滅

右側クローラ ECU データ

No.	画面表示	内容	単位／備考
1	OUTPUT0 - Blinker	ウインカー出力	1: ON 0:OFF
2	OUTPUT1 - Brake Release Valve	ブレーキリリースバルブ	1: ON 0:OFF
3	INPUT0 - Eco Mode Switch	エコモードスイッチ	1: ON 0:OFF
4	INPUT1 - Parking Brake Switch	駐車ブレーキスイッチ	1: ON 0:OFF
5	INPUT2 - Charge Switch	チャージスイッチ	1: ON 0:OFF
6	Crawler_R Duty/ Target_I/Act_I	右側クローラデューティ/ターゲット電流/実電流	Duty: % ターゲット/実電流: A
7	Crawler_T Target Speed/Act Speed	右側クローラターゲット速度／実速度	ターゲット／実速度: km/h
8	Engine Stop Request	エンジンストップリクエスト	1: ON 0:OFF
9	Charge Indicator Lamp Request	チャージインジケータランプリクエスト	1: ON 0:OFF
10	Travel Stop/Travel Permit	走行停止／走行許可	1: ON 0:OFF
11	Speed Limit	スピードリミットボリューム位置	%
12	Accel Pedal Position	アクセルペダル位置	%
13	Target Engine Speed	ターゲットエンジン速度	rpm

左側クローラ ECU データ

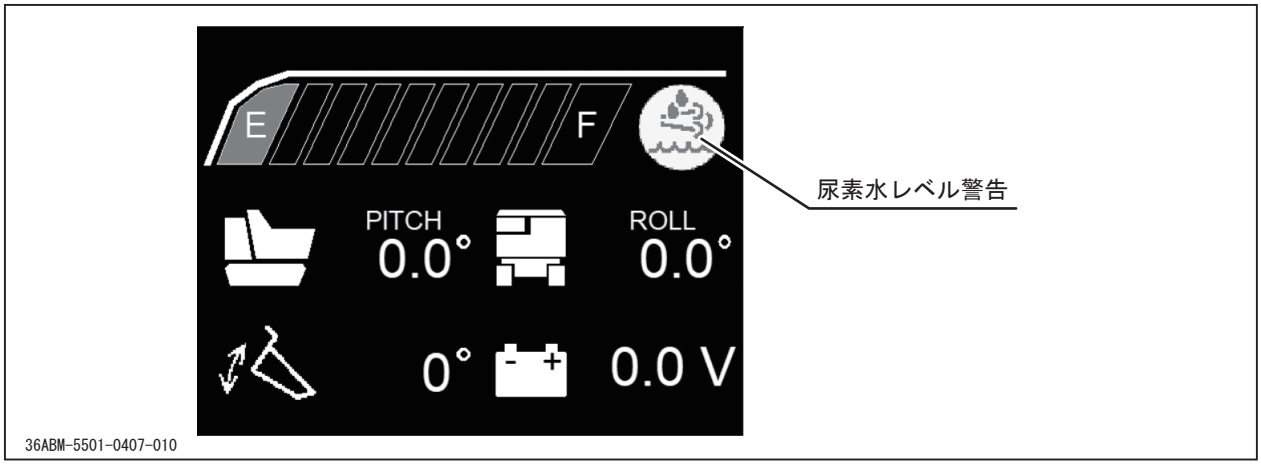
No.	画面表示	内容	単位／備考
1	OUTPUT0 - Cooling Fan Valve	冷却ファンバルブ	1: ON 0:OFF
2	OUTPUT1 - Sub Transmission Valvbe	副変速機バルブ	1: ON 0:OFF
3	INPUT0 - Sub Transmission Switch	副変速機スイッチ	1: ON 0:OFF
4	Crawler_L Duty/ Target_I/Act_I	左側クローラデューティ／ターゲット電流／実電流	Duty: % ターゲット／実電流: A
5	Crawler_L Target Speed/Act Speed	左側クローラ／ターゲット速度／実速度	ターゲット／実速度: km/h
6	Engine Stop Request	エンジン停止リクエスト	1: ON 0:OFF
7	Fuel Sensor	燃料センサー	%
8	Bed Angle	荷台の角度	度
9	Travel Stop/Travel Permit	走行停止／走行許可	1: ON 0:OFF

車体 ECU 1 データ

No.	画面表示	内容	単位／備考
1	OUTPUT0 - Back Buzzer	後進ブザー出力	1: ON 0:OFF
2	OUTPUT1 - Engine Stop Relay	エンジン停止リレー出力	1: ON 0:OFF
3	INPUT2 - Air Cleaner Switch	エアクリーナスイッチ	1: ON 0:OFF
4	INPUT3 - Hydraulic Oil Temp Switch	油圧作動油温度スイッチ	1: ON 0:OFF
5	Engine Stop Request	エンジン停止リクエスト	1: ON 0:OFF
6	Air Cleaner Indicator Lamp Request	エアクリーナインジケータランプリクエスト	ターゲット／実速度 : km/h
7	Hydraulic Oil Overheat Lamp Request	油圧作動油オーバーヒートランプリクエスト	1: ON 0:OFF
8	Speed Lever / Steering Lever	スピードレバー／操向レバー	25から1000まで変化。ニュートラルは512（要調整）
9	UpDown Duty/Target_I/ Act_I	荷台ダンプバルブデューティ／ターゲット電流／実電流	Duty:% ターゲット電流／実電流: A
10	Roll Angle/Pitch Angle	ロール角度／ピッチ角度	度

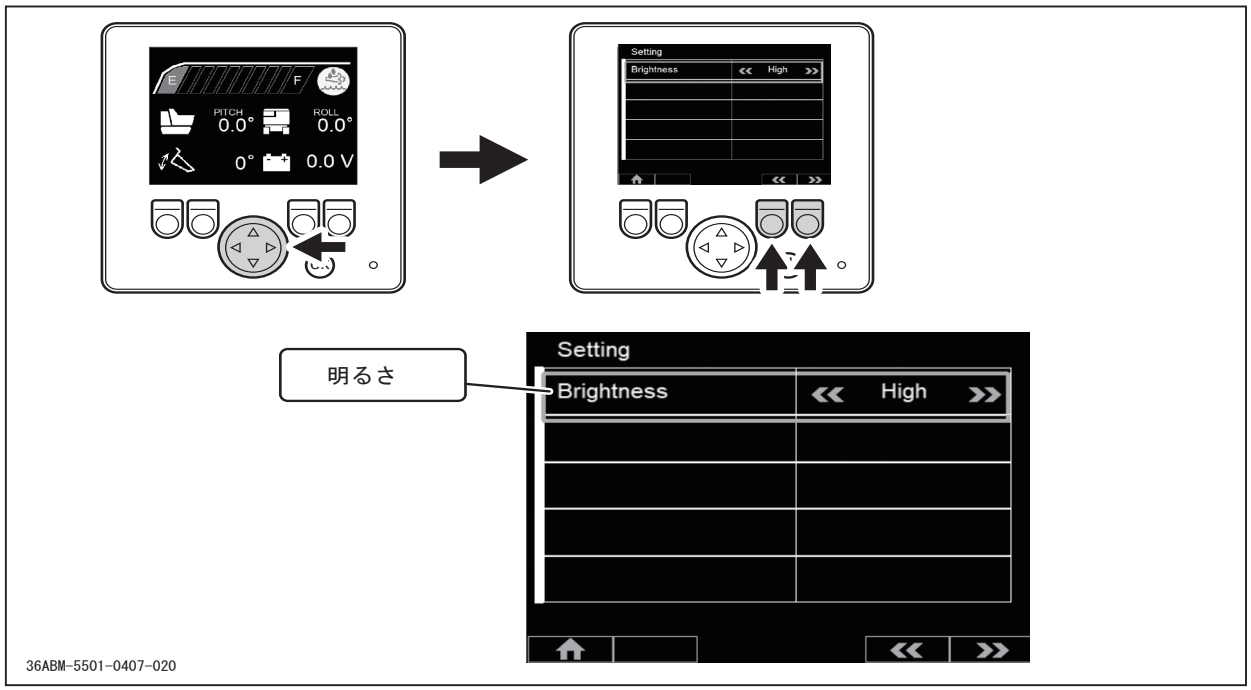
ディスプレイ操作のしかた - ディスプレイ２

ホーム画面



尿素レベルが低くなると尿素レベル警告が点灯します。レベルが空に近づくと点滅します。

設定画面



ホーム画面でカーソルスイッチの[▶（右）]を1回押して設定画面を出す。
<<]と[>>]の真下にある2つの右ファンクションスイッチ（4連スイッチ）で明るさの設定を変更します。

- 明るさの選択肢 Low、Mid、High。

定期点検表

⚠ 注　意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。

・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目			点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
原動機	本体	始動性	エンジンの始動が容易で異音がないこと。	○	○	○	
			グロープラグが正常に機能すること。	○	○	○	
		回転の状態	アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数が正規の回転数であり、回転が円滑に続くこと。	○	○	○	販売店に点検を依頼してください
			エンジンを加速した時にアクセルノブの引っかかり、エンジン停止、ノッキングが起こらないこと。	○	○	○	
		排気の状態	エンジンを十分に暖気した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音が正常であること。	○	○	○	
			排気管、マフラ等からの排気漏れがないこと。	○	○	○	
		エアクリーナ	ケースの亀裂、変形および接続管の緩みがないこと。		○	○	
			エレメントに著しい汚れまたは損傷がないこと。		○	○	76ページ
		ボルト、ナット類	シリンダーヘッド、インテーク、エキゾーストマニホールドを固定しているボルトとナットがしっかりと固定されていること。 ＊ これらの箇所にガス漏れや水漏れがない場合、この作業は省略できる。			○	
		バルブクリアランス	バルブクリアランスが適正であること。 *バルブクリアランス不良による異音がなく、エンジンが正常に作動する場合は省略できる。			○	販売店に点検を依頼してください

項目			点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
原動機	本体	圧縮	圧縮が適正であること。 *アイドリング時および加速時の走行状態および排気状態が正常であれば、この項目は省略できる。			○	販売店に点検を依頼してください
		エンジンマウント	エンジン・ベースに亀裂や変形がないこと。	○	○	○	
			取付ボルトおよびナットに緩みや欠落がないこと。	○	○	○	
	潤滑装置		油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検/交換：☞74ページ
			ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等から著しい油漏れがないこと。	○	○	○	
	燃料装置		燃料タンク、ホース、パイプに漏れがないこと。	○	○	○	
			燃料ホースに損傷や劣化がないこと。	○	○	○	
			フュエルフィルタが過度に汚れていたり，目詰まりしていないこと。		○	○	点検/交換：☞85ページ
			燃料タンクに沈殿物や水が混入していないこと。		○	○	
			ノズルからの噴射圧と噴射状態が正常であること。 * アイドリング時、加速時の走行状態、排気状態が正常であれば省略可。			○	販売店に点検を依頼してください
	冷却装置		冷却液は清浄で、適正レベルであること。	○	○	○	
			ラジエター、エンジン、ウォーターポンプ、ホースから漏れがないこと。	○	○	○	
			ラジエータフィンに目詰まりがないこと。	○	○	○	
			ラジエータキャップバルブが適切に機能すること。			○	
			ファンベルトに摩耗や損傷がなく、適切な張力であること。			○	点検：☞79ページ
			冷却ファン、ダクト、カバーに亀裂、損傷、変形がないこと。			○	
			冷却ファン、ダクト、カバーの取り付けボルトおよびナットに緩みや欠落がないこと。			○	

項目			点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
原動機	電気系統	充電装置	充電システムが正常に作動していること。			○	販売店に点検を依頼してください
		バッテリ	バッテリーの電解液レベルが適正であること。		○	○	点検/補充：☞97ページ
			端子に著しい腐食がなく、しっかりと固定されていること。		○	○	
		配線	接続は緩んでおらず、確実に接続されていること。		○	○	
			配線に損傷がないこと。		○	○	
走行系	HSTポンプ		マシンを前後左右に運転したとき、マシンが正常に動き、不規則なノイズやオーバーヒートがないこと。	○	○	○	
			作動油が適切なレベルまで充填されていること。	○	○	○	点検/交換：☞91ページ
			作動油は、汚れやコンタミネーションのない清浄なものであること。		○	○	点検/交換：☞91ページ
			作動油タンクまたはその周辺に油漏れがないこと。		○	○	
足回り	ホイール、スプロケット、アイドラ		亀裂、変形、過度の摩耗がないこと。	○	○	○	
			アクスルに過度の遊びがないこと。走行中に異音やオーバーヒートが認められないこと。	○	○	○	
			取り付けボルトやナットに緩みや欠落がないこと。	○	○	○	
			車軸およびその周辺にオイル漏れがないこと。		○	○	
	クローラ		著しい切断、劣化、摩耗がないこと。	○	○	○	
			クローラが適切に張られており、緩すぎたり、きつすぎたりしていないこと。	○	○	○	調整：☞88ページ
			トラック・コアの欠落や損傷がないこと。	○	○	○	
			テンションボルトに変形や腐食がないこと。	○	○	○	
ブレーキ	駐車ブレーキ		駐車ブレーキが適切に作動すること。	○	○	○	
			パーキングブレーキは、20度の傾斜でマシンを保持できること。		○	○	
油圧装置	油圧ポンプ		油圧ポンプまたはその周辺に漏れがないこと。		○	○	
			締め付けボルトおよびナットに緩みや欠落がないこと。		○	○	
			油圧ポンプが作動しているときに，不規則な振動，騒音，熱がみられないこと。		○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
油圧装置	油圧ポンプ	負荷時に油圧ポンプの吐出量および吐出圧力がメーカー指定の基準値内であること。 ※上記項目の異常振動、異音および異常発熱がなければこの検査を省略してもよい。			○	
	油圧バルブ	油圧バルブまたはその周辺に漏れがないこと。		○	○	
	配管（ホース類、高圧パイプ）	配管に亀裂、損傷、劣化またはねじれがないこと。		○	○	
		パイプ、ホース、ジョイント、シールに漏れがないこと。		○	○	
		配管の取付状態が適正で、ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと。		○	○	
		ブリーザが詰まっていないこと。		○	○	
	油圧シリンダ	円滑に作動すること。		○	○	
		シリンダを伸縮作動させた時にシール部からの油漏れがないこと。		○	○	
		シリンダに負荷をかけて静止させた時の伸縮量がメーカー指定の基準値内であること。			○	
		シリンダチューブおよびロッドに打痕、亀裂、曲がりまたは擦り傷がないこと。		○	○	
		シリンダ取付ピンに損傷または著しい摩耗がないこと。	○	○	○	
車体・安全装置等	車枠および車体	亀裂、変形または腐食がないこと。		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
	カバー	亀裂、変形または腐食がないこと。		○	○	
		カバーの開閉またはロックに異常がないこと。		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと。		○	○	
	荷台	荷台の上昇および下降ならびにテールゲートの開閉が円滑に行えること。	○	○	○	
		各部の亀裂、変形および摩耗がないこと。	○	○	○	
		取付けボルトの緩みおよび脱落がないこと。	○	○	○	
	荷台落下防止棒	荷台落下防止棒にに変形がないこと。		○	○	
	座席	座席調整およびロック装置の作動が適正に作動すること。		○	○	
		取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落がないこと。	○	○	○	

項目		点検内容	点検時期			備考
			始業	月次	年次	
車体・安全装置等	ラベル	注意、指示銘板等に汚れまたは損傷がないこと。	○	○	○	
	計器類	エンジン運転時に各計器が正常に作動すること。	○	○	○	
	ＲＯＰＳ，ＦＯＰＳ	変形または腐食がないこと。	○	○	○	
		取付けボルトおよびナットに緩みまたは脱落のないこと。	○	○	○	
	シートベルト	取付け部に緩みのないこと。	○	○	○	
		亀裂や損傷のないこと。	○	○	○	
	緊急停止スイッチ	スイッチ操作時にエンジンがすぐに停止すること。	○	○	○	点検：☞35ページ
	エアコン	フィルタが清浄であること。	○	○	○	点検/清掃：☞103ページ
		エアコンユニット内部にゴミや異物が入っていないこと。あれば清掃する。	○	○	○	点検/清掃：☞103ページ
	前照灯 作業灯	正常に点灯すること。	○	○	○	
		レンズに亀裂や欠けがなく、ライトの中に水が入っていないこと。		○	○	
	ホーン	スイッチ操作時に正常に作動すること。	○	○	○	

給油・給水一覧表

項　　目	補　給（交　換）時　期	推　　奨　　品	容　量
燃　　料	随時	軽油 NO.2-DまたはNo.2D （超低硫黄）	125L
ディーゼル排気水（DEF）	随時	AdBlue®（AUS 32 DEF）	20L
エンジンオイル	補給　毎日点検し不足時に補給 交換　初回：50時間 2回目以降：500時間毎	エンジンオイル API分類　CJ-4またはCK-4 JASO規格DH-2　SAE10W-30	14.8L
HSTオイル（油圧作動油兼用）	交換　初回：500時間 2回目以降：1000時間毎	高粘度指数油圧作動油 VG46 ※寒冷地（-15℃以下）で私用する場合は耐摩耗性作動油VG32を使用してください	90L
走行モータ潤滑油	交換　初回：200時間 2回目以降：1000時間毎	ギヤオイル API分類　GL4 SAE分類　#90	3.2L
グリース	100時間毎	リチウム万能グリース (稠度2号相当)	-
エンジン冷却水	補給　毎日点検し不足時に補給 交換　300時間毎（6か月ごと）	不凍液混合水(50%希釈)	13L 1.1L*1
バッテリ液	50時間毎に点検し不足時に補給	蒸留水	-

*1 クーラントリザーバ

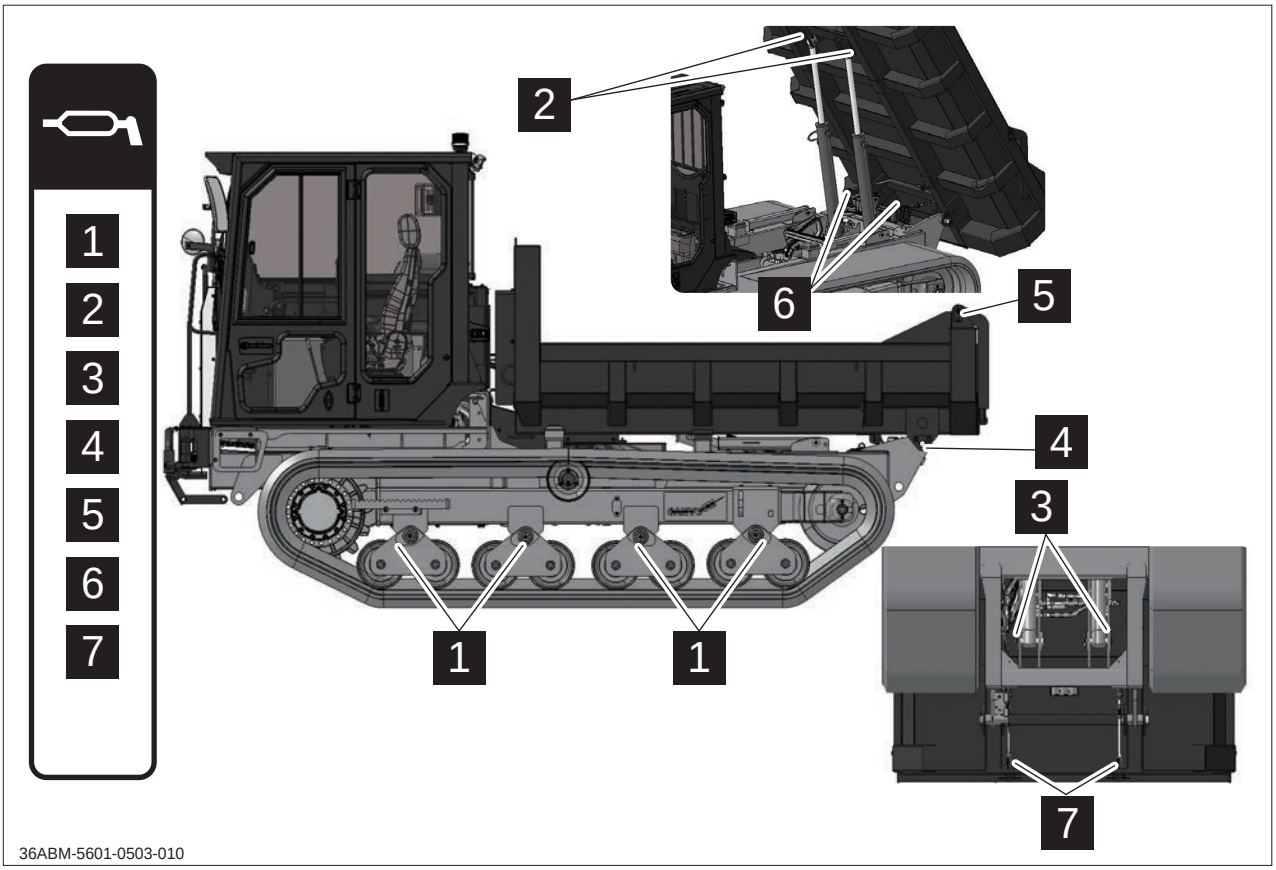
給脂・注油一覧表

⚠ 注　意

・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなる恐れがありますので、定期的に給脂を行ってください。

アドバイス

・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、直ちに給脂を終了してください。
・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。
・刈刃リンク支点の給脂は、刈高さを最も下げた位置で行ってください。



給脂箇所		給脂箇所数	推奨品
1	スイング軸	8	シャーシグリース
2	ダンプシリンダピン（上）	2	シャーシグリース
3	ダンプシリンダピン（下）	2	シャーシグリース
4	ダンプ軸	2	シャーシグリース
5	荷台扉軸	2	シャーシグリース
6	ロワロックローラ	2	シャーシグリース
7	荷台扉ロック軸	2	シャーシグリース

フロンガス

アドバイス

・本製品はエアコンの冷媒としてフロンガスを使用しており、「フロン類の使用の合理化および管理の適性化に関する法律」（略称「フロン排出抑制法」）の対象となります。
　対象機種：第一種特定製品（エアコン仕様の建設機械）
・同法は対象機種の「簡易点検の実施と記録」「記録の保管」の実施を義務付けています。

⚠ 注 意

・本製品の管理者は以下の簡易点検の実施と記録を義務付けられており、これを怠ると法令違反となります。

簡易点検の実施

三か月に一回以上の頻度で、目視による簡易点検を行う必要があります。
・　簡易点検は目視によるの配管部分の異音・異常振動や製品外観の損傷・腐食、錆や油のにじみなどの点検で、実施に資格は要求されません。

アドバイス

・点検により冷媒の漏れや、その可能性が発見された場合は速やかに販売店にご連絡いただき、対応を依頼してください。
・点検の代行ごご希望の場合は販売店へご連絡ください。
・冷媒などに使用されるフロン類の充填や回収は、都道府県知事の登録を受けている「第一種フロン類充填回収業者」が行うこととされています。
　- お客様ご自身で充填や回収をされないでください。
　- 充填や回収が必要な場合は販売店へご連絡ください。
・フロン排出抑制法において簡易点検の記録と記録の保管が義務付けられています。次ページの簡易点検表をコピーまたはダウンロード（下記）して点検結果を記録してください。
・点検記録表は機械を廃棄・譲渡してから3年間保管することが義務付けられています。また、機械を譲渡する際は、その写しを譲渡先に引き渡すことが義務付けられています。
・簡易点検表右のQRコードもしくは下のURLからダウンロードすることができます。https://www.canycom.jp/maintenance/recomment/freonlist.pdf

1.　次ページの簡易点検表の項目を点検し、点検表に記録してください。
2.　点検表の記録を保存してください。

フロン排出抑制法に基づく第一種特定製品（建設機械用エアコン機器等）

お客様簡易点検記録表

機種		管理責任者	
型式			
機番			

点検				項目	機器の損傷・腐食	機器の冷媒の漏れ	機器の騒音	機器の振動	風量（冷風温風）調整機能	特記事項
点検者	年	月	日	基準	損傷・著しい腐食	油漏れ・にじみ	異常な音	異常な振動	風量変化の状態	特記事項
				三か月に一回以上点検のこと	有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	
					有・無	有・無	清・無	有・無	良好・不良	

c 2025 Chikusui CANYCOM, Inc. 36AB 5502 000

消耗部品

⚠ 注　意

・交換または修理が必要な場合は弊社純正部品のみを使用してください。弊社純正部品以外を使用し、問題が発生した場合は一切の責任を負いません。

アドバイス

・ゴム製品は時間の経過とともに劣化します。２年毎に交換してください。
・以下のURLまたはQRコードでオンラインパーツリストをご覧ください。
https://www.canycom.jp/maintenance/parts/
サイトに移動し、リスト内からモデルを検索します。

・消耗部品は別のページに記載されています。
https://www.canycom.jp/maintenance/recomment/consumables_S500V.pdf
（これはPDFファイルにリンクしています。Adobeリーダーまたは類似のものが必要です。） このファイルに無い部品については上記のパーツリストを参照してください。

・上記のパーツリストが表示できない場合は販売店にお問い合わせください。
・部品の交換は販売店に依頼してください。

カバーの開けかたおよび取り外しかた

⚠ 危　険

・安全カバーを外したり開けたまま、この機械を操作しないでください。重大な負傷または死亡事故につながる恐れがあります。

⚠ 警　告

・火傷や走行中の危険性があります。エンジンが作動中または停止直後は、エンジンやマフラーカバーに触れないでください。

⚠ 注　意

・カバーの開閉時および取り付け・取り外し時に手や指をはさまないように十分注意してください。

・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

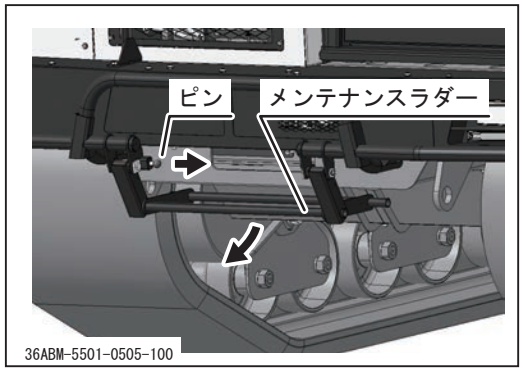
メンテナンスラダー

⚠ 注　意

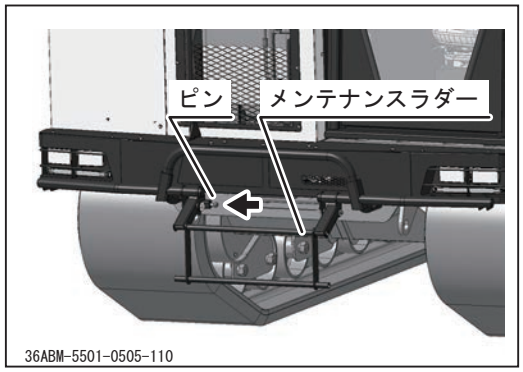
・使用前に破損や変形がないことを確認してください。

・滑り止めシートが摩耗したり剥がれたりしていないことを確認してください。摩耗したりはがれている場合は、交換してください。

・走行中はラダーを収納してください。製品が障害物などに衝突した場合に損傷する恐れがあります。



1. メンテナンスラダーを支え、ピンを引きます。

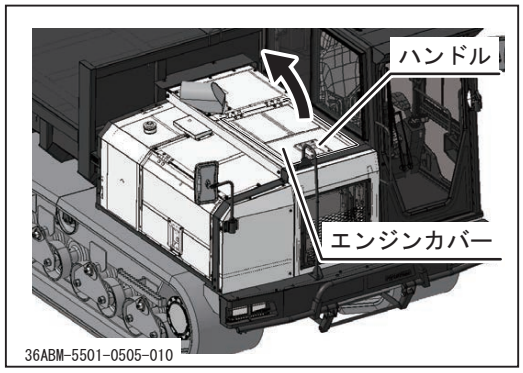


2. ラダーを下ろします。
3. ラダーが完全に下がったら、ピンを穴に差してラダーを固定します。

アドバイス

・エンジンルーム内の整備を行う際にメンテナンスラダーを使用してください。

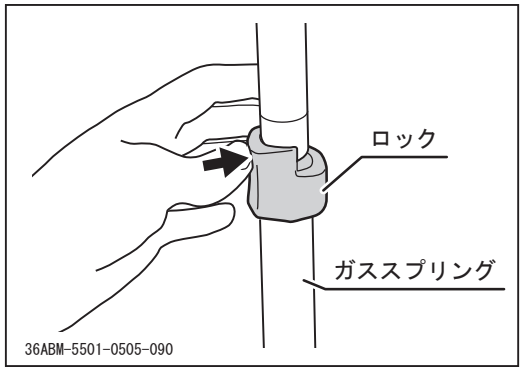
エンジンカバー



1. ハンドルを引いてエンジンカバーを開けます。カバーを完全に持ち上げて止めます。

アドバイス

・カバーはガススプリングで支えられ、開いた状態で保持します。

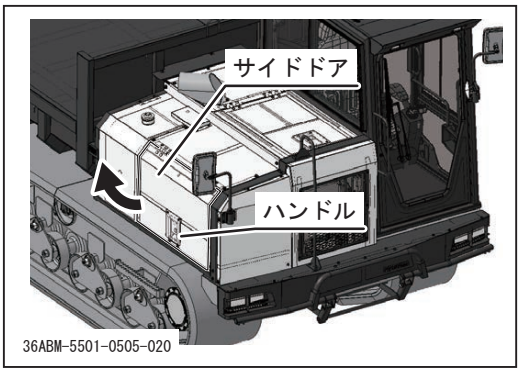


2. カバーを占めるときは、ガススプリングのロックを押しカバーをゆっくりと閉めます。

アドバイス

・エンジンカバーのハンドルはメインキーで施錠できます。

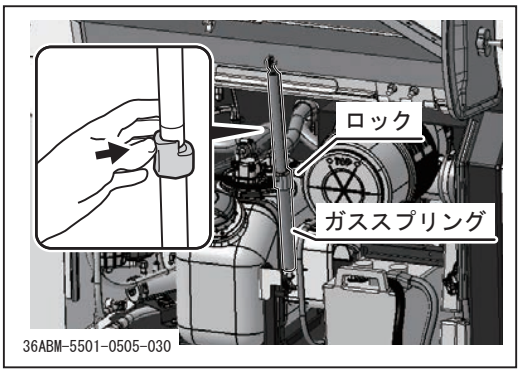
サイドドア



1. ハンドルを引いてサイドドアを開けます。ドアを完全に持ち上げて止めます。

アドバイス

・ドアはガススプリングで支えられ、開いた状態で保持します。

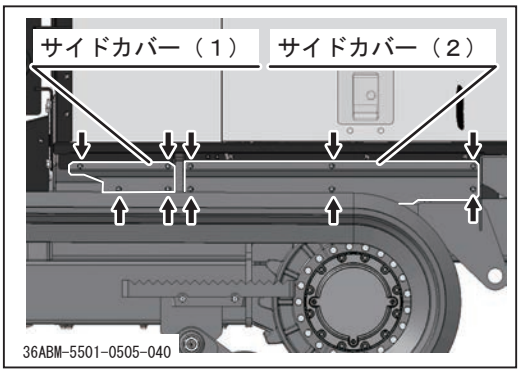


2. ガススプリングのロックを押し、サイドドアをゆっくりと閉めます。

アドバイス

・サイドドアのハンドルはメインキーで施錠できます。

サイドカバー

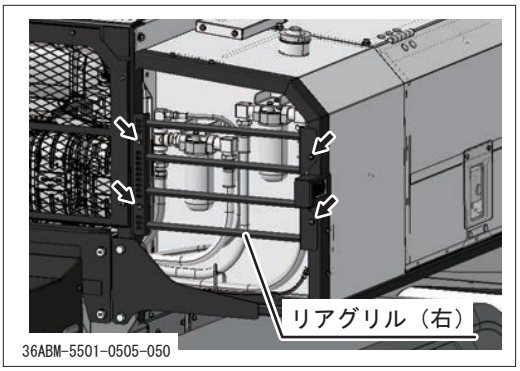


アドバイス

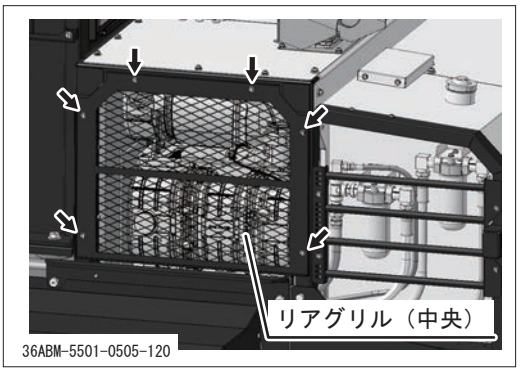
・エンジンの下側を整備する場合は、サイドカバーを取り外す必要があります。（例：オイルフィルタ、フィードポンプ）。

1. 4本のボルトを外してサイドカバー(1)を外します。
2. サイドカバー(2)を取り外すために、6本のボルトを外します。

リアグリル

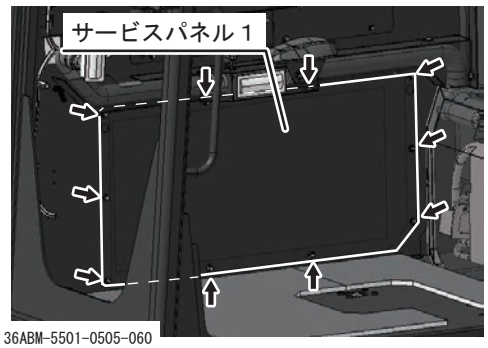


1. 4本のボルトを外してエンジンルームのリアグリル（右）を取り外します。



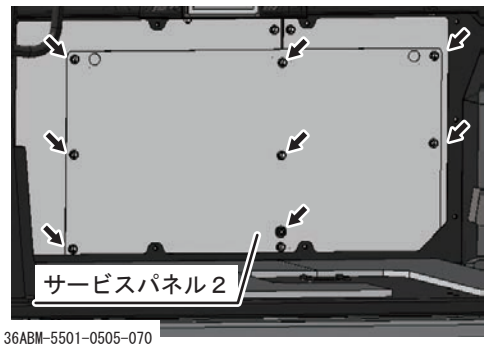
2. ボルト6本を外し、エンジンルームリヤグリル（中央） を取り外します。

運転席サービスパネル



36ABM-5501-0505-060

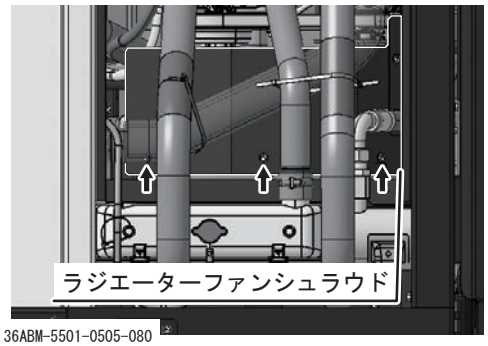
1. ボルト 10 本を外し、運転席サービスパネル 1 を取り外します。



36ABM-5501-0505-070

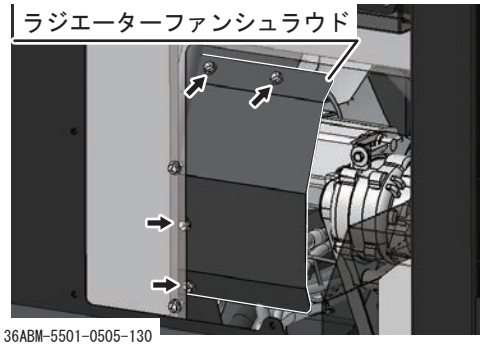
2. サービスパネル 2 はサービスパネル 1 の内側にあります。8 本のボルトを外し、運転席サービスパネル 2 を取り外します。

ラジエーターファンシュラウド



36ABM-5501-0505-080

1. エンジンカバーを開けます。
2. ボルト3本とナット3個を外し、ラジエターファンシュラウドを取り外します。



36ABM-5501-0505-130

3. サイドドアを開けます。
4. 4個のボルトと4個のナットを外し、ラジエター ファンシュラウドを取り外します。

エンジン

⚠ 警 告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・エンジン停止直後はエンジン各部およびエンジンオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

・エンジンの整備時は火気を近づけないでください。

エンジンオイルの点検・補給・交換

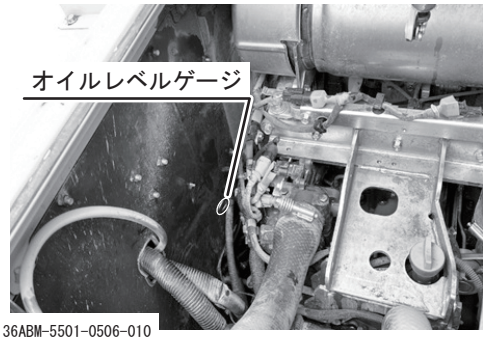
⚠ 注 意

・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

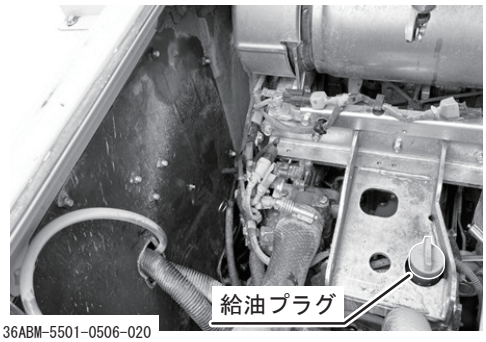
アドバイス

・オイル量の確認はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。
・オイル量の確認は水平な場所で行ってください。
・点検および作業時は付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。
・指定オイル、規定オイル量：☞64ページ



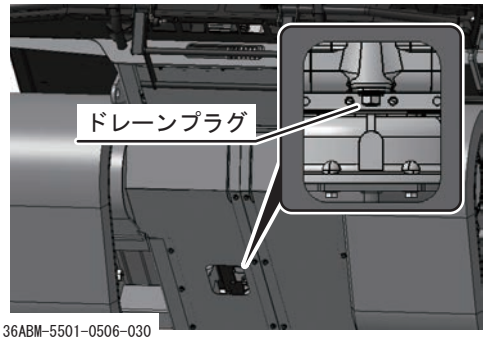
点検

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. エンジンカバーを開け、確実に固定します。
3. エンジン取扱説明書の内容に従い、オイルの量とコンディションを点検します。
4. エンジンカバーを閉じます。



補給

1. エンジンカバーを開けます。
2. 給油プラグを取り外します。
3. エンジンの取扱説明書の指示に従い、給油口より指定のオイルを補給します。
4. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
5. 給油プラグを取り付けます。
6. エンジンカバーを閉めます。



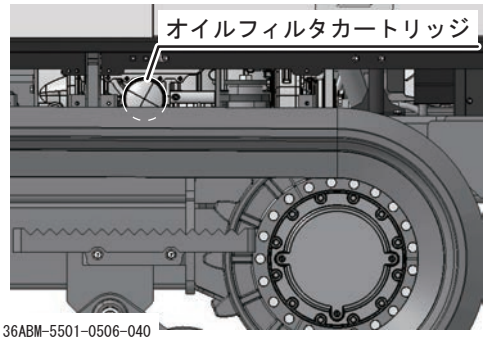
交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. エンジンカバーを開けます。
3. 給油プラグを取り外します。
4. ドレーンプラグ（エンジンオイルドレーンプラグ）を取り外し、オイルを排出します。
5. ドレーンプラグを清掃し、元の位置に戻してしっかりと締めます。
6. オイルを規定量補給します。
7. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
8. 給油プラグを取り付けます。
9. エンジンカバーを閉めます。

アドバイス

- オイル容量：14.8L
- 使用オイル：ディーゼルエンジンオイル、API等級CJ-4またはCK-4、SAEインデックス10W-30
- 給油プラグを取り外すと、オイルの排出が早くなります。

オイルフィルタカートリッジ



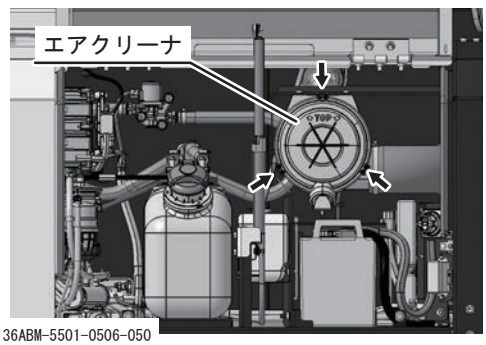
1. エンジンルームサイドカバー(1)を取り外します。
2. エンジン・オイルを排出します。
3. エンジン取扱説明書の指示に従ってオイル・フィルタ・カートリッジを交換してください。
4. オイルを充填します。
5. エンジンルームサイドカバー(1)を取り付けます。

エアクリーナ

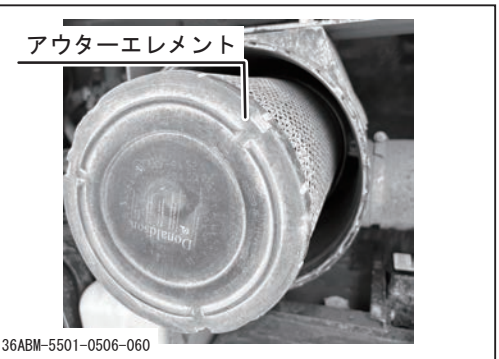
⚠ 注 意

・エアークリーナーエレメントは定期的に清掃してください。 エレメントが汚れていると、エンジンの性能と寿命が低下します。

・エレメントが損傷している場合は交換してください。



1. サイドドアを開きます。
2. エアクリーナのスプリングフックを外して、ふたを取り外します。



3. エアークリーナーエレメントの点検、清掃、交換については、エンジンの取扱説明書の指示に従ってください。
4. サイドドアを閉じます。

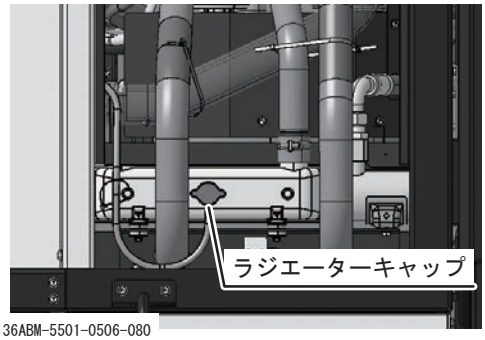
エンジン冷却液

⚠ 注　意

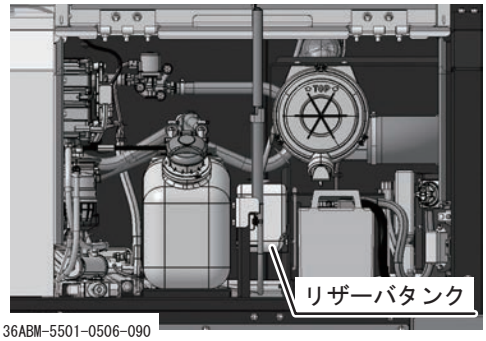
・エンジンまたはラジエーターが熱いうちにラジエーターキャップを開けないでください。熱いうちにキャップを開けると熱湯が噴き出し、重度の火傷を負う恐れがあります。エンジンが冷えるまで（運転後約30分）待ってからキャップを開けてください。

・エンジン冷却液を取り扱う際には細心の注意を払ってください。冷却液は引火性です。炎に近づけないでください。また、有毒です。冷却液が目に入った場合は、流水で目を洗い、直ちに医師に相談してください。

・排出された冷却液は適切に処分してください。国および自治体の規則を確認してください。



36ABM-5501-0506-080



36ABM-5501-0506-090

点検／補充

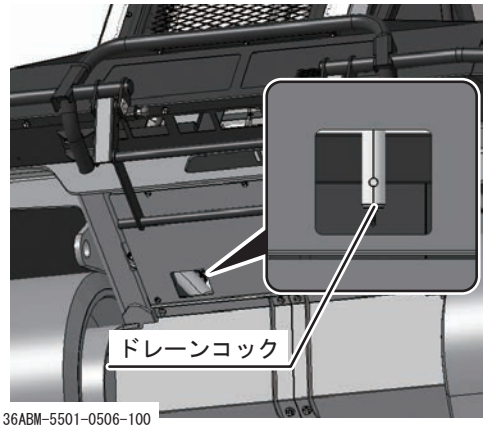
1. エンジンカバーを開きます。
2. エンジンが冷えている状態で、リザーバタンク内のエンジン冷却液レベルを点検します。レベルが[FULL]マークより下にある場合は、水を補充します。
3. ラジエータキャップを開きます。
4. エンジン冷却液レベルを点検します。レベルが低い場合は、水を補充します。
5. ラジエータキャップを元の位置に戻します。
6. エンジンカバーを閉じます。

アドバイス

・エンジン冷却液温度警告灯が点灯した場合は、冷却液レベルが低下している可能性があります。ただちに点検し、必要に応じて水を補充してください。

外気温	不凍液混合比
-10 ° C	30%
-15 ° C	35%
-20 ° C	40%
-25 ° C	45%
-30 ° C	50%
-35 ° C	55%
-40 ° C	60%

*外温度の値は、実際の最低気温よりも5℃低い値です。



不凍液混合比（参考）

この車両は工場出荷時に、不凍液と水50%ずつの混合液を充填して出荷されています。エンジン冷却液の凍結を防ぐには、左表を参考に、使用環境の最低気温に合わせて水と不凍液の比率を調節してください。

アドバイス

・推奨不凍液：ロングライフクーラント（LLC）。
・冷却液の混合には純水を使用してください。

交換

1. すべての冷却液を受けるために十分な大きさの適切な容器を用意します。
2. ラジエーターキャップとリザーバキャップを外します。
3. 車体の下にある冷却液ドレンコックを開きます。
4. 冷却液を排出します。その後、ラジエーター内部を清掃します。
5. ドレンコックを閉じます。
6. ラジエーターとリザーバに不凍液を注入します。
7. ラジエーターキャップとリザーバキャップを元の位置に戻します。

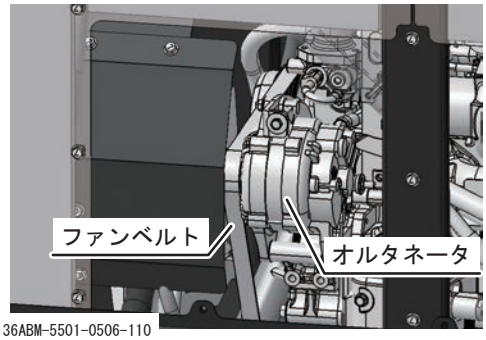
アドバイス

・冷却液容量：15L、リザーバータンク内1.1L
・ラジエーターキャップを外すと、冷却液を排出しやすくなります。

ファンベルト

アドバイス

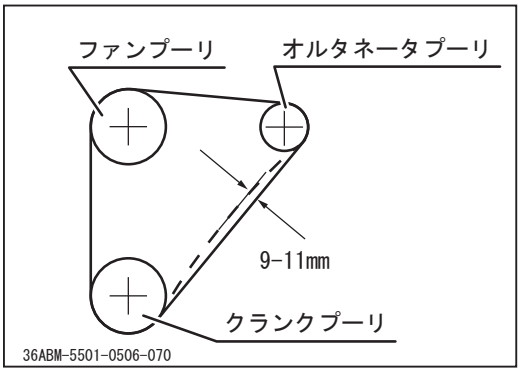
・ベルトの張りは適切に調整してください。ベルトの張りが不適切な場合、エンジンの性能やベルトの寿命が低下する可能性があります。



36ABM-5501-0506-110

点検／調整

1. 運転席サービスパネルを取り外します。



36ABM-5501-0506-070

2. ファンベルトの中央部分を指で押して、張りを確認します。59～69N（6～7kgf）の力で押した際、たわみが9～11mmの範囲内である必要があります。
3. たわみ量がこの範囲内にない場合は、オルタネータの取付ボルトを緩めてオルタネータを移動させ、張力を調整します。

アドバイス

・エンジン冷却液温度警告灯が点灯した場合は、冷却液レベルが低下している可能性があります。ただちに点検し、必要に応じて水を補充してください。

4. 取付ボルトを締め付けます。
5. 運転席サービスパネルを取り付けます。

排出ガス洗浄装置（ＤＰＦ）再生

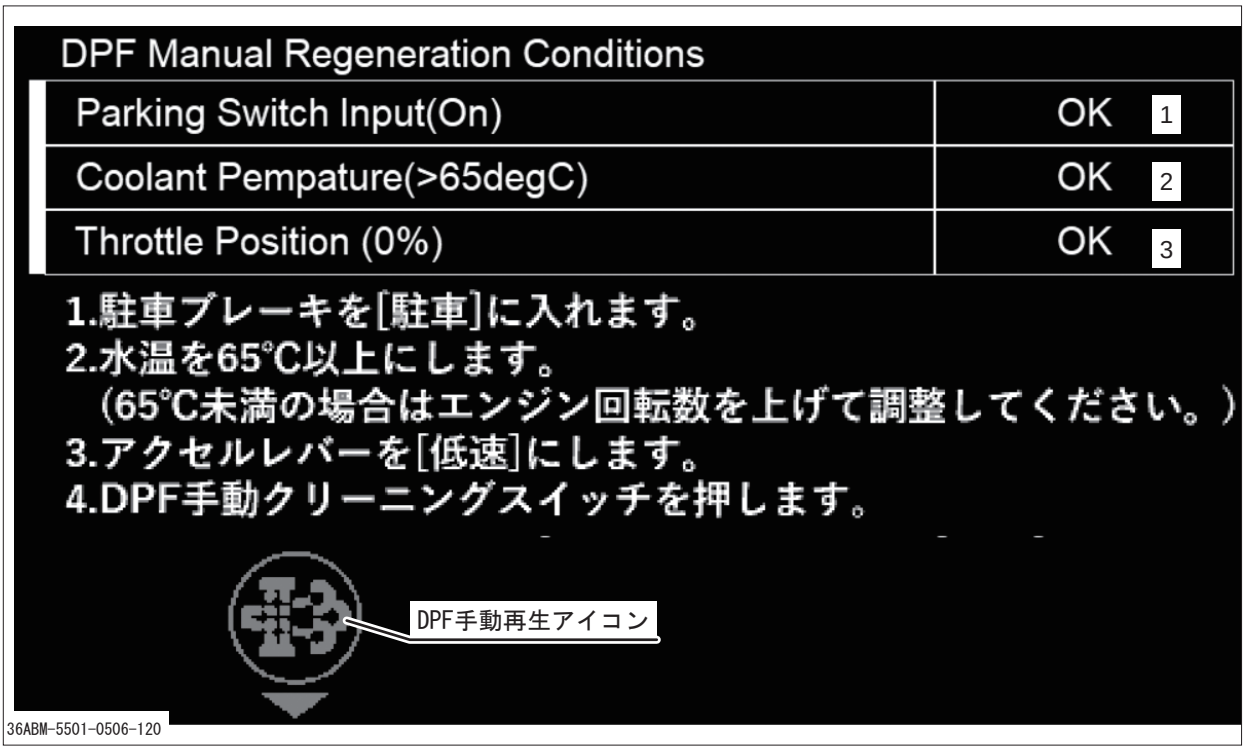
⚠ 注　意

・ディスプレイが自動的にDPF再生画面に切り替わり、ＤＰＦ警告ブザーが吹鳴している場合、ＤＰＦの手動クリーニングを行ってください。手動クリーニングを怠ると故障の原因になります。

・手動クリーニングは火災防止のため、排気管の周辺に可燃物がないことを確認し、安全な場所で行ってください。

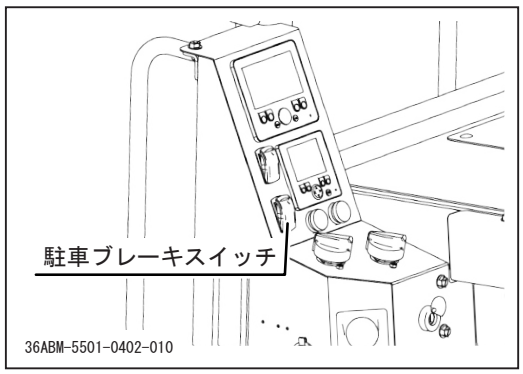
・換気の悪い場所では行わないでください、一酸化炭素中毒になる恐れがあります。

・手動クリーニングは１５～２０分かかり、下記の１～４のうち２項目が外れるとキャンセルされます。

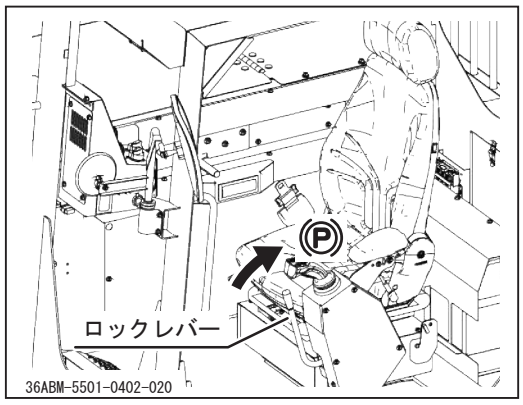


DPFの手動再生が必要な場合、上記の画面が自動的にディスプレイ１に表示されます。DPF手動再生を行う場合は、上記の項目がすべて[OK]になるように、以下の手順を行ってください。DPF手動再生をすぐに行わない場合は、ディスプレイ１の[esc]ボタンを押してホーム画面に戻ってください。ホーム画面に戻ると、DPFクリーニングインジケータが点滅しています。

DPFクリーニングインジケータが点滅している状態で、DPFスイッチ（四連スイッチの左から2番目）を押すと、前ページの画面に戻ります。



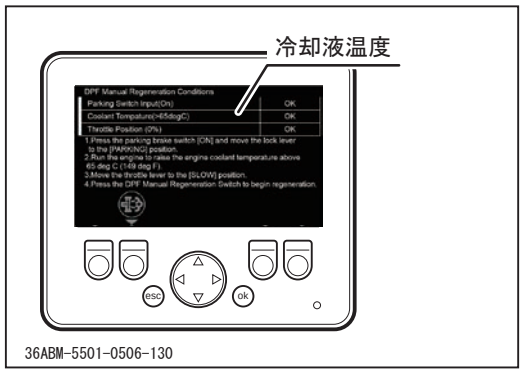
1. パーキングブレーキスイッチ［Ⓟ］を押してパーキングブレーキをかけます。



2. ロックレバーを［Ⓟ（パーキング)］の位置まで引き上げます。

アドバイス

・[Parking Switch Input（パーキングスイッチ入力）（入）]①が「OK」になります。



3. エンジンを始動し、冷却液温度が 65° C 以上になるまで運転します。

アドバイス

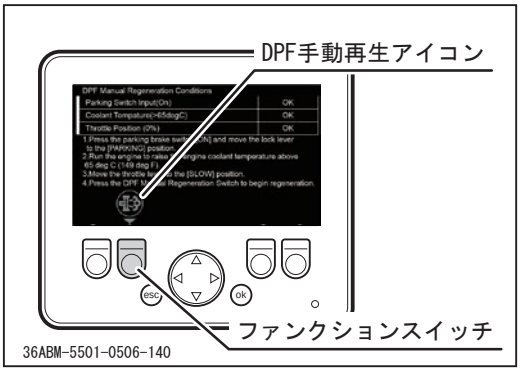
・[Coolant Temperature（冷却水温度）（>65℃）]②が［OK］になります。

・65℃を大きく下回っている場合は、エンジン回転数を上げてください。

4. 冷却液温度が 65℃以上になったら、アクセルノブを[(SLOW)]の位置まで回してください。

アドバイス

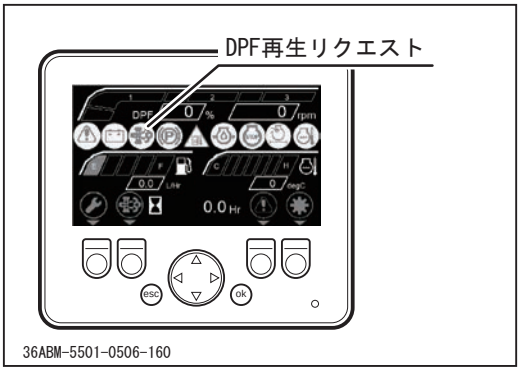
・[Throttle Position（スロットル開度）（0%）]③が「OK」になります。



5. この3項目が[OK]になるとDPF手動再生のアイコンが点滅します。アイコンの真下にあるファンクションスイッチを押すと手動再生が始まります。

アドバイス

・再生が開始されるとブザーが鳴り、[DPF Cleaning Now...]と表示されます。



6. 再生が完了すると、ディスプレイ１にホーム画面が表示されます。DPFクリーニングインジケータが点灯されていないことを確認します。

尿素ＳＣＲシステム

⚠ 警　告

・DEF（ディーゼル排気尿素水）を充填する際 は、必ずエンジンを止めてください。

・尿素水は不燃性ですが、火災時にはアンモニア ガスが発生するため注意してください。

⚠ 注　意

・尿素水が手や足などに付着した場合は、多量の水で洗い流してください。目に入った場合は、水道水で15分以上洗浄し、不快感を感じた場合は直ちに医師の診察を受けてください。

・尿素水を取り扱う際は、適切な保護具を使用してください。綿手袋等、繊維が尿素水を汚染する恐れのあるものは使用しないでください。作業後は手を水で洗ってください。

・エンジン停止後、ACUランプ点灯中にバッテリーカットスイッチを操作したり、電源を切ったりしないでください。DEFポンプは約10分間作動し、DEFタンクまでの配管内の尿素水を回収します。

・適合外の尿素水は使用しないでください。適合尿素水に水を含む他の物質を混ぜないでください。SCRシステムやエンジンの故障の原因となります。

・適合外の尿素水や異物を含む尿素水をタンクに充填した場合、SCRシステムやエンジンの故障の原因となりますので、キーをONにしないでください。販売店にご連絡ください。

・尿素水の寿命は温度によって変化し、温度が上昇すると寿命が大幅に短くなります。尿素水は30℃以下で容器に入れて保管してください。

・尿素水は-11℃以下で凍結します。尿素水は凍ると膨張し、タンクが破損することがありますので、タンクいっぱいに入れないでください。

⚠ 注 意

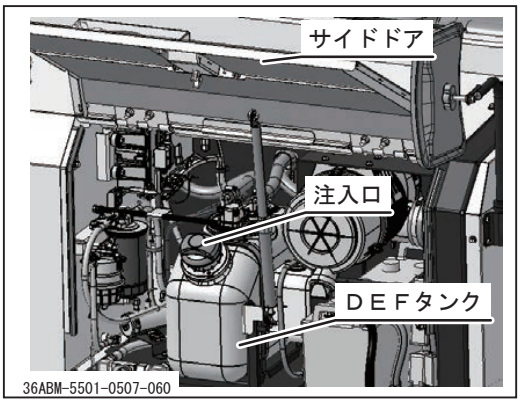
・容器は直射日光の当たらない風通しの良い場所に密栓して保管してください。

・尿素水をこぼした場合は、ふき取って水洗いしてください。

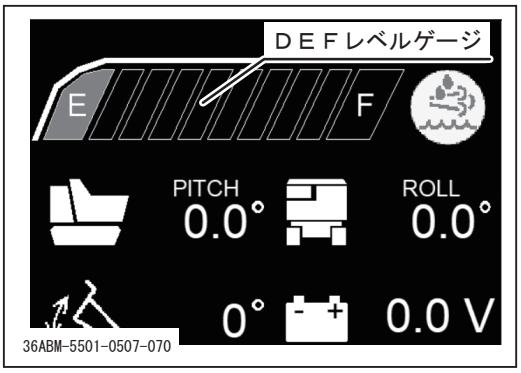
・詳しくは尿素水メーカーの取扱説明書を参照してください。

アドバイス

・尿素水は、エンジンの運転中に排気ガス中に注入されるため、運転前に補給する必要があります。補給は平地で行ってください。
・尿素水は、ISO 22241またはJIS K 2247-1規格の品質要件以上のものを使用してください。AdBlueR（ドイツ自動車工業会のVDA登録商標）の使用を推奨します。
・尿素水を廃棄する場合は、国や地方自治体の法令に従ってください。



1. サイドドアを開けます。



2. DEFレベルゲージを確認しながら、DEFタンクに適合尿素水をゆっくりと注入します。

アドバイス

・DEFタンク容量：20L

3. フィラーキャップをしっかりと閉めます。
4. サイドドアを閉じます。

燃料系統

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止してください。

・燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。

・燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。

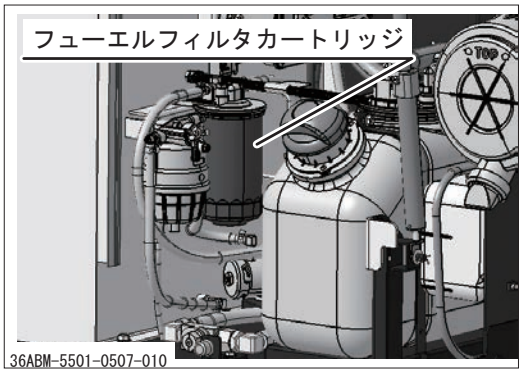
⚠ 注　意

・廃油は適切な処理をしてください。国および自治体の規則を確認してください。

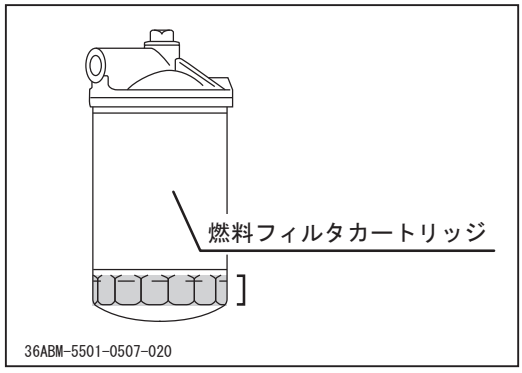
フューエルフィルタカートリッジ

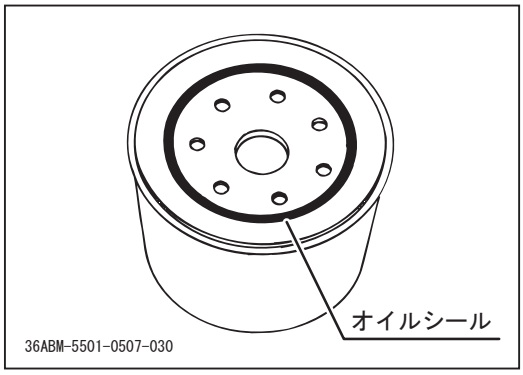
⚠ 注　意

・純正フューエルフィルタカートリッジのみを使用してください。非純正のフューエルフィルターカートリッジはエンジンを損傷する恐れがあります。



1. サイドカバーを開けます。
2. オイルフィルタレンチを使用してフューエルフィルタカートリッジを取り外します。

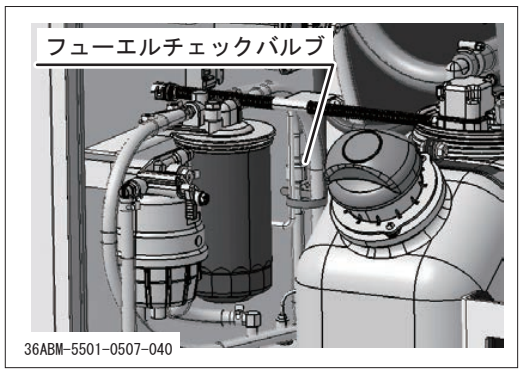




3. 新品のフューエルフィルタカートリッジのシール部にきれいな燃料を薄く塗布します。
4. フューエルフィルタカートリッジを取り付け、手でいっぱいに締め付けます。
5. 燃料を補給し、燃料系統のエア抜きを行います。
6. エンジン始動後、取り付け部から燃料の漏れがないか確認します。
7. サイドカバーを閉めます。

燃料系統のエア抜き

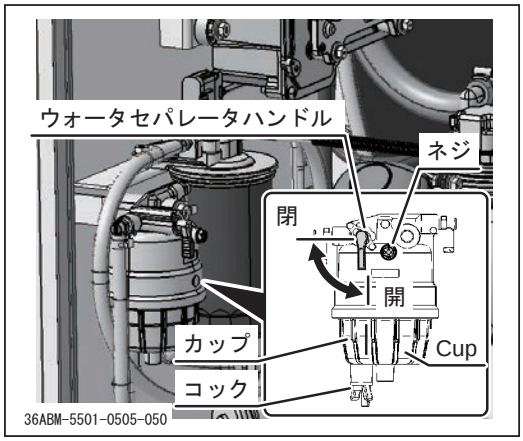
燃料タンク内の燃料が無くなったときやフューエルフィルタを交換したときには、燃料系統内に空気が入り、エンジンの始動ができなくなりますので、下記の要領でエア抜きを行ってください。



1. サイドカバーを開けます。
2. 燃料を補給します。
3. エンジン側供給ポンプのプライミングポンプを手動で押し、配管系のエア抜きをします。
4. プライミングポンプ操作が重たくなったらエア抜きができています。
5. サイドカバーを閉めます。

ウォータセパレータの水の排出

燃料中の水や泥がウォータセパレータにたまり、赤色のフロートが浮きがりますので下記の要領で不純物を排出して下さい。



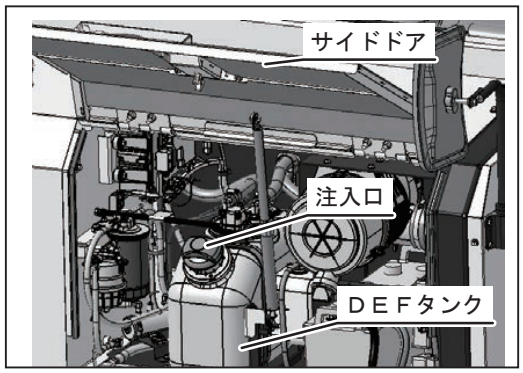
1. ウォータセパレータハンドルを「閉」にまわします。
2. 上部のネジと底部のコックをゆるめ、不純物を排出します。
3. 上部のネジと底部のコックを締め、ウォータセパレータハンドルを「開」にまわします。
4. 水排出後は必ずエア抜きをしてください。

※詳しくはエンジン取扱説明書を参照してください。

アドバイス

・カップを外す際は、事前にバッテリを外してください。中に残った燃料や水が周囲へこぼれないよう、注意してください。

燃料タンクの水抜き



1. ドレーンプラグを取り外し、燃料と一緒に水や沈殿物などの混入物を排出します。
2. ドレーンプラグを取り付けます。
3. 燃料を補給し、燃料系統のエア抜きを行います。

走行装置

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止してください。

・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

クローラ張り調整・取り付け

⚠ 警　告

・クローラの張りは適切に調整してください。クローラの張りが不適切な場合、摩耗したり外れたりし、物的損害、重大な人身事故、死亡事故につながる可能性があります。

・ジャッキアップした場合は、シャシフレームに支持台をあて、確実に車体を保持してください。ジャッキアップする時は必ず空荷で行ってください。

・グリースシリンダ内は高圧になっており、バルブを緩め過ぎたり、急激に緩めたりするとバルブが飛び出すおそれがあります。調整バルブを緩める際はゆっくりと徐々に緩め、体をバルブの正面にもっていったり、顔などを近付けたりしないでください。

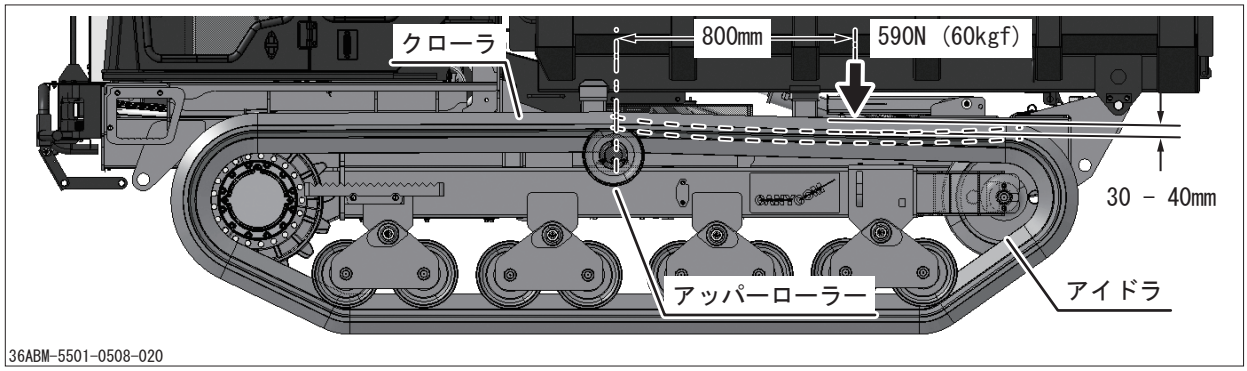
⚠ 注　意

・クローラは新品時の初期伸びによるゆるみが発生するのでクローラの張り調整が必要です。クローラの張りが正常でないと脱輪したりクローラの寿命を著しく縮めたりする原因となります。

・走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによるゆるみが発生するのでクローラの張り調整が必要です。クローラの張りが正常でないと脱輪したりクローラの寿命を著しく縮めたりする原因となります。

・クローラは重量があるので取り扱いには十分注意してください。

点検

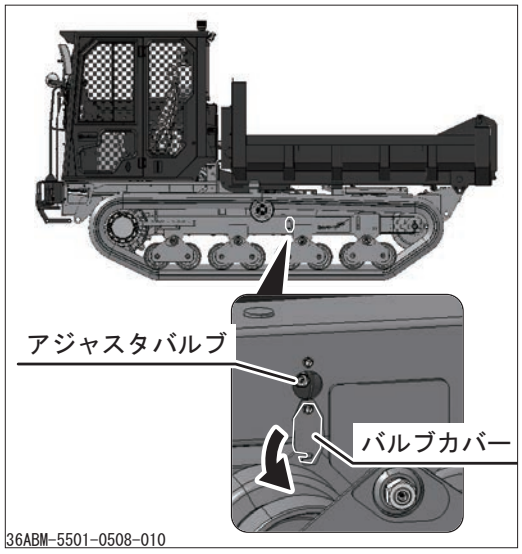


1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. トラックの張りを点検します。クローラのアッパーローラーとアイドラの間を590N（60kgf）の力で押し、クローラのたわみを測定します。

アドバイス

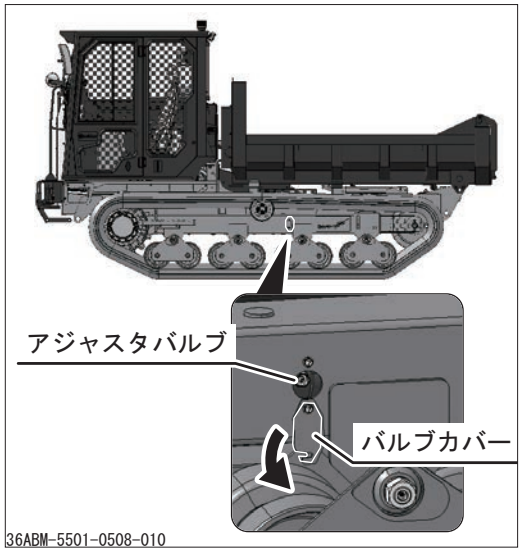
・クローラのたわみ量：590N（60kgf）の力で30mm～40mm。

3. たわみ量がこの範囲内に収まっていない場合は、調整します。



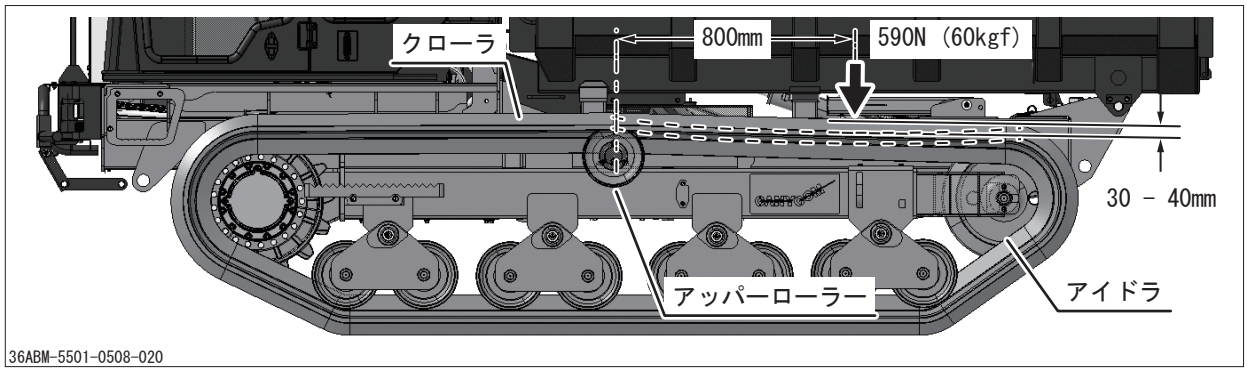
調整

1. 機械を水平な場所に駐車します。
2. アジャスターバルブカバーを取り外します。
3. アジャスターバルブにグリースガンを取り付け、前述のたわみが30～40mmになるまでアジャスターシリンダーにグリースを注入します。
4. グリースガンを取り外し、バルブカバーを取り付けます。



交換／取り付け

1. 機械を平らな場所に駐車します。
2. アジャスターバルブカバーを取り外します。
3. アジャスターバルブをゆっくりと緩め、バルブの周囲からグリースが出てアジャスターシリンダー内の圧力が下がるようにします。
4. バルブを取り外します。
5. アイドラーフォークを機械の前方に向かって押し込みます。
6. クローラを取り外します。
7. 新しいクローラを取り付けます。まずスプロケットに、次にアイドラーに取り付けます。
8. バルブを再び取り付け、しっかりと締めます。バルブのOリングが挟まれないように注意してください。



9. グリースガンをアジャスターバルブに取り付け、アジャスターシリンダーにグリースを注入し、上記のたわみが30～40mmになるよう調整します。
10. グリースガンを取り外し、バルブカバーを取り付け、機械を下します。

ＨＳＴ作動油の点検・補給・交換

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止してください。

・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

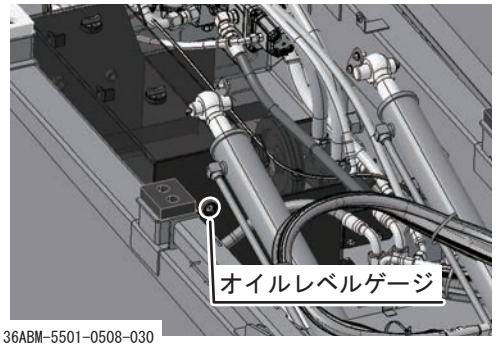
⚠ 注　意

・オイルが減ると油圧回路内に空気が入り、油圧機器の作動が悪くなりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

・廃油は適切な処理をしてください。

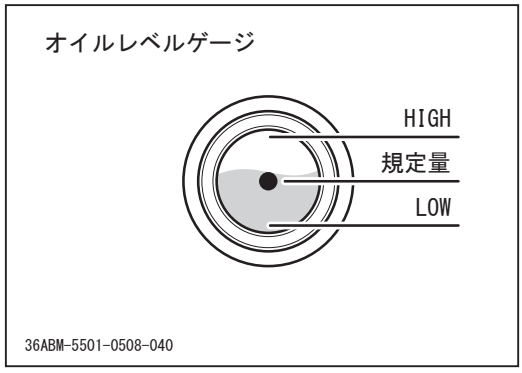
アドバイス

・HSTオイルは駆動用だけでなく油圧装置にも使用されています。
・オイル量の点検はエンジン始動前に行ってください。エンジン停止直後はオイルが膨張しており、正確なオイル量が点検できません。
・オイル量は必ず水平な場所で確認してください。
・油圧作動油交換時はサクションフィルタも同時に交換してください。
・指定オイル、規定オイル量：☞64ページ

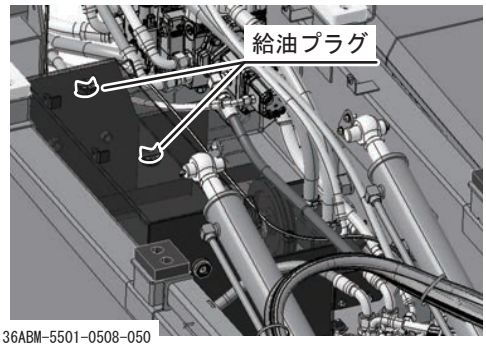


点検／補給

1. 機械を平らな場所に駐車します。
2. 荷台を完全に上げ、荷台落下防止棒で固定します。



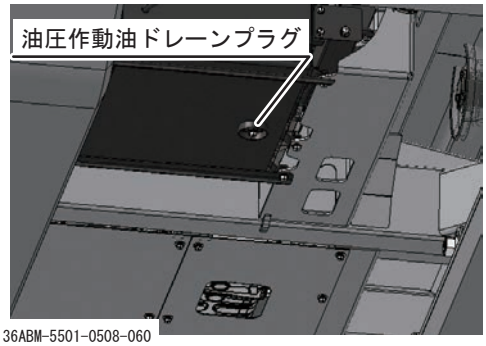
3. オイルレベルゲージを目視で点検し、オイルレベルと状態を確認します。



4. レベルが低い場合は、給油プラぐを開け、オイルを補充します。給油プラグを元の位置に戻します。
5. エンジンを始動し、しばらく運転してオイルを循環させた後、エンジンを停止します。
6. 液面レベルがオイルレベルゲージ内に収まっていることを目視点検します。
7. 安全プロップを緩め、バケットを下げます。

アドバイス

・後部に機器が搭載されたベースモデルでは、機器サプライヤーの指示に従ってください。

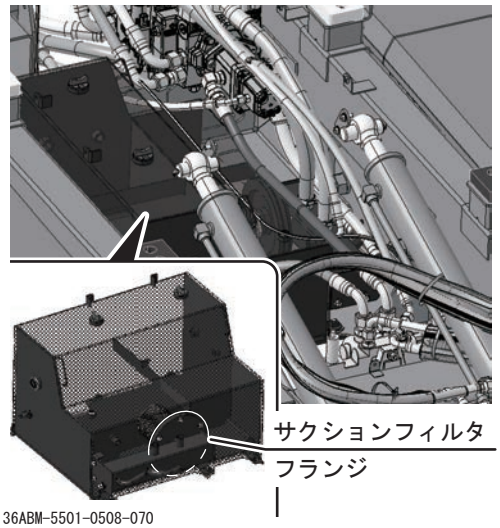


交換

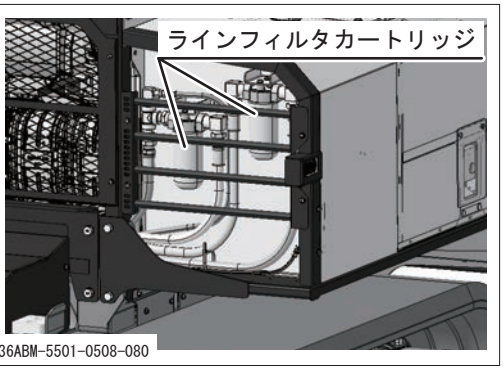
1. 機械を平らな場所に駐車します。
2. 適切なオイルドレンパンを用意します。
3. 油圧作動油ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
4. ドレーンプラグを取り付けます。

アドバイス

・油圧作動油を交換する際は、サクションフィルターエレメントとラインフィルターカートリッジの両方を交換してください。



5. 荷台を上げて荷台落下防止棒で固定します。
6. オイルタンクからサクションフィルタフランジを取り外します。
7. フランジから古いフィルタエレメントを取り外し、新しいフィルタエレメントを取り付けます。
8. サクションフィルタフランジを再び取り付けます。

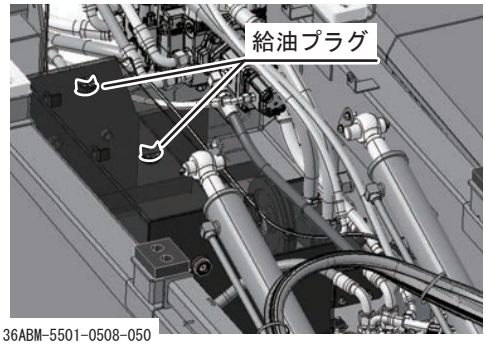


9. リアグリルを取り外します。
10. オイルフィルタレンチを使用してラインフィルタカートリッジを取り外します。
11. 新しいラインフィルタカートリッジを用意します。カートリッジのオイルシールにきれいな油圧オイルを均一に塗布します。
12. 新しいラインフィルタカートリッジをねじ込みます。カートリッジがしっかりと固定されるまで手で締めます。

アドバイス

・フランジ取付時、Oリングを傷付けない様に注意してください。
・フィルターカートリッジを締める際には、フィルターレンチを使用せず、手で締めてください。

13. もう一方のラインフィルターカートリッジにも同じ作業を行います。
14. リアグリルを再び取り付けます。



36ABM-5501-0508-050

15. 給油プラグを開け、オイルレベルがオイルレベルゲージの範囲内になるまで作動油を補充します。給油プラグを元の位置に戻します。
16. エンジンを始動し、オイルを循環させます。漏れがないか確認します。
17. エンジンを停止し、オイルレベルを点検します。オイルレベルが低い場合は、オイルレベルゲージの範囲内になるまで作動油を補充します。
18. 荷台落下防止棒を外し、荷台を下げます。

走行モータ潤滑油の交換

⚠ 警 告

・機械の下で作業を行う際は、機械を必ず平らな場所に駐車し、車輪止めでクローラをブロックしてください。

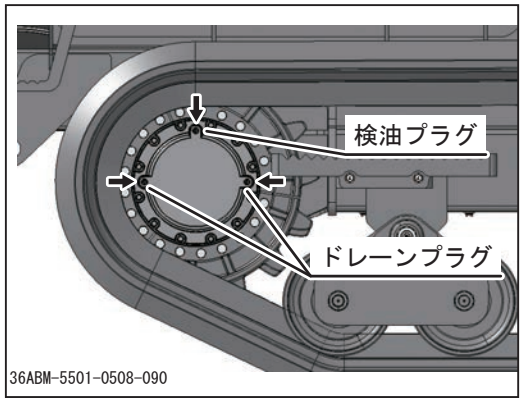
・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

⚠ 注 意

・廃油は適切な処理をしてください。

アドバイス

・指定オイル、規定オイル量：☞64ページ



1. 機械を平らな地面に駐車する
2. ドレン/給油プラグの一方が上部に、もう一方が底部に、検油プラグが側面に来るように機械を運転します（図を参照）。
3. すべてのプラグを外してオイルを排出する。
4. オイルが排出されたら、ドレンプラグを底部のポートに再び取り付けます。
5. 側面のチェックポートからオイルが出てくるまで、上部のドレン/給油ポートにオイルを注入します。
6. ドレン/給油プラグを上部のポートに、検油プラグを検油ポートに再び取り付けます。

アドバイス

・指定オイル、規定オイル量：☞64ページ

コンプレッサーベルト

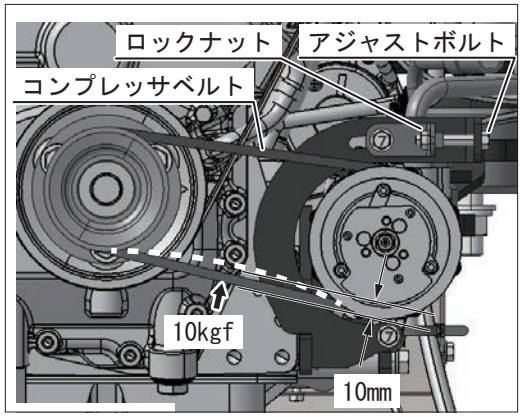
⚠ 警　告

・点検や調整を行う前にエンジンを停止してください。

・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

アドバイス

・ベルトが緩んでいると滑ってベルトの寿命が短くなることがあります。



1. サービスパネル（1）、（2）およびラジエーターファンシュラウド（2）を取り外します。
2. コンプレッサーベルトを指で押さえ（約10kgf）、ベルトの張りを確認します。

アドバイス

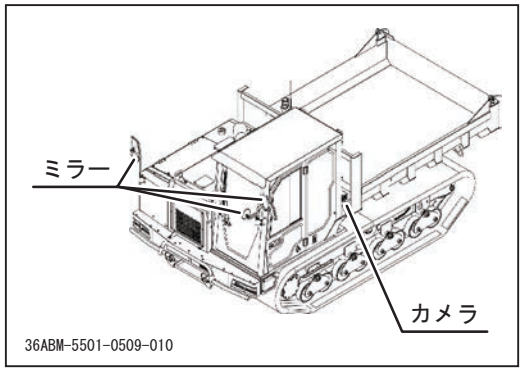
・ベルトたわみ量：約10㎜

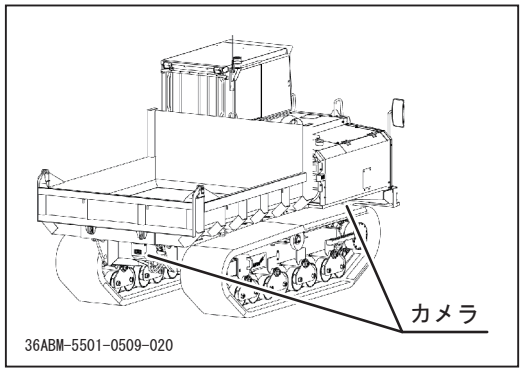
キャビン

ミラーとカメラの清掃

⚠ 警 告

・事故を避けるために、ルームミラーとアラウンドビューカメラをきれいに保ってください。





1. ルームミラーやアラウンドビューカメラが汚れたら、きれいにします。

アドバイス

・イラストに示されているように、アラウンドビュー用のカメラは3個あります。

電装品

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、メインスイッチを[◯（OFF）]の位置にしてキーを抜き取り、バッテリーキルスイッチを[OFF]にしてください。

・ぬれた手で作業を行わないでください。感電のおそれがあります。

バッテリ

⚠ 警　告

・バッテリ液量が「ＬＯＷＥＲ　ＬＥＶＥＬ」以下になったままで使用しないでください。バッテリの寿命を著しく縮めます。また、バッテリが爆発するおそれがあります。

・バッテリー液（希硫酸）は腐食性があり、重度の火傷を引き起こします。バッテリー液を取り扱う際には細心の注意を払ってください。バッテリー液が衣服にこぼれた場合は、すぐに大量の水で洗い流してください。皮膚や目に入った場合は、すぐに大量の水で洗い流し、速やかに医師の診断を受けてください。

・バッテリに火気を近づけないでください。充電中に発生する水素ガスは爆発の危険があります。

・バッテリの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。

・バッテリの電極に触れないでください。感電のおそれがあります。

・バッテリを取り外す際は必ずマイナス（−）端子最初に外し、取り付けの際はプラス（+）端子を最初に接続してください。この順序を逆にすると、ショートする恐れがあります。

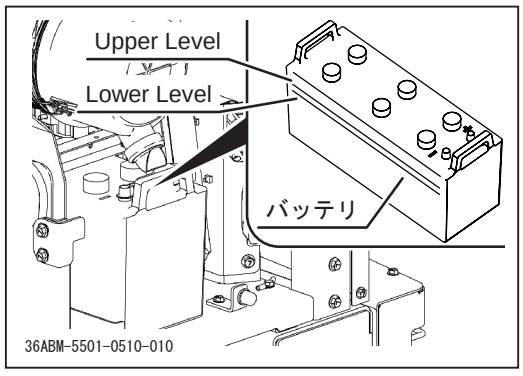
・バッテリーを設置する際は、プラス（+）とマイナス（−）の端子を元の位置に接続してください。端子とその他の周辺部品が接触しないようにしてください。

⚠ 注 意

・バッテリ液を補給する時は、バッテリ液量が「ＵＰＰＥＲ　ＬＥＶＥＬ」以上になるまで補給をしないでください。バッテリ液がもれて塗装面を傷つけたり、部品を腐食させたりするおそれがあります。

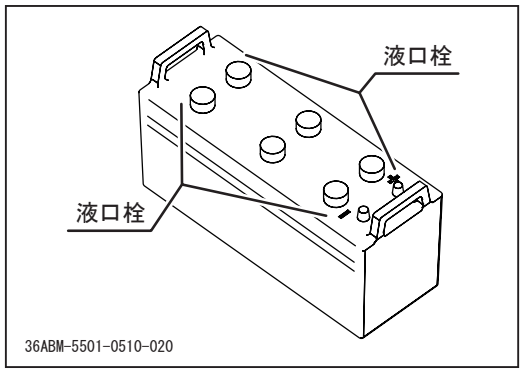
・充電する際は、必ず機械からバッテリーを取り外してください。電気部品や配線に損傷を与える可能性があります。

・充電する際は、バッテリー充電器の取扱説明書に従ってください。

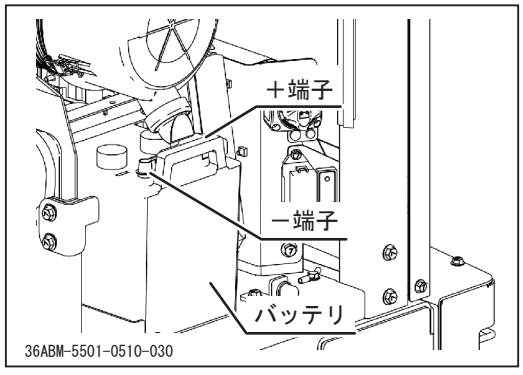


点検／補給

1. 機械を平らな場所に駐車します。サイドドアを開きます。
2. バッテリー液面レベルが「UPPER LEVEL」と「LOWER LEVEL」の線の間にあることを目視で確認します。液面レベルが「LOWER LEVEL」以下の場合、補充します。

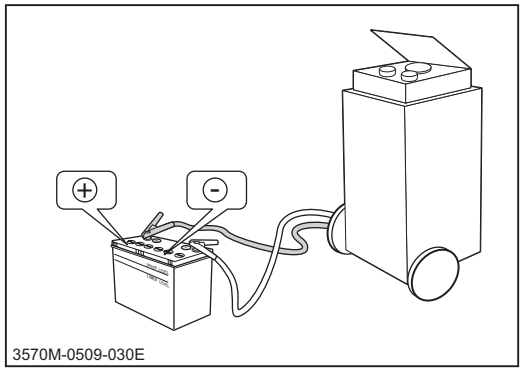


3. バッテリー液口栓を取り外し、「UPPER LEVEL」の線まで蒸留水を補充します。
4. 液口栓を再び取り付けます。
5. サイドドアを閉じます。



充電

1. 機械を平らな場所に駐車します。サイドドアを開きます。
2. 車体からバッテリーを取り外します。
3. すべての液口栓を取り外します。
4. バッテリー充電器の取扱説明書の手順に従ってバッテリーを充電します。



5. バッテリーが完全に充電されたら、液口栓を元の位置に取り付けます。
6. バッテリーを車体に取り付けます。 サイドドアを閉じます。

アドバイス

・急速充電はあくまでも緊急措置です。この方法では短時間で失われた充電量を補うために大電流を使用します。バッテリーを長持ちさせるためには、通常の方法でフル充電する必要があります。

ヒューズの点検・交換

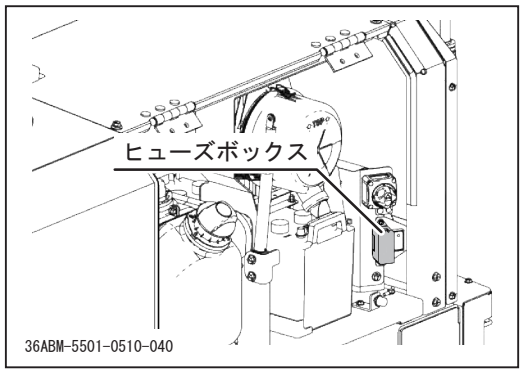
⚠ 注　意

・ヒューズが切れているときは、原因を調査し、修理をしてから交換してください。

・ヒューズは指定容量のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。

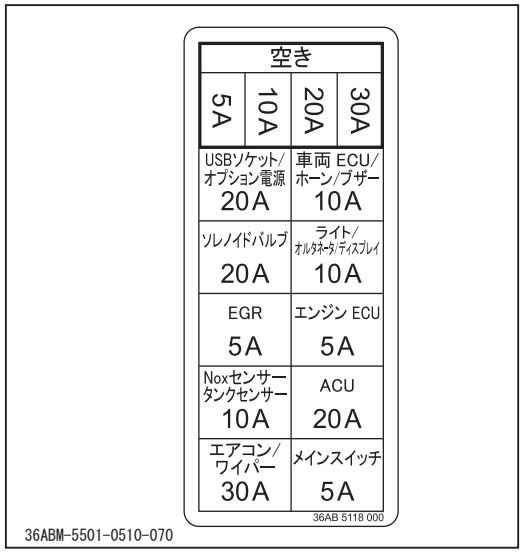
アドバイス

・ヒューズは、短絡や電気部品の損傷による異常 電流から電気回路を保護するために設けられています。電気的な問題が発生した場合は、関連する回路のヒューズを点検してください。



メインヒューズボックス

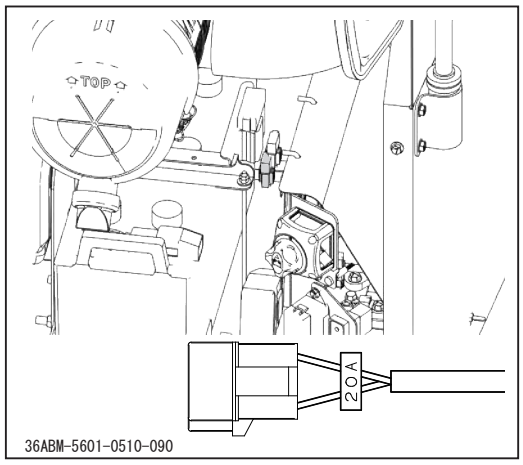
1. サイドドアを開きます。
2. ヒューズボックスを開きます。



3. 切れているヒューズを探し、同じ容量のヒューズと交換します。
4. ヒューズボックスを閉めます。
5. サイドドアを閉めます。

アドバイス

- 車両ECU/ホーン/ブザー: 10A
- ライト/オルタネータ/ディスプレイ: 10A
- エンジンECU: 5A
- ACU: 20A
- メインスイッチ: 5A
- USBソケット/オプション電源: 20A
- ソレノイドバルブ: 20A
- EGR: 5A
- Noxセンサー/タンクセンサー: 10A
- エアコン/ワイパー: 30A

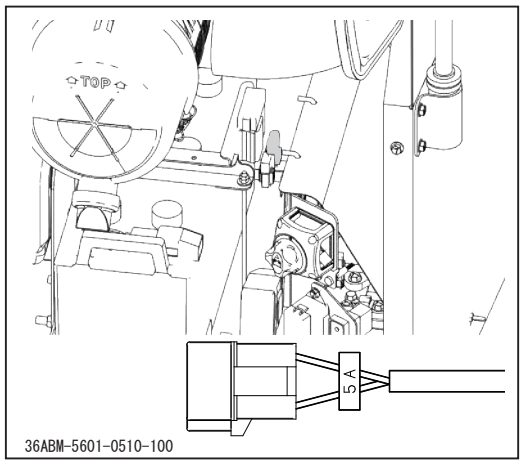


エアコンヒューズ

1. サイドドアを開けます。
2. ヒューズボックスの蓋を開けます。
3. 切れたヒューズを見つけ、同じ定格の新しいヒューズと交換します。
4. 蓋を元の位置に戻します。
5. サイドドアを閉じます。

アドバイス

- エアコン／ワイパー：30A

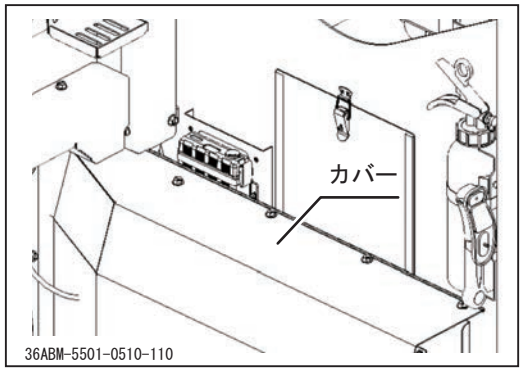


EGRヒューズ

1. サイドドアを開けます。
2. ヒューズボックスの蓋を開けます。
3. 切れたヒューズを見つけ、同じ定格の新しいヒューズと交換します。
4. 蓋を元の位置に戻します。
5. サイドドアを閉じます。

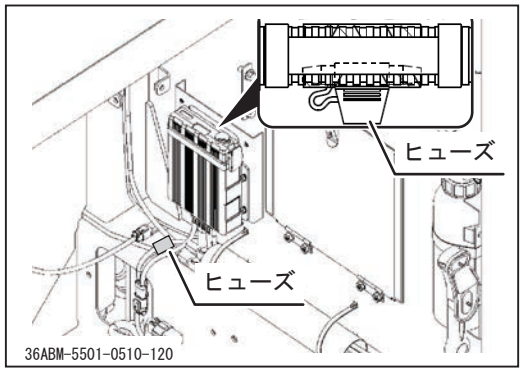
アドバイス

- EGR：5A



アラウンドビューヒューズ
（アラウンドビュー装備車）

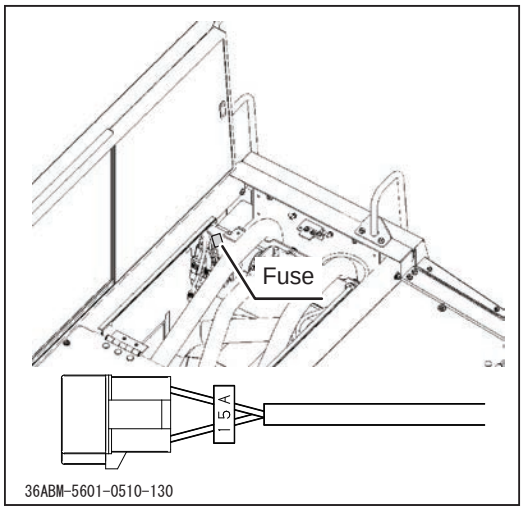
1. キャビン内、シート後ろのカバーを外します。



2. 切れたヒューズを見つけ、同じ定格の新しいヒューズと交換します。
3. カバーを取り付けます。

アドバイス

・アラウンドビュー：5A



オーディオヒューズ

1. エンジンカバーを開けます。
2. 切れたヒューズを見つけ、同じ定格の新しいヒューズと交換します。
3. エンジンカバーを閉じます。

アドバイス

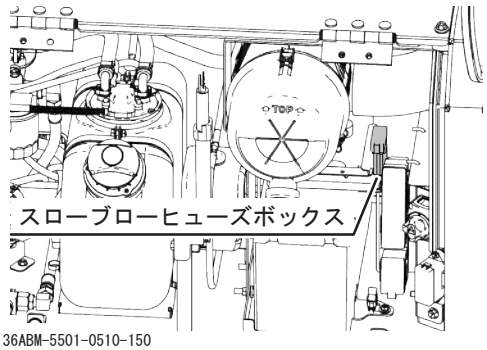
・オーディオ：15A

スローブローヒューズの点検・交換

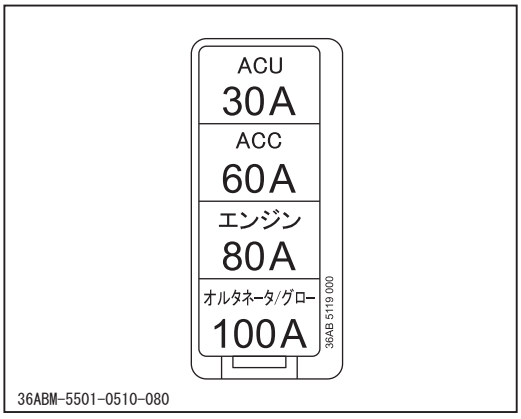
⚠ 注 意

・スローブローヒューズが切れているときは、原因を調査し、修理をしてから交換してください。

・スローブローヒューズは指定容量のものと交換してください。配線および電装品が故障するおそれがあります。



1. サイドカバーを開きます。
2. スローブローヒューズボックスを開き、ヒューズが切れていないかをチェックします。
3. 切れている場合にはヒューズを交換します。
4. スローブローヒューズボックスを閉じます。
5. サイドカバーを閉めます。



アドバイス

・ACU: 30A
・ACC: 60A
・エンジン: 80A
・オルタネータ/グロー: 100A

ライト

⚠ 注　意

・ヘッドライト、作業灯、回転灯を交換する 前に、バッテリーのカットオフスイッチを切っ てください。

1. 先にヒューズを確認してください。ヒューズが切れている場合は交換してください。
2. 作動しないライトユニットを交換します。

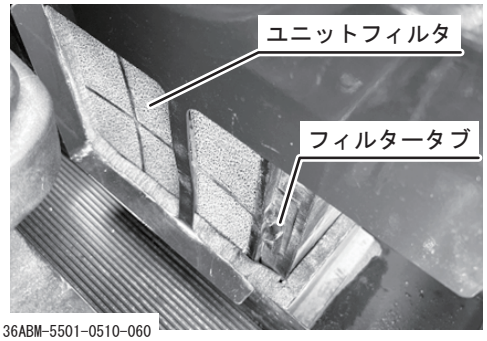
エアコン（ＡＣ）ユニット

⚠ 注　意

・エアコンユニットを整備する前にエンジンを停止してください。エアコンユニット内部にはファンとモーターがあります。これらは高速で動作し、切断の危険があります。

・エアコンのサービスには、免許や資格が必要な場合があります。国や地域の規制を確認してください。

・定期的にエアコンユニット内部を清掃してください。内部に汚れがたまると、効率に影響し、故障の原因になります。



36ABM-5501-0510-060

1. ユニットフィルターを取り外します。
2. ユニットフィルターを軽くたたき、ゴミを取り除きます。
3. 圧縮空気を吹き付けます。
4. ユニットフィルターを取り付けます。

使用後のお手入れ

⚠ 注 意

・エンジン、操作パネル、電装品、エアブリーザ付タンクキャップなどを流水で洗わないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

・使用済みの燃料、オイル、クーラントなどの液体、交換したフィルタ、カートリッジ、破損した部品などは、適切に廃棄してください。これらの廃棄には規制が設けられている場合があり、規制外の方法で廃棄すると違法となり、処罰される場合があります。国や地域の廃棄に関する規制を確認してください。

・機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。

・地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。

・廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

・海浜や融雪剤散布地域での作業後は、特に入念に洗車し、塩分を落としてください。電装品関係は手入れをよくし、腐食を防止してください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面または角材の上に駐車します。
3. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

洗浄時の注意

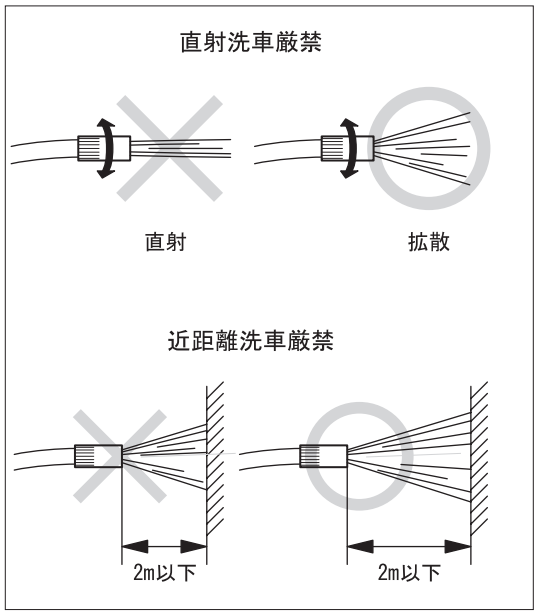
⚠ 警　告

・高圧洗浄機は危険です。絶対に人に向けないでください。高圧洗浄機で車両を洗うときは、車両の後ろに人がいないことを確認してください。高圧洗浄機の取扱説明書に従い、使い方に慣れてから使用してください。

⚠ 注　意

・高圧洗浄機や流水でエンジン、電気部品、制御 パネル、ブリーザ付きキャップを洗わないでください。水が浸入し、損傷する恐れがあります。

・高圧洗浄機は、ステッカー・ラベルを剥離することがあります。



機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2m 以上離して洗車してください。
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

1. 電気配線部被服の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して損傷を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
   例）(1) シール・ラベルの剥がれ
   (2) 電子部品、エンジン・トランスミッション室内、安全キャブ室内等への浸入による故障
   (3) タイヤ、オイルシール等のゴム類、樹脂類、ガラス等の破損
   (4) 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

アドバイス

・高圧洗浄機の水は、電気部品の配線や絶縁を損傷し、損傷や感電、火災の原因となることがあります。
・高圧洗浄機の水は油圧配管を損傷する恐れがあり、その結果、非常に高い圧力を受けている作動油が漏れ出し、損傷や重大な人身事故を引き起こす恐れがあります。
・高圧洗浄機の水は、ステッカー・ラベル、塗装、メッキを剥がしたり、ゴム、プラスチック、ガラス製の部品を損傷させたりする恐れがあります。
・高圧洗浄機の水がエンジン、トランスミッション、電気部品、タンク、キャビンなどの内部に侵入し、損傷を与える恐れがあります。

長期保管のしかた

⚠ 警 告

・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

⚠ 注 意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

1. 車両を停車します。
2. アクセルバーを「 🐢（低速）」の位置にし、駐車ブレーキスイッチの「 Ⓟ（駐車）」を押しておきます。
3. 車両に堆積したほこりや付着した泥等を取り除きます。
4. **「定期点検表」**（☞59ページ）に従って各箇所の点検を行い、不具合があれば整備します。
5. 鋼板部分を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。
6. エンジンオイルを交換します。
7. エンジン冷却水を完全に抜き取ります。

8. エアクリーナエレメントを清掃します。
9. 燃料タンク内の燃料を抜き取ります。
10. バッテリキルスイッチを「 ◯（ＯＦＦ）」にして、バッテリ液の点検・補給を行います。
11. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

アドバイス

・バッテリは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリを長持ちさせることができます。
・エンジンの長期保管の詳細については付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。
・保管後にマシンを始動する前に、必ずエンジン冷却液を充填し、燃料を満タンにして燃料系統の空気を抜いてください。始動後は、漏れがないか点検し、ゆっくり走行して異常がないことを確認してください。
・ACUランプ点灯中は、バッテリーカットスイッチをOFFにしないでください。キーOFFでもACUランプ点灯中はパイプ内の尿素が回収されています。バッテリーカットスイッチをOFFにすると故障の原因となります。
・尿素水/AdBlue®は保存温度によって使用可能時間が変化します。詳細については付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。

尿素水/AdBlue®の保存温度と使用可能時間（参考値）

保　存　温　度	使用可能時間
１０℃ ～ ２０℃ （５０℉～ ５８℉）	24ヶ月
２０℃ ～ ３０℃ （６８℉～８６℉）	18ヶ月
３５℃（９５℉）	12ヶ月
４０℃（１０４℉）	3ヶ月

不具合診断表

・不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社センター）へ連絡してください。

・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	エンジンがかからないまたはかかりにくい	燃料不足	→補給する	24ページ
		燃料系統への空気の混入	→エア抜きをする	86ページ
		燃料への水の混入	→水抜きをする	87ページ
		バッテリの容量不足 （セルモータの起動不良）	→バッテリ液を補給する →バッテリを充電する →バッテリを交換する	97ページ 97ページ
		バッテリケーブルの接続不良	→バッテリケーブルを接続する	
		配線の断線、接続不良	→販売店へお問い合わせください	
		スタータスイッチ、リレー、モータの不良	→販売店へお問い合わせください	
		エンジンオイルの不足または品質不良	→補給または交換する	74ページ
		その他（上記以外）	→**「始動のしかた」**の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	27ページ
	すぐにエンストする	燃料切れ	→補給する	24ページ
		燃料ホース内の空気の混入	→エア抜きをする	27ページ
		暖機運転の不足	→十分暖機する	
			→販売店へお問い合わせください	
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	24ページ
		オイルの不足または不良によるピストンの焼き付き	→販売店へお問い合わせください	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	エンジンが停止しない	電気系統の不具合	→販売店へお問い合わせください	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	エアクリーナの目詰まり	→エアクリーナの清掃または交換	76ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	出力または加速不足	燃料不良	→燃料を交換する	24ページ
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	74ページ
		スロットルの調整不良	→販売店へお問い合わせください	
		エアクリーナの目詰まり	→エアクリーナの清掃または交換	76ページ
		過積載	→積み荷を減らす	
		PDF目詰まり(出力制限)	→販売店へお問い合わせください	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする	エンジン取付ボルトの緩み	→増し締めする	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	74ページ
		エンジン冷却水の不足	→補給する	77ページ
		ラジエータの目詰まり	→清掃する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	燃料の消費が早い	燃料系統からの燃料漏れ	→点検及び修理をする（販売店へ依頼してください）	
		エアクリーナの目詰まり	→エアクリーナの清掃または交換	76ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

6 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	燃料の不良	→交換する	24ページ
		エアクリーナの目詰まり	→エアクリーナの清掃または交換	76ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	エンジンオイルが入り過ぎている	→点検後オイル量を調整する	74ページ
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	74ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アクセルレバーがスムーズに動かない	リンクかワイヤの変形、錆	→販売店へお問い合わせください	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジン警告灯が点灯している	エンジンＥＣＵのエラー 車両ＥＣＵのエラー	→販売店へお問合せください。	
走行装置関連	操向レバーを操作しても車体が動かない	駐車ブレーキがかかっている	→駐車ブレーキを解除する	31ページ
		過積載	→積載量を減らす	
		上記以外の油圧走行系の障害	→→「走行装置関連」の項を参照	88ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	クローラ周辺で異音や異常発熱が見られる		→販売店へお問い合わせください	
制動装置関連	駐車ブレーキが効かない	油圧系統の不具合	→「油圧装置関連」の項を参照	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
油圧装置関連	ダンプが正常に機能しない。荷台が上がらない、または非常にゆっくりと上がる。	緊急ダンプバルブが開いている（バルブボルトの白い線が垂直でない）	→白い線が垂直になるように緊急ダンプバルブボルトを時計回りに回す。	40ページ

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
油圧装置関連	油圧装置（油圧モータ、油圧シリンダ）が作動しないまたは作動不良	作動油の不足または劣化	→補給または交換する	91ページ
		油圧回路への異物の侵入	→除去する	
		フィルタエレメントの目詰まり	→交換する	91ページ
		油圧系統からのオイル漏れ	→点検及び修理をする	
		油圧ポンプの吐出不足	→販売店へお問い合わせください	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
車体関連	クローラがスムーズに動かない	張りが適切でない	→調整する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	車体の異常振動またはバランスが悪い	クローラ張り不足	→クローラを張る	88ページ
		クローラが脱輪している	→取り付けおよび調整する	88ページ
		ローラ、アッパーローラ、アイドラ、スプロケットの取付ボルトの緩み	→点検および増し締めする	
		ベアリングの破損	→交換する(販売店へ依頼してください)	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	車体の直進性が悪い	ローラ、アッパーローラ、アイドル、スプロケットの破損	→点検及び修理をする	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
安全装置関連	ランプの点灯不良	配線不良	→接続する	
		ヒューズ切れ	→交換する	99ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジン始動後もオイルランプが消灯しない	エンジンオイルの不足	→補給する	74ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
安全装置関連	エンジン始動後もチャージランプが消灯しない	ヒューズ切れ	→交換する	99ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	ホーンが作動しない	ヒューズ切れ	→交換する	99ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警 告

・トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。

・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。

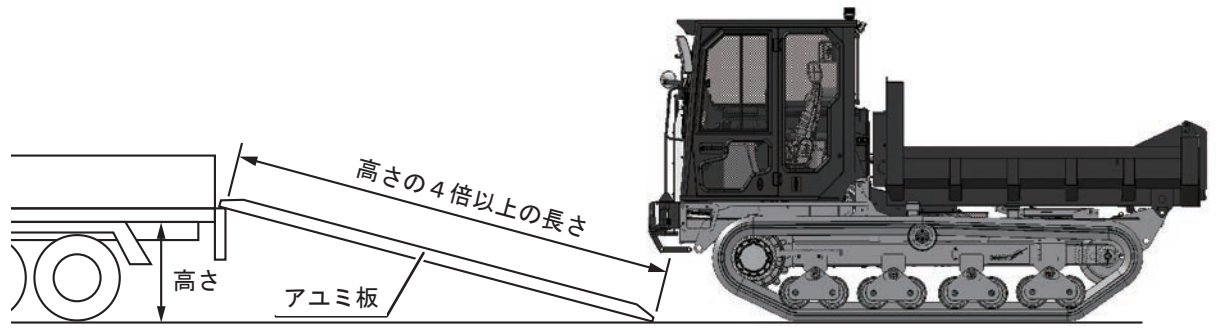
・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラ幅の1.2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。

・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。

・積み込み時は前進でゆっくりと積み込んでください。積み下ろし時は後進でゆっくりと積み下ろしてください。荷台とアユミ板の継ぎ目を乗り越えるときは特に注意してください。

・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。

・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。

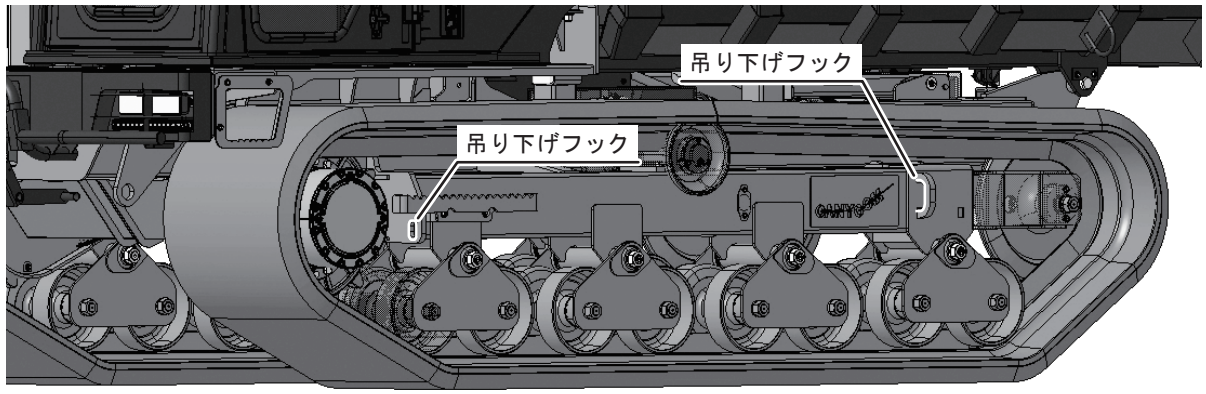


36ABM-5501-0701-010

積み込み

1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 副変速スイッチを「L（低速）」にし、アクセルノブとスピードの部を「低速」にし、前進にてゆっくりと積み込みます。
4. **「停止のしかた」**（☞34ページ）の手順に従い、車両を停車します。

5. ロープ、ワイヤ等を吊り下げフックにかけ、車両を荷台に確実に固定します。



36ABM-5501-0702-010

積み下ろし

1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. 車体を固定しているロープ、ワイヤ等を取り外します。
3. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 副変速スイッチを「L（低速）」にし、アクセルノブとスピードノブを「低速」にし、後進にてゆっくりと積み下ろします。

クレーン等による吊り上げ要領

⚠ 警 告

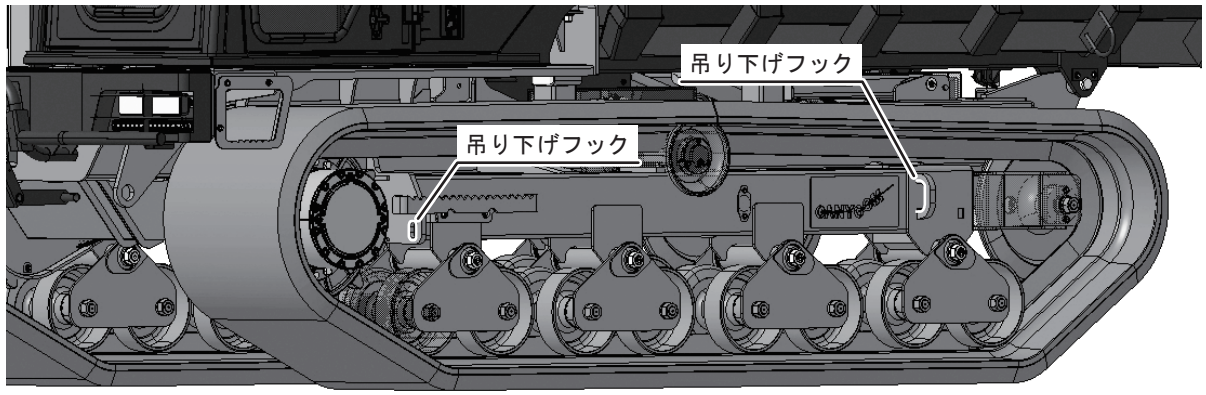
・クレーンの操作および玉掛けには資格が必要です。資格のない人は作業を行わないでください。

・吊り上げに使用するワイヤーロープやシャックルなどの吊り具は、車両の重量に対して十分強度のあるものを使用してください。

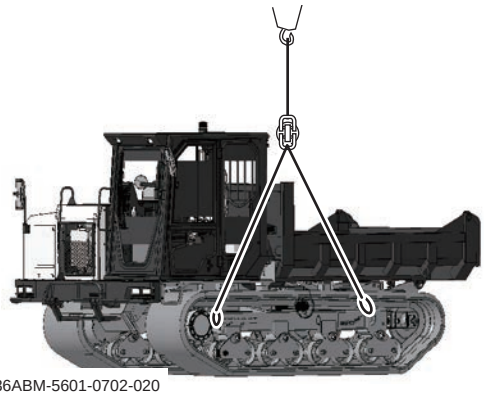
・車両を吊り上げるときは、重心位置およびバランスに注意してください。

・吊り上げ作業は必ず空車状態で行ってください。

クローラ等の足回り部品交換時

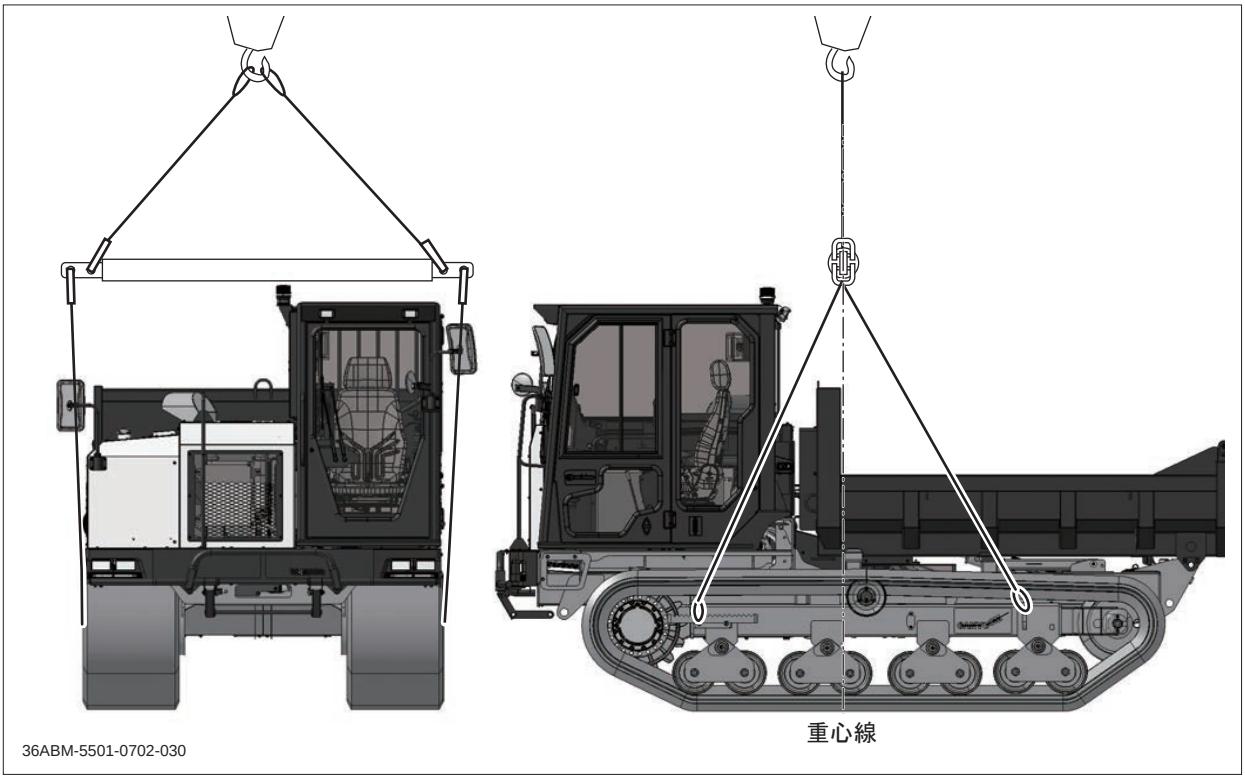


36ABM-5501-0702-010


36ABM-5601-0702-020

交換したい側のフックにスリングやワイヤをかけて車両片側を浮かせてください。

車両全体の吊り上げ



1. 十分強度のあるワイヤーロープやシャックルなどの吊り具を準備してください。
2. フレームの図に示す位置にワイヤロープを取り付けてください。
3. 吊り上げの際、車両カバーへ接触しない長さにしてください。
4. クレーンフックにワイヤロープをかけ、クローラが地面から少し離れるまで吊り上げて停止し、吊り荷のバランスを確認してください。
5. バランスがよければゆっくりと吊り上げてください。

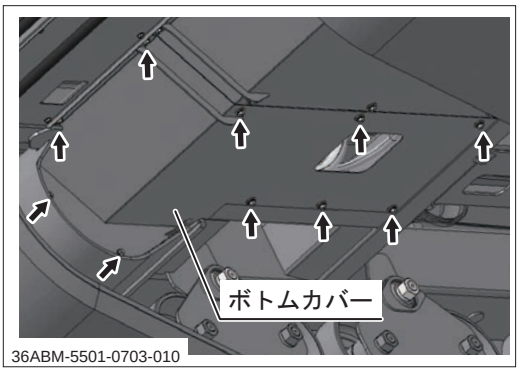
けん引

アドバイス

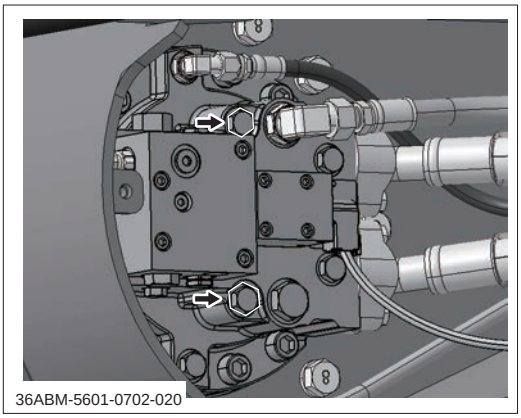
・この作業を行うためには、以下のものが必要です：

ソケットヘッド・キャップスクリュー： M10×1.5標準ピッチ、 L=100mm、2本
M10 PW(プレーンワッシャ）、外形φ24mm以下、厚さ1.5～3.0mm、2枚
（ISO 7089, 7090, 7091, 7092 M10 標準またはM10ファイン推奨）

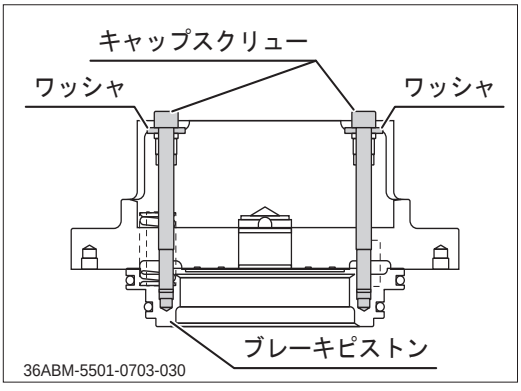
エンジン稼働時は、駐車ブレーキスイッチを[○（ＯＦＦ）]、ロックレバーを解除位置にすると、本車両をけん引することができます。（**運転と操作**☞31ページ）
エンジンを始動できない、または駐車ブレーキを解除できない場合は、以下の手順で駐車ブレーキを解除する必要があります。



1. ボルト10本を外し、モータの内側にあるボトムカバーを取り外します。



2. 駐車ブレーキリリースポートの蓋（プラグ）を取り外します。（2か所、レンチサイズ11/16インチ）



3. M10，L=100mmのボルトにワッシャを通し、駐車ブレーキリリースポートの穴にねじ込みます。（2か所）

アドバイス

・両方のボルトを均等に締めてください。均等に締めないとモータが破損することがあります。

4. 2本のボルトを、両方がそれ以上締まらなくなるまで均等にねじ込みます。この状態で駐車ブレーキが解除され、車両をけん引することができます。

アドバイス

・駐車ブレーキ・リリースポートからオイルが漏れることがあります。

5. 車両の牽引が終わり次第、M10ボルトを外し、駐車ブレーキ・リリースポートの蓋を締めてください。

アドバイス

・駐車ブレーキ・リリースポート蓋締め付けトルク：28Nm～48Nm

株式会社 筑水キャニコム

https://www.canycom.jp/

〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1

連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。